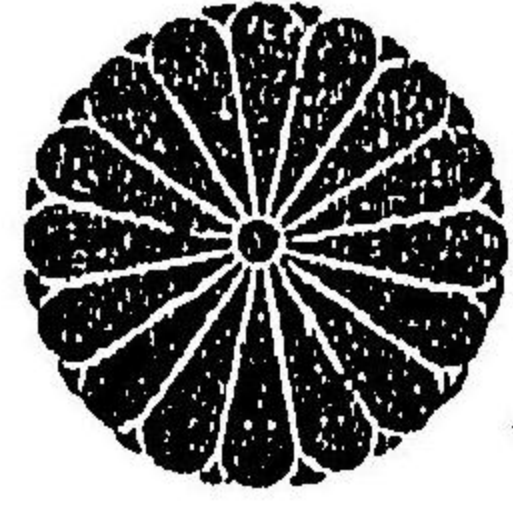


+2758
9FTR-33



大日本帝國憲法

CZ
4

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ惠撫慈愛ヲ
 ママヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ康福ヲ増進シ其ノ懿德良能ヲ發達セシムコトヲ願ヒ又其ノ
 翼贊ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ乃チ明治十四年十月十二日ノ詔命ヲ履踐
 シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ循
 行スル所ヲ知ラシム

國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將來此ノ憲法
 ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ愆ラサルヘシ

朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍内ニ於テ其ノ享
 有ヲ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス

帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有効ナラシムル
 ノ期トスヘシ

將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼續ノ子孫ハ發
 議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫
 及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ

朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲
 法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

内閣總理大臣 伯爵 黒田清隆

樞密院 議 長伯爵伊藤博文
 外務 大 臣伯爵大隈重信
 海軍 大 臣伯爵西鄉從道
 農商務 大 臣伯爵井上馨
 司法 大 臣伯爵山田顯義
 大藏大臣兼內務大臣伯爵松方正義
 陸軍 大 臣伯爵大山巖
 文部 大 臣子爵森有禮
 遞信 大 臣子爵榎本武揚

大日本帝國憲法

第一章 天皇

- 第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス
- 第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス
- 第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス
- 第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ
- 第五條 天皇ハ帝國議會ヲ協贊シ以テ立法權ヲ行フ
- 第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス
- 第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス
- 第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス

此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セザルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ

- 第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス
- 第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ズ但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特別ヲ掲ケタルモノハ各其ノ條項ニ依ル
- 第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス
- 第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム
- 第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス
- 第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス
- 第十五條 戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十六條 天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス
- 第十七條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス
- 第十八條 攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

第二章 臣民權利義務

- 第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル
- 第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ義務ニ應ジ均ク文武官ニ任セラレ及其ノ他ノ公務ニ就クコトヲ得
- 第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス
- 第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非ズシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナレ

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハルコトナレ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜

索セラレハコトナレ

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ祕密ヲ侵サルコトナレ

第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サルコトナレ

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ

有ス

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコ

トナレ

第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサルモノニ限り軍人ニ準行ス

第三章 帝國議會

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス

第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス

第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各ノ法律案ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得

其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス

第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スル

コトアルヘシ

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ

臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ

衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラレヘシ

第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ

五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ

第四十六條 兩議院ハ各々其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲ス

コトヲ得ス

第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ祕密會ト爲スコト

ヲ得

第四十九條 兩議院ハ各々天皇ニ上奏スルコトヲ得

第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得

第五十一條 兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲ケタルモノハ外内部ノ整理ニ必要ナレ

ルコトヲ得

第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ

第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ナシテ逮捕セラルコトナシ

第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

第四章 國務大臣及樞密顧問

第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス

凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

第五章 司法

第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラルコトナシ

懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ侵害セラレタルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス

第六章 會計

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス

第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協贊ヲ要セス

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歲出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歲出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫算ノ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協贊ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條 避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充テ

ル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條 國家ノ歳出歳入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其ノ検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第七十三條 將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅令ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ

此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各其ノ總員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス

出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス

皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ世クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用非タルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵守ノ効力ヲ有ス

歳出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

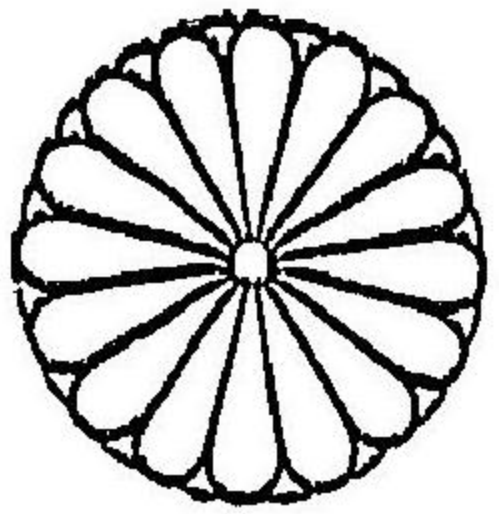
法令全書

詔勅

朕樞密顧問官陸軍中將從二位勳一等伯爵黒田清隆ヲ待ツニ特ニ大臣ノ禮ヲ以テシ茲ニ元勳優遇ノ意ヲ昭ニス

朕宮中顧問官從二位勳一等伯爵伊藤博文ヲ待ツニ特ニ大臣ノ禮ヲ以テシ茲ニ元勳優遇ノ意ヲ昭ニス

(以上官報 十一月二日)



朕祖宗ノ遺範ニ循ヒ嘉仁親王ヲ
立テ、皇太子ト爲ス茲ニ之ヲ公
布シテ周ク知悉セシム

明治二十二年十一月三日

宮内大臣子爵土方久元 奉

法令全書

法律

朕敕兵令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年一月二十一日

法律第一號(官報一月二十二日)

徵兵令

第一章 總則

第一條 日本帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務アルモノトス

第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役及國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス

現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 國民兵役ハ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ニシテ常備兵役及後備兵役ニ在ラサル者之ニ服ス

内閣總理大臣 伯爵 黒田清隆

陸軍大臣 伯爵 大山 巖

海軍大臣 伯爵 西郷從道

第六條 各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章 服役

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應ジ壯丁ノ身材醫能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應ジ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス

警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁ハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セシム但在營期限ハ一箇年以内トス

第九條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十條 二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得

第十一條 滿十七歳以上滿二十六歳以下ニシテ官立學校帝國大學 學部科及府縣立師範學校 中學校 若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試験ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其後部ヲ官給スルコトアル可シ前項ノ一年志願兵ハ特別ノ教育ヲ授ケ現役滿期ノ後二箇年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシ

滿十七歳以上二十六歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業者ハ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得其服役中ノ費用ハ當該學校ヨリ之ヲ辨償スルモノトス

前項志願兵ニシテ現役ヲ終リタル者ハ七箇年間豫備役ニ服シ三箇年間後備役ニ服ス

第十二條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ許サス

第十三條 現役中殊ニ勲務ニ熟シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十四條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度六十日以内勲務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス

第十五條 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集ス平常ニ在テ勲務演習及簡閱點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第十六條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集ス

第三章 免役延期及猶豫

第十七條 兵役ヲ免スルハ癘疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第十八條 左ニ掲グル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第一 體格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第十九條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重罪ノ爲メ訊問若クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス

第二十條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサルノ確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス其事故三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セシム

第二十一條 第十一條ニ掲グル學校ニ在學ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歲迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十六歲迄ニ止ミ又ハ二十六歲ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラステテ之ヲ徵集ス但第十一條ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス

學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歲迄徵集ヲ猶豫ス二十六歲迄ニ歸朝シ又ハ二十六歲ヲ過キ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラステテ之ヲ徵集ス但陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シタル者ハ一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第二十二條 餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長助役及收入役ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトヲ問ハス勤務演習簡點呼ノ爲メ召集スルコトナシ

第四章 豫備徵員

第二十三條 抽籤番號ノ順序ニ從ヒ毎年所要ノ現役兵員ニ超過スル壯丁ハ一箇年間^{十二月一日豫備徵員トシ}戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ又ハ其年徵集ノ兵員缺クルトキ之ヲ徵集ス

第二十四條 豫備徵員ニシテ其期限内ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第五章 雜則

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歲ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ書面ヲ以テ^{月主ニ非サル者}本籍ノ市町村長ニ届出可シ但二十歲未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス

第二十六條 徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルヲ例トス他ノ徵募區ニ寄留スル者ハ願ニ由リ其區ニ於テ徵集ニ應スルコトヲ得

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

第二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潛匿シタル者又ハ正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラステテ之ヲ徵集ス

第二十九條 現役年期ノ計算ハ總テ其入營スル年ノ十二月一日ヨリ起算シ豫備役及後備役年期ノ計算ハ其轉役スル年ノ十二月一日ヨリ起算ス第六條ニ依リ延期シタル者モ其起算法亦同シ但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其刑期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セシム

第六章 罰則

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲サハル者及正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七章 附則

第三十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年ニ限リ三月一日ヨリ同月十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ヲ除クノ外及沖繩縣並東京府管下小笠原島ニハ當分ニ之ヲ施行セシム

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトトス

第三十五條 舊令第十一條ニ依リ一箇年間陸軍現役ニ服シタル者ハ本令第十一條ニ照シ二箇年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシメ共豫備役ニ二箇年ヲ終リタル者ハ直ニ後備役ニ服セシメ通シテ七箇年トス

第三十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ仍ホ在校ノ者ハ該徵員タルコトヲ止メ滿二十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第四十條 第三十六條第三十七條第三十八條及第三十九條ニ掲グル者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事故六箇年以内ニ止ミタルトキ又ハ六箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十二條 舊令第二十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間明治二十一年起算スニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ト爲リ在校セサル者及舊令第三十二條ニ依リ第二豫備徵員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員ト爲リタル者亦同

第四十四條 明治十二年第四十六號布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依ル

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲グル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲グル徵集猶豫ノ者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ

前項ノ届出ヲ爲サ、ル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サシテ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分ス可シ

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ議院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ貴族院及衆議院成立ノ日ヨリ各本法ニ依リ施行スヘキコトヲ命メ

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

- 内閣總理大臣 伯爵黒田清隆
- 樞密院議長 伯爵伊藤博文
- 外務大臣 伯爵大隈重信
- 海軍大臣 伯爵西郷從道
- 農商務大臣 伯爵井上馨
- 司法大臣 伯爵山田顯義
- 大藏大臣兼内務大臣 伯爵松方正義
- 陸軍大臣 伯爵大山巖
- 文部大臣 伯爵森有禮
- 遞信大臣 伯爵榎本武揚

法律第二號
議院法

第一章 帝國議會ノ召集成立及開會

第一條 帝國議會召集ノ勅諭ハ議會ノ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ

第二條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ
第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各三名ノ候補者ヲ選舉セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スヘシ

議長副議長ノ勅任セラルハマテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ

第四條 各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部部長一名ヲ部員中ニ於テ互選スヘシ

第五條 兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ

第六條 前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ

第二章 議長書記官及經費

第七條 各議院ノ議長副議長ハ各一員トス

第八條 衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第九條 衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ職位トナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

第十條 各議院ノ議長ハ其ノ議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス

第十一條 議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス

第十二條 議長ハ常任委員會及特別委員會ニ出席シ發言スルコトヲ得但シ表決ノ數ニ預カラス

第十三條 各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス

第十四條 各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ選舉シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘシ

第十五條 各議院ノ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セラルハマテハ仍其ノ職務ヲ繼續スヘシ

繼續スヘシ

第十六條 各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク

書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス

第十七條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス

書記官ハ議事録及其ノ他ノ文書案ヲ作り事務ヲ掌理ス

書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ス

第十八條 兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第三章 議長副議長及議員歳費

第十九條 各議院ノ議長ハ歳費トシテ四千圓副議長ハ二千圓貴族院ノ被選及勅任議員及衆議院ノ議員ハ八百圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ケ但シ召集ニ應セサル者ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

議長副議長及議員ハ歳費ヲ辭スルコトヲ得ス

官吏ニシテ議員タル者ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第二十五條ノ場合ニ於テハ第一項歳費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ一日五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受ク

第四章 委員

第二十條 各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三類トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選舉シ一會期中其ノ任ニ在ルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ選舉ヲ以テ特ニ付託ヲ受クルモノトス

第二十一條 全院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ之ヲ選舉ス

常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互選ス

第二十二條 全院委員會ハ議院三分ノ一以上常任委員會及特別委員會ハ其ノ委員半數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聽ヲ禁ス但シ委員會ノ決議ニ由リ議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第二十四條 各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第二十五條 各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

第五章 會議

第二十六條 各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス

議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ但シ他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但シ政府ノ要求若ハ議員十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條 政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スレテ之ヲ議決スルコトヲ得ス但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ二十八

以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第三十條 政府ハ何時メリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得

第三十一條 凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ

但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ第五十四條第二項ノ規定ニ依ル

第三十二條 兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラルハモノハ次ノ會期マテニ公布セラルヘシ

第六章 停會閉會

第三十三條 政府ハ何時メリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得

議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

第三十四條 衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ前條第二項ノ例ニ依ラス

第三十五條 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ後會ニ繼續セス但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ舉行スヘシ

第七章 秘密會議

第三十七條 各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停ムルコトヲ得

一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ

二 政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

第三十九條 秘密會議ハ刊行スルコトヲ許サス

第八章 豫算案ノ確定

第四十條 政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取リタル日ヨリ十五日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ

第四十一條 豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第九章 國務大臣及政府委員

第四十二條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲ニ議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十三條 議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十四條 委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條 國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數ニ預カラス

第四十六條 常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國務大臣及政府委員ニ報知スヘシ

第四十七條 議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及政府委員ニ送付スヘシ

第十章 質問

第四十八條 兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サントスルトキハ三十人以上ノ贊成者アルヲ要ス

質問ハ簡明ナル主意書ヲ作り贊成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第四十九條 質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辯ヲ爲シ又ハ答辯スヘキ期日ヲ定メ若答辯ヲ爲サハルトキハ其ノ理由ヲ示明スヘシ

第五十條 國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議ノ動議ヲ爲スコトヲ得

第十一章 上奏及建議

第五十一條 各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得

各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ

第五十二條 各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得

第十二章 兩議院關係

第五十三條 豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レヲ先ニスルモ便宜ニ依ル

第五十四條 甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議院ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ

乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スヘシ

第五十五條 乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ同付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若シ之ニ同意セサルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ

甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十六條 兩院協議會ハ兩議院ヨリ各十人以下同數ノ委員ヲ選舉シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取り又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スヘシ

協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ動議ヲ爲スコトヲ許サス

第五十七條 國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十八條 兩院協議會ハ傍聽ヲ許サス

第五十九條 兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用非可非同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六十條 兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各一員ヲ互選シ每會更代シテ席ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ規程ハ其ノ協議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第十三章 請願

第六十二條 各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルヘシ

第六十三條 請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査セシム

請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下スヘシ

第六十四條 請願委員ハ請願文書表ヲ作り其ノ要領ヲ録シ每週一回議院ニ報告スヘシ

請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員二十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付スヘシ

第六十五條 各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得

第六十六條 法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十七條 各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第六十八條 請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用ウヘシ若シ請願ノ名義ニ依ラス若ハ其ノ體式ニ違フモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十九條 請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用非政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用非ルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第七十條 各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第七十一條 各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ相干預セス

第十四章 議院ト人民及官廳地方議會トノ關係

第七十二條 各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス

第七十三條 各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ス

第七十四條 各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ政府ハ秘密ニ涉ルモノヲ除ク外其ノ求ニ應スヘシ

第七十五條 各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ得ス

第十五章 退職及議員資格ノ異議

第七十六條 衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職

務ニ任セラレタルトキハ退職者トス

第七十七條 衆議院ノ議員ニシテ選舉法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス

第七十八條 衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付與議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ
審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

第七十九條 裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審査
スルコトヲ得ス

第八十條 議員其ノ資格ナキコトヲ證明セラルハ至ルマテハ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失
ハス但シ自身ノ資格審査ニ關ル會議ニ對シテハ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ
得ス

第十六章 請假辭職及初限

第八十一條 各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ請假ヲ許可スルコトヲ得其ノ一週間ヲ超ユ
ルモノハ議院ニ於テ之ヲ許可ス期限ナキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

第八十二條 各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ届出スシテ會議又ハ委員會ニ出席スルコト
ヲ得ス

第八十三條 衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得

第八十四條 何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ關員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ内務大臣ニ通牒シ
補闕選舉ヲ求ムヘシ

第十七章 紀律及警察

第八十五條 各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲内部警察ノ權ハ此ノ法律及各議院ニ於テ定ム
ル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條 各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム

第八十七條 會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ
警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言
ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十八條 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ
得

第八十九條 傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ
之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十條 議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコ
トヲ得

第九十一條 各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言辭論說ヲ爲スコトヲ得ス

第九十二條 各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用非ルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第九十三條 議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ
私ニ相報復スルコトヲ得ス

第十八章 懲罰

第九十四條 各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス

第九十五條 各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審査スル爲ニ懲罰委員ヲ設ク
懲罰事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス
各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

第九十六條 懲罰ハ左ノ如シ

- 一 公開シタル議場ニ於テ離席ス
- 二 公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム
- 三 一定ノ時間出席ヲ停止ス
- 四 除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第九十七條 衆議院ハ除名ノ議員再選ニ當ル者ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十八條 議員ハ二十人以上ノ贊成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲スコトヲ得

懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十九條 議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間内ニ召集ニ應セサルニ由リ

又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ出席スルニ由リ若ハ請假ノ期限ヲ過ヤメルニ由リ續

長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ其ノ招狀ヲ受ケタル後一週間内ニ仍故ナク出席セサル者ハ貴族院ニ於テ

ハ其ノ出席ヲ停止シ上奏シテ勅裁ヲ請フヘク衆議院ニ於テハ之ヲ除名スヘシ



朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ衆議院議員選舉法及附錄ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ帝國議會ヲ召集スルノ年ヨリ本法ニ依リ選舉ヲ施行セシムヘキコトヲ命ス

御名 御璽

- 内閣總理大臣 伯爵黑田清隆
- 樞密院 長 伯爵伊藤博文
- 外務大臣 伯爵大隈重信
- 海軍大臣 伯爵西鄉從道
- 農商務大臣 伯爵井上馨
- 司法大臣 伯爵山田顯義
- 大藏大臣兼內務大臣 伯爵松方正義
- 陸軍大臣 伯爵大山巖
- 文部大臣 伯爵森有禮
- 逓信大臣 伯爵榎本武揚

明治二十二年二月十一日

法律第三號 衆議院議員選舉法

第一章 選舉區畫

第一條 衆議院ノ議員ハ各府縣ノ選舉區ニ於テ之ヲ選舉セシム共ノ選舉區及各選舉區ニ於テ選舉スヘキ定員ハ此ノ法律ノ附錄ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 府縣知事ハ其ノ府縣ノ選舉區ノ選舉ヲ監督ス

一 選舉區ノ選舉ハ郡長又ハ市長其ノ選舉長トナリ之ヲ管理ス

第三條 一 選舉區ニシテ數都市ニ沙ルトキハ府縣知事ハ其ノ郡長又ハ市長ノ一人ヲ命シ選舉長トシラシムヘシ

第四條 一市ノ域内ニ於テ敷選舉區アルトキハ府縣知事ハ區長ヲシテ其ノ選舉長ヲラシムヘシ

第二章 選舉人ノ資格

第六條 選舉人ハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

第一 日本臣民ノ男子ニシテ年齡滿二十五歲以上ノ者

第二 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ仍引續キ住居スル者

第三 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限

第七條 家督ニ由リ財産ヲ相續シタル者ハ其ノ財産ニ付前財產主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅資格ニ算入ス

第三章 被選人ノ資格

第八條 被選人タルコトヲ得ル者ハ日本臣民ノ男子滿三十歲以上ニシテ選舉人名簿調製ノ期日ヨ

リ滿一年以上其ノ選舉府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者タルヘシ

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限

第九條 宮内官裁判官會計検査官收稅官及警察官ハ被選人タルコトヲ得ス
前項ノ外ノ官吏ハ其ノ職務ニ妨ケサル限ハ職員ト相兼ヌルコトヲ得

第十條 府縣及郡ノ官吏ハ其ノ管轄區域内ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十一條 選舉ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其ノ選舉區ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ敎師ハ被選人タルコトヲ得ス

第十三條 府縣會ノ議員ニシテ衆議院ノ議員ニ選舉セラレ當選ヲ承諾シタルトキハ其ノ前職ヲ辭スヘキモノトス

第四章 選舉人及被選人ニ通スル規定

第十四條 左ノ項ノ一ニ觸ル、者ハ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

一 瘋癲白癡ノ者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

三 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者

四 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

五 舊法ニ依リ一年以上ノ懲役若ハ國事犯禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

六 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

七 選舉ニ關ル犯罪ニ由リ選舉權及被選舉權ノ停止中ノ者

第十五條 陸海軍軍人ハ現役中選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

第十六條 華族ノ當主ハ衆議院議員ノ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

第十七條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス

第五章 選舉人名簿

第十八條 選舉長ハ毎年四月一日ヲ期トシ各町村長ヲレテ一ノ投票區域内ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ヲ調査シ人名簿ニ本ヲ調製シ同月二十日マテニ共ノ一本ヲ差出サレムヘシ
選舉人名簿ハ選舉人ノ姓名官位職業身分住所生年月納ムル所ノ直接國稅ノ總額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ

第十九條 市ニ於テハ左ノ方法ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第一 一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ選舉長共ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二 市内ニアル數區ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ各區長ヲレテ共ノ區内ノ人名簿ヲ調製シ選舉長ニ差出サレムヘシ

第三 郡市ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テ郡長共ノ選舉長トナリタルトキハ市長ヲレテ共ノ人名簿ヲ調製シ之ヲ差出サレムヘシ

第四 第三ノ場合ニ於テ市長共ノ選舉長トナリタルトキハ市長共ノ市内ノ人名簿ヲ調製スヘシ
第二十條 選舉人共ノ住居スル投票區域ノ外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ納稅地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ノ體狀ヲ得テ選舉人名簿調製ノ期日マテニ共ノ投票ヲ管理スル町村長又ハ市長若ハ區長ニ差出スヘシ

第二十一條 選舉長ハ各町村長又ハ市長若ハ區長ヨリ差出シタル選舉人名簿ヲ合シ一選舉區ヲ以テ一冊トシ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ備置キ共ノ副本ヲ府縣知事ニ送致スヘシ
第二十二條 選舉長ハ毎年五月五日ヨリ十五日間一選舉區選舉人名簿ノ寫ヲ共ノ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ縱覽セシムヘシ
第二十三條 凡テ選舉資格アル者選舉人名簿ニ於テ人名ノ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルト

キハ其理由書及證據ヲ具ヘテ縱覽期限内ニ選舉長ニ申立テ其ノ改正ヲ求ムルコトヲ得
縱覽期限ヲ經過シタル後前項ノ申立ヲ爲スモ其ノ効ナシ

第二十四條 選舉長ニ於テ脱漏ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證據ヲ審查シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若共ノ申立ヲ以テ正當ナリト判定シタルトキハ直ニ共ノ人名簿記載シ其ノ由ヲ當人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

第二十五條 選舉長ニ於テ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證據ヲ審查シ必要ナル場合ニ於テハ申立人又ハ被告人ヲ召喚審問シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若誤載ナリト判定シタルトキハ直ニ之ヲ削除シ其ノ由ヲ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

第二十六條 申立人又ハ被告人ニ於テ選舉長ノ判定ニ服セサルトキハ選舉長ヲ被告トシ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第二十八條 前條ニ於ケル始審裁判所ノ裁判ハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院ニ上告スルコトヲ得

第二十九條 選舉人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ調製ノ日マテ之ヲ據置クヘシ但シ裁判官渡書ニ依リ改正スヘキモノハ選舉長ニ於テ其ノ言渡書ヲ受取リタル時ヨリ二十四時内ニ之ヲ改正シ其ノ由ヲ申立人又ハ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

第六章 選舉ノ期日及投票所

第三十條 選舉ノ投票ハ通常七月一日ニ之ヲ行フ但シ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅令ヲ以テ臨時選舉ノ期日ヲ定メ少クトモ三十日以前ニ公布スヘシ

第三十一條 投票所ハ町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ町村長之ヲ管理ス

第三十二條 一町村ニ於テ選舉人少數ニシテ一ノ投票所ヲ設クルニ足ラサルトキハ數町村ヲ合併スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ認可ヲ經テ合併ノ町村及投票所並ニ投票所管理ノ町村長ヲ指定スヘシ

第七章 投票

第三十三條 町村長ハ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人二名以上五名以下ヲ定メ通クトモ選舉ノ期日ヨリ二日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ

立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十四條 投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル

第三十五條 投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ二種ノ輪ヲ設ケ其ノ一ハ町村長之ヲ管守シ其ノ一ハ立會人ニ之ヲ管守スヘシ

第三十六條 町村長ハ投票ノ初ニ當リ立會人ト共ニ參會シタル選舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示スヘシ

第三十七條 選舉人ハ選舉ノ當日日本人自ラ投票所ニ至リ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票スヘシ

第三十八條 投票用紙ハ各府縣各一定ノ式ヲ用非選舉ノ當日投票所ニ於テ町村長ヨリ之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ

選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被選人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名住所ヲ記載シテ捺印スヘシ

第三十九條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由ヲ申立ツルトキハ町村長ハ吏員ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀ミ開カセ捺印投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十條 二人以上ノ職員ヲ選舉スヘキ選舉區ニ於テハ連名投票ヲ用フヘシ

第四十一條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ記載セラレハキ裁判言渡書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ至ル者アルトキハ町村長ハ投票用紙ヲ交付シ投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十二條 投票終ルノ時期ニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ由ヲ告ケ投票函ヲ閉鎖スヘシ投票函閉鎖ノ後ハ總テ投票スルコトヲ許サズ

第四十三條 町村長ハ投票明細書ヲ作り投票ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名スヘシ

第四十四條 町村長ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函及投票明細書ヲ併セテ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ送致スヘシ

第四十五條 一選舉區内ニアル島嶼ニシテ前條ノ期限内ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情況アルトキハ府縣知事ハ人名簿確定ノ日ヨリ選舉ノ期日マテノ間ニ於テ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ選舉會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第八章 選舉會

第四十六條 選舉會ハ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ之ヲ開ク

第四十七條 選舉長ハ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ選舉委員二名以上七名以下ヲ定ムヘシ

第四十八條 選舉長ハ投票函送達ノ翌日選舉委員立會ノ上各投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載スヘシ

第四十九條 總數ノ計算ヲ終リタルトキハ選舉長ハ選舉委員ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第五十條 各選舉區ノ選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條 左ニ掲クル投票ハ無効トス

一 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但シ裁判官渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 成規ノ用紙ヲ用非サルモノ

三 選舉人自己ノ姓名ヲ記載セサルモノ

四 資格ナキ被選人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票ニ列記スル人員中資格アル者ニ付テハ其ノ効アルモノトス

五 硯字又ハ汚染塗抹毀損ニ依リ記載スル所ノ選舉人又ハ被選人ノ姓名ヲ認知スヘカラサルモノ但シ通常ノ假名字ヲ用非又ハ硯字ニ係ルモ明ニ其ノ姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第三十八條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ被選人ノ指名ヲ誤ラサル爲ニ其ノ官位職業身分住所ヲ附記シ又ハ敬稱ヲ用非タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選舉委員ノ意見ヲ開キ選舉長之ヲ決定ス此ノ決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五十三條 無効ノ投票ハ抹線ヲ加ヘ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載シ一箇年間保存シ期限ヲ經過シ

タル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十四條 一投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員ヨリ多キ被選人ノ姓名ヲ記載シタルトキハ其ノ定員ニ超エタル人名ヲ末尾ヨリ除却スヘシ

連名投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員ニ足ラサルトキハ現ニ記載シタル者ノミヲ計算スヘシ但シ一人ノ姓名ヲ複記シタル者ハ一人トシテ之ヲ計算スヘシ

第五十五條 投票ハ六十日間郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十六條 選舉ニ關リ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ第五十三條第五十五條ノ期限ヲ經過スルモ裁判確定ニ至ルマテ其ノ投票ヲ保存スヘシ

第五十七條 選舉長ハ選舉明細書ヲ作り選舉點檢ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ選舉委員ト共ニ署名シ之ヲ保存スヘシ

第九章 當選人

第五十八條 投票總數ノ最多數ヲ得タル者ハ之ヲ當選人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十九條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ姓名及投票ノ數ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十條 府縣知事前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ各當選人ニ通知シ其ノ姓名ヲ管内ニ告示スヘシ

第六十一條 當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十二條 一人ニシテ數選舉區ノ當選人トナリタル者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ何レノ選舉區ノ當選ヲ承諾スル旨ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十三條 當選人其ノ府縣内ニ在ル者ハ十日以内其ノ府縣外ニ在ル者ハ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲サハルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ

第六十四條 當選人ニシテ其ノ當選ヲ辭シ又ハ期限内ニ其ノ當選ノ承諾ヲ届出サルトキハ府縣知事ハ選舉ノ期日ヲ定メ其ノ選舉長ニ命シ再ヒ選舉ヲ行ハシムヘシ但シ第五十八條第二項ノ場合ニ於テ抽籤ニ依リ當選ヲ得タル者其ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ抽籤ニ依リ當選ヲ失ヒタル者ヲ以テ當選人ト定ムヘシ

第六十五條 各選舉區ノ當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選證書ヲ付與シ及管内ニ告示シ並ニ當選人ノ資格ヲ録シテ内務大臣ニ具申スヘシ

第十章 職員ノ任期及補選

第六十六條 職員ノ任期ハ四箇年トス但シ任期ヲ終リタル後仍選舉ニ應スルコトヲ得

第六十七條 職員ノ關員アルニ由リ内務大臣ヨリ補選選舉ヲ開クヘキ旨ヲ命セラレタルトキハ府縣知事ハ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ關員ノ選舉區ニ限リ臨時選舉ヲ行ヒ補選職員ヲ選舉セシムヘシ

第六十八條 補選職員ノ任期ハ前職員ノ任期ニ依ル

第十一章 投票所取締

第六十九條 投票管理ノ町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ニ付スルコトヲ得

第七十條 凡テ武器又ハ兇器ヲ携帯スル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十一條 選舉人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十二條 投票所ニ於テハ一切ノ演說討論及喧譁ニ涉リ又ハ他人ノ投票ヲ勸誘スルコトヲ禁ス

第七十三條 投票所ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ町村長ハ之ヲ警戒シ其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所ノ外ニ退出セシムヘシ

第七十四條 投票所ノ外ニ退出セシメタル者ハ犯罪者ヲ除ク外其ノ投票ヲ爲サシムル爲ニ再ヒ投票所ノ内ニ呼入ルコトヲ得

第七十五條 投票所ニ參會シタル選舉人ニシテ刑法又ハ此ノ法律ノ罰則ヲ犯シタル者ハ投票スルコトヲ禁シ其ノ姓名事由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第七十六條 投票ニ關ル異議ノ申立ニ付町村長ノ決定ニ對シテハ投票所ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十七條 選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ選舉會ノ參觀ヲ求ムル者ハ總テ第六十九條ヨリ第七十三條ニ至ルマテノ例ニ照シ選舉長之ヲ處分スヘシ

第十二章 當選訴訟

第七十八條 各選舉區ニ於テ當選ヲ失ヒタル者當選人ノ當選ヲ無効トスルノ理由アリト認ムルトキハ當選人ヲ被告トシ第六十五條ニ掲ゲタル當選人ノ姓名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

其ノ期限ヲ經過シタル後出訴スルモ其ノ効ナシ

第七十九條 原告人ハ訴訟狀ト共ニ保證金トシテ金三百圓又ハ之ニ相當スル公債證書ヲ控訴院書記局ニ預置クヘシ

第八十條 原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判官渡ノ日ヨリ七日以内ニ一切ノ裁判費用ヲ納完セサルトキハ保證金ヨリ之ヲ控除シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徴スヘシ

第八十一條 同一ノ當選人ニ對シ二人以上ノ原告人訴訟ヲ爲シタルトキハ控訴院ハ一ノ裁判官渡

書ヲ以テ各訴訟人ニ宣告スルコトヲ得

第八十二條 審判中衆議院解散ノ命アルトキハ控訴院ハ其ノ訴訟ヲ棄却スヘシ

第八十三條 原告人訴訟ヲ願下クルトキハ同時ニ其ノ由ヲ新聞紙又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第八十四條 控訴院ハ當選訴訟ヲ審判スルニ當リ本訴ニ關係スル刑法又ハ此ノ法律ノ犯罪者ニ對シ直ニ處刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ檢察官ヲシテ立會ハシムヘシ

當選訴訟ニ關係セサル場合ニ於ケル此ノ法律ノ犯罪者ハ所轄刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第八十五條 控訴院ニ於テ當選訴訟ヲ判定シタルトキハ其ノ裁判言渡書ノ原本ヲ内務大臣ニ送付スヘシ若衆議院開會スルトキハ併セテ之ヲ議長ニ送付スヘシ

第八十六條 當選訴訟ニ付控訴院ノ裁判ニ對シテハ大審院ニ上告スルコトヲ得

第八十七條 訴訟ノ目的タル當選人ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ衆議院ニ列席スルノ權ヲ失ハス

第八十八條 當選訴訟ニ付本章ニ規定シタルモノ、外總テ普通ノ訴訟手續ニ依ル

第十三章 罰則

第八十九條 納税額年齡住所及其ノ他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第九十一條 直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百二十四條ノ例ヲ以テ論ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サ、ル者亦同シ

第九十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十三條 選舉人ニ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十四條 選舉人ヲ強逼シ又ハ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者武器又ハ兇器ヲ攜帶シタルトキハ各、木刑ニ一等ヲ加フ

第九十五條 選舉ノ際管理若ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者武器又ハ兇器ヲ攜帶シタルトキハ各、木刑ニ一等ヲ加フ

第九十六條 多衆ヲ嘯聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁錮ニ處ス

共情ヲ知テ嘯聚ニ應レ勢ヲ助ケタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス
犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帶シタルトキハ各木刑ニ一等ヲ加フ

第九十七條 演說又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ教唆シ前二條ノ罪ヲ犯サレタル者ハ
刑法第百五條ノ例ニ依ル共ノ教唆ノ効ナキ者モ仍木刑ニ二等又ハ三等ヲ減シ處斷ス

第九十八條 戎器又ハ兇器ヲ携帶シテ投票所若ハ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ
罰金ニ處ス

第九十九條 當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ
當選ハ無効トス

第一百條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依リ選舉人タルコトヲ得サル者
投票ヲ爲シタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百一條 前數條ノ罪ヲ犯レ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年
以上七年以下選舉權及被選舉權ヲ停止ス

第一百二條 立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ缺クトキハ五圓以上五十圓以
下ノ罰金ニ處ス

第一百三條 本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各其ノ條ニ依リ重キニ從テ處斷ス
第一百四條 凡テ選舉ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第一百五條 此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及選舉會場ニ貼示スヘシ
第十四條 補則

第一百六條 市ニ於テハ一市ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ市長兼

章

テ之ヲ掌ルヘシ

第四條ノ場合ニ於テハ一選舉區ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ
區長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第七條 前條ノ場合ニ於テハ市長又ハ區長ハ其ノ管理スル選舉區内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會
人三名以上七名以下ヲ定メ通クトモ選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ木人ニ通知シ選舉ノ當日選
舉管理ノ市役所又ハ區役所ニ參會セシムヘシ
立會人ハ投票ニ立會ヒ併セテ投票ヲ點檢スヘシ

第八條 此ノ場合ニ於ケル選舉明細書ハ併セテ投票ノ事項ヲ記載スヘシ

第九條 島司ヲ置ク地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル選舉長ノ職務ハ島司之ヲ掌ルヘシ
町村制ヲ施行セサル町村ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル町村長ノ職務ハ戶長之ヲ掌ル
ヘシ

第十條 選舉人名簿調製ノ初年ニ限リ所得稅法施行以來第六條第八條ニ規定シタル納稅額ヲ引
續キ納完シタル者ハ其ノ納稅資格ノ期限ニ充ツルモノト見做スヘシ

第十一條 北海道沖繩縣及小笠原島ニ於テハ將來一段ノ地方制度ヲ施行スルノ時ニ至ルマテ此
ノ法律ヲ施行セシム

衆議院議員選舉法附錄

東京府 議員總數十二人

區七第	區六第	區五第	區四第	區三第	區二第	區一第
神田區	淺草區	深川區	日本橋區	京橋區	芝區	赤坂區
一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人

區八第	區九第	區十第	區一十第	區二十第	區一第	區二第
下谷區	小石川區	東多摩區	南足立區	荏原區	上京區	下京區
一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人

京都府 議員總數七人

區三第	區四第	區五第	區六第	區一第	區二第
愛野區	宇治區	桑田區	加佐區	西區	北東區
一人	一人	二人	一人	一人	一人

大阪府 議員總數十人

區三第	區四第	區五第	區六第	區七第
南區	西成區	島上區	島下區	安南區
一人	二人	一人	一人	一人

區八第	區九第	區一第	區二第	區三第	區四第	區五第
大塚區	日南區	橫濱區	久其坂區	南多摩區	西多摩區	北多摩區
一人	一人	一人	一人	二人	一人	一人

神奈川縣 議員總數七人

區六第	區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第
大住區	神戶區	武原區	川邊區	氷上區	八木區	加東區
一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人

兵庫縣 議員總數十二人

長崎縣 議員總數七人		區一第 西長 彼崎 郡區	區十第 三津 原郡	區九第 朝發二七山氣美城 來父力美石多含崎 郡郡郡郡郡郡郡	區八第 央佐赤掛掛 栗用鐵四東 郡郡郡郡郡	區七第 神神飾飾 西東西東 郡郡郡郡	一人	二人	二人	二人	一人				
新潟縣 議員總數十三人		區二第 東北 海原 郡郡	區一第 新潟 海原 郡區	區六第 下上 縣縣 郡郡	區五第 南松 浦郡	區四第 石登北 田岐浦 郡郡郡	區三第 南高 來郡	區二第 北東 高彼 來作 郡郡	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人
埼玉縣 議員總數八人		區九第 羽加 茂太 郡郡	區八第 西中 野野 城城 郡郡	區七第 東中南 野魚沼 城沼郡 郡郡	區六第 刈羽 郡	區五第 三古 島志 郡郡	區四第 南浦 原郡	區三第 中新 原郡	一人	二人	二人	一人	一人	一人	一人

群馬縣 議員總數五人		區一第 北利 勢多 郡郡	區五第 秩那賀兒 父珂美玉 郡郡郡	區四第 男榎橋大 倉澤羅里 郡郡郡	區三第 中北南 葛葛玉 飾飾郡	區二第 比橫高入 企見野間 郡郡郡	區一第 新北 座立 郡	一人	一人	二人	二人	二人	一人		
千葉縣 議員總數九人		區三第 香取 郡	區二第 南地下 相馬生 郡郡	區一第 市千 原菜 郡郡	區五第 碓北 水甘 郡嶺 郡	區四第 吾片西 妻間馬 郡郡郡	區三第 南多綠 野波佐 郡郡郡	區二第 邑山新 樂田田 郡郡郡	一人	二人	一人	一人	一人	一人	一人
茨城縣 議員總數八人		區二第 那久多 珂慈賀 郡郡	區一第 鹿鹿 行力島 郡郡	區八第 長初平 狹夷房 郡郡郡	區七第 天周望 羽准隆 郡郡郡	區六第 長上庚 柄地生 郡郡郡	區五第 武山 射邊 郡郡	區四第 匝海 瑾上 郡郡	二人	二人	一人	一人	一人	一人	一人

區三第 真壁郡	區四第 豐城郡 岡田郡 西條郡 袋井郡	區五第 新治郡 統河郡	區六第 信太郡 河內郡 北相馬郡	栃木縣 議員總數五人	區一第 芳賀郡	區二第 上野郡 下都賀郡 寒川郡	區三第 安蘇郡 足利郡 澁田郡
一人	一人	一人	一人	一人	一人	二人	一人
區四第 那須谷郡	奈賀縣 議員總數四人	區一第 添上郡 山邊下郡 平野郡	區二第 式上郡 式下郡 高市郡 高島郡 葛城郡 忍海郡	區三第 吉野郡	三重縣 議員總數七人	區一第 安志郡	
一人	一人	一人	二人	一人	一人	一人	
區二第 三鹿郡 鹿野郡 河津郡	區三第 桑名郡 員辨郡 朝日郡	區四第 飯高郡 飯野郡 多氣郡	區五第 度會郡 英志郡 北牟婁郡 南牟婁郡	區六第 阿拜郡 山田郡 伊賀郡	愛知縣 議員總數十二人	區一第 名古屋區	
一人	一人	一人	二人	一人	一人	一人	

區二第 愛知郡	區三第 東春日井郡 西春日井郡	區四第 丹羽郡 栗原郡	區五第 中島郡	區六第 海東郡 海西郡	區七第 知多郡	區八第 額田郡 幡豆郡	區九第 額田郡 東加茂郡 西加茂郡
一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人
區十第 北設樂郡 南設樂郡 寶飯郡	區一十第 八雲郡 名張郡	靜岡縣 議員總數八人	區一第 安波郡	區二第 富原郡 麻土郡	區三第 志津郡	區四第 核野郡 佐野郡 城東郡	區五第 周智郡 田名郡 山田郡
一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人
區二第 三鹿郡 鹿野郡 河津郡	區三第 桑名郡 員辨郡 朝日郡	區四第 飯高郡 飯野郡 多氣郡	區五第 度會郡 英志郡 北牟婁郡 南牟婁郡	區六第 阿拜郡 山田郡 伊賀郡	滋賀縣 議員總數五人	區一第 高島郡	
一人	一人	一人	二人	一人	一人	一人	

<p>岐阜縣 議員總數七人</p>					
區二第	區三第	區四第	區一第	區二第	區三第
甲賀郡 栗太郡	犬上郡 神時郡 愛知郡 神生郡	四日市郡 東海郡 伊香郡 阪田郡	厚見郡 各務郡 不破郡 安八郡	津市郡 下石津郡 多石津郡 上石津郡 羽島郡 中島郡	
一人	一人	一人	一人	一人	一人
<p>長野縣 議員總數八人</p>					
區四第	區五第	區六第	區七第	區一第	區二第
大野郡 池田郡 山田郡 山縣郡	武儀郡 上儀郡 武上郡 武茂郡	加茂郡 可兒郡 土岐郡 那岐郡	大野郡 益田郡 吉田郡	上水内郡 更級郡 下高井郡 上高井郡 下高井郡	小縣郡 埴科郡
一人	一人	一人	一人	一人	一人
<p>宮城縣 議員總數五人</p>					
區四第	區五第	區六第	區七第	區一第	區二第
東筑前郡 南筑前郡 北筑前郡 安盛郡	南佐久郡 北佐久郡	上伊都郡 諏訪郡	下伊都郡	名取郡 宮城郡 柴田郡 刈田郡 伊具郡 夏川郡 加美郡 志田郡 遠田郡	
二人	一人	一人	一人	一人	一人

<p>福島縣 議員總數七人</p>					
區四第	區五第	區一第	區二第	區三第	區四第
原郡 米原郡 登原郡 桃生郡 杜鹿郡 木吉郡	伊達郡 伊達郡	安達郡 安達郡	田村郡 田村郡 盛岡郡 東川郡 西川郡 石川郡	南會津郡 北會津郡 大沼郡 河沼郡	
一人	一人	一人	一人	二人	二人
<p>巖手縣 議員總數五人</p>					
區五第	區一第	區二第	區三第	區四第	
前野郡 磐前郡 磐城郡 磐梯郡 檜木郡 宇都宮郡	南巖手郡 北巖手郡 二戶郡	東閉伊郡 中閉伊郡 北閉伊郡 南閉伊郡 北九戸郡 南九戸郡	禊賀郡 和賀郡 西和賀郡 南和賀郡	江刺郡 氣仙郡	
一人	一人	一人	一人	一人	
<p>山形縣 議員總數六人</p>					
區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第
東津輕郡 北津輕郡 南津輕郡 三戶郡	北津輕郡 南津輕郡	中津輕郡 西津輕郡	東村山郡 南村山郡 西村山郡 東村山郡	東田川郡 西田川郡 飽田郡	
二人	一人	一人	二人	一人	二人

秋田縣 議員總數五人 區一第 南秋田郡 一人 區二第 山本郡 一人 區三第 鹿角郡 一人 區四第 北秋田郡 一人		福井縣 議員總數四人 區一第 大野郡 一人 區二第 足羽郡 一人 區三第 津幡郡 一人 區四第 平越郡 一人		石川縣 議員總數六人 區一第 石川郡 二人 區二第 金澤郡 一人 區三第 能登郡 一人 區四第 江沼郡 一人 區五第 加賀郡 一人 區六第 野野村郡 一人		鳥取縣 議員總數三人 區一第 鳥取郡 一人 區二第 美作郡 一人 區三第 美都郡 一人 區四第 倉吉郡 一人	
富山縣 議員總數六人 區一第 富山郡 二人 區二第 小矢野郡 一人 區三第 新川郡 一人 區四第 南砺郡 一人 區五第 石川郡 一人 區六第 加賀郡 一人		島根縣 議員總數六人 區一第 邑根郡 一人 區二第 秋鹿郡 一人 區三第 意智郡 一人 區四第 出雲郡 一人 區五第 雲南郡 一人 區六第 石見郡 一人		廣島縣 議員總數十人 區一第 安藝郡 二人 區二第 廣島郡 一人 區三第 尾道郡 一人 區四第 竹原郡 一人 區五第 府中郡 一人 區六第 高田郡 一人 區七第 加茂郡 一人		岡山縣 議員總數八人 區一第 邑根郡 一人 區二第 秋鹿郡 一人 區三第 意智郡 一人 區四第 出雲郡 一人 區五第 雲南郡 一人 區六第 石見郡 一人	

島根縣 議員總數六人 區一第 邑根郡 一人 區二第 秋鹿郡 一人 區三第 意智郡 一人 區四第 出雲郡 一人 區五第 雲南郡 一人 區六第 石見郡 一人		石川縣 議員總數六人 區一第 石川郡 二人 區二第 金澤郡 一人 區三第 能登郡 一人 區四第 江沼郡 一人 區五第 加賀郡 一人 區六第 野野村郡 一人		鳥取縣 議員總數三人 區一第 鳥取郡 一人 區二第 美作郡 一人 區三第 美都郡 一人 區四第 倉吉郡 一人		廣島縣 議員總數十人 區一第 安藝郡 二人 區二第 廣島郡 一人 區三第 尾道郡 一人 區四第 竹原郡 一人 區五第 府中郡 一人 區六第 高田郡 一人 區七第 加茂郡 一人	
富山縣 議員總數六人 區一第 富山郡 二人 區二第 小矢野郡 一人 區三第 新川郡 一人 區四第 南砺郡 一人 區五第 石川郡 一人 區六第 加賀郡 一人		岡山縣 議員總數八人 區一第 邑根郡 一人 區二第 秋鹿郡 一人 區三第 意智郡 一人 區四第 出雲郡 一人 區五第 雲南郡 一人 區六第 石見郡 一人		島根縣 議員總數六人 區一第 邑根郡 一人 區二第 秋鹿郡 一人 區三第 意智郡 一人 區四第 出雲郡 一人 區五第 雲南郡 一人 區六第 石見郡 一人		廣島縣 議員總數十人 區一第 安藝郡 二人 區二第 廣島郡 一人 區三第 尾道郡 一人 區四第 竹原郡 一人 區五第 府中郡 一人 區六第 高田郡 一人 區七第 加茂郡 一人	

愛媛縣 議員總數七人		區一第 溫泉郡 和氣郡 早岐郡 野間郡 久米郡 伊予郡 下津郡	區二第 越智郡 桑村郡 周布郡	區三第 喜多郡 上野郡				
一	一	二	一	一				
高知縣 議員總數四人		區一第 土佐郡 長岡郡	區二第 幡豆郡 高岡郡 香川郡	區三第 香美郡 安藝郡	區四第 新居郡 宇和郡 東宇和郡	區五第 四和郡 東宇和郡	區六第 南宇和郡 北宇和郡	
一	一	一	二	一	一	一	一	
香川縣 議員總數五人		區一第 那珂郡 上野郡 下野郡	區二第 那珂郡 上野郡 下野郡	區三第 那珂郡 上野郡 下野郡	區四第 那珂郡 上野郡 下野郡	區五第 那珂郡 上野郡 下野郡	區六第 那珂郡 上野郡 下野郡	區七第 那珂郡 上野郡 下野郡
一	一	一	一	一	一	一	一	一

山口縣 議員總數七人		區一第 美祿郡 佐波郡 原野郡	區二第 美祿郡 佐波郡 原野郡	區九第 品石郡 神石郡 甲斐郡 三上郡 燕上郡	區八第 深津郡 沼津郡 安那郡	區七第 御阿郡 世羅郡	區六第 豐田郡	
一	二	一	一	一	一	一	一	
和歌山縣 議員總數五人		區一第 和歌山郡 名草郡 有田郡	區二第 伊都郡 那賀郡	區三第 日高郡 西牟婁郡 東牟婁郡	區四第 那賀郡 大島郡	區五第 那賀郡	區六第 那賀郡	區七第 那賀郡
一	一	二	一	一	二	一	一	
香川縣 議員總數五人		區一第 那珂郡 上野郡 下野郡	區二第 那珂郡 上野郡 下野郡	區三第 那珂郡 上野郡 下野郡	區四第 那珂郡 上野郡 下野郡	區五第 那珂郡 上野郡 下野郡	區六第 那珂郡 上野郡 下野郡	區七第 那珂郡 上野郡 下野郡
一	一	一	一	一	一	一	一	一

<p>大分縣 議員總數六人</p> <p>區一第 大分郡 一人</p> <p>區二第 北海郡 一人</p> <p>區三第 大野郡 一人</p> <p>區四第 速見郡 一人</p> <p>區五第 四國東郡 一人</p> <p>區六第 下毛郡 一人</p>		<p>佐賀縣 議員總數四人</p> <p>區一第 小神郡 一人</p> <p>區二第 東松浦郡 一人</p> <p>區三第 津島郡 一人</p> <p>區四第 三養父郡 一人</p>		<p>宮崎縣 議員總數三人</p> <p>區一第 宮崎郡 一人</p> <p>區二第 北諸縣郡 一人</p> <p>區三第 阿蘇郡 一人</p> <p>區四第 上益城郡 一人</p> <p>區五第 八代郡 一人</p> <p>區六第 天草郡 一人</p>	
--	--	---	--	---	--

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

<p>鹿兒島縣 議員總數七人</p> <p>區一第 鹿兒島郡 一人</p> <p>區二第 川類郡 一人</p> <p>區三第 日向郡 一人</p> <p>區四第 南薩郡 一人</p> <p>區五第 薩摩郡 一人</p> <p>區六第 大隅郡 一人</p> <p>區七第 大島郡 一人</p>		<p>熊木縣 議員總數八人</p> <p>區一第 熊木郡 二人</p> <p>區二第 五名郡 一人</p>		<p>內閣總理大臣 伯耆黒田清隆</p> <p>樞密院議長 長伯耆伊藤博文</p> <p>外務大臣 臣伯耆大隈重信</p> <p>海軍大臣 臣伯耆西郷從道</p> <p>農商務大臣 臣伯耆井上馨</p> <p>司法大臣 臣伯耆山田顯義</p>	
---	--	---	--	---	--

大藏大臣兼內務大臣伯耆松方正義
 陸軍大臣 臣伯耆大山 巖
 文部大臣 臣子爵森 有禮
 逓信大臣 臣子爵板木武揚

法律第四號

會計法

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル
 一會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關ル事務ハ翌年度十一月二十日マテニ悉皆完結スヘシ
 第二條 租稅及其ノ他一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ總豫算ニ編入スヘシ
 第三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス
 第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノ、外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス
 第二章 豫算
 第五條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ
 第六條 歳入歳出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ
 總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ
 第一 各省ノ豫定經費要求書但シ各項目ノ明細ヲ記入スヘシ
 第二 其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歳入歳出現計書

第七條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス
 第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス
 第八條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス
 第九條 毎年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ム
 第三章 收入
 第十條 租稅及其ノ他ノ歳入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ
 法律命令ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅ヲ徵收シ又ハ其ノ他ノ歳入ヲ收納スルコトヲ得ス

第四章 支出

第十一條 毎會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ
 第十二條 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス
 國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス
 第十三條 國務大臣ハ其ノ所管定額ヲ使用スル爲ニ國庫ニ向ヒテ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得
 第十四條 國庫ハ法律命令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 國務大臣ハ政府ニ對シテ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

左ノ諸項ノ經費ニ限リ國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ノ命レタル銀行ニ委任シテ現金支拂ヲ爲サレムル爲ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第一 國債ノ元利拂

第二 軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費

第三 在外各屬ノ經費

第四 前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲ爲スル經費

第五 運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲スル經費

第六 廳中常用雜費ニシテ一箇年ノ總費額五百圓ニ滿タサルモノ

第七 場所ノ一定セサル事務所ノ經費

第八 各屬ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ一主任官ニ付三千圓マテヲ限ル

第五章 決算

第十六條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同一ノ様式ヲ用非左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

測定済歳入額

收入済歳入額

收入未済歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令済歳出額

翌年度繰越額

第十七條 前條ノ總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省決算報告書

第二 國債計算書

第三 特別會計計算書

第六章 期滿免除

第十八條 政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過後滿五箇年內ニ債主ヨリ支出ノ請求若ハ仕拂ノ請求ヲ爲サレムモノハ期滿免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年度經過後滿五箇年內ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第七章 歳計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入

第二十條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度內ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカヲナル事故ノ爲ニ事業ヲ遅延シ年度內ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越

使用スルコトヲ得

第二十二條 數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造及其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入及其ノ他一切豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡概算繰替拂ヲ爲シタル場合ニ於ケル返納金ハ各之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ル、コトヲ得

第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第二十四條 法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

第一 一人又ハ一會社ニテ専有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ル、トキ

第二 政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ

第三 非常急速ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競争ニ付スル暇ナキトキ

第四 特殊ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

第五 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ル、トキ

第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合

第七 五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ

第八 見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フトキ

第九 軍艦ヲ買入ル、トキ

第十 軍馬ヲ買入ル、トキ

第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ

第十二 慈善ノ爲ニ設立セル教育所ノ貧民ヲ備役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ

第十三 囚徒ヲ備役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ル、トキ

第十四 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈善教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ

第二十五條 軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工事製造又ハ物件買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九章 出納官吏

第二十六條 政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其ノ現金若ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

第二十七條 前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ其ノ保管スル所ノ現金若ハ物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其ノ保管上避ケ得ヘカラサリシ事實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス

第二十八條 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十九條 仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼ヌルコトヲ得ス

第十章 雜則

第三十條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得 特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三十一條 政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第十一章 附則

第三十二條 本法ノ條項帝國議會ニ關涉セサルモノハ明治二十三年四月一日ヨリ施行シ共ノ關涉

スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス

決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歲計ヨリ施行ス

第三十三條 本法ノ條項ト牴觸スル法令ハ各其ノ條項施行ノ日ヨリ廢止ス

朕海軍治罪法ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年二月十二日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
海軍大臣伯爵西鄉從道

法律第五號(官報二月十五日)

海軍治罪法左ノ通改正シ明治二十二年三月十五日ヨリ施行ス

海軍治罪法

第一章 總則

第一條 軍人ノ犯シタル重罪輕罪ノ審判ハ軍法會議ニ於テ之ヲ爲ス

海軍官署若クハ軍人ノ損害ニ係ル木案附帶ノ私訴アルトキハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二條 軍法會議ハ傍聽ヲ許ス但其裁判宣告ヲ爲ストキハ軍人ニ限り之ヲ許ス

第三條 軍人ト稱スルハ海軍刑法第五十條第五十一條ニ記載シタル者ヲ謂フ

陸軍軍人ト稱スルハ陸軍刑法第三條第九條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第四條 長官ト稱スルハ海軍大臣及ヒ司令官ヲ謂フ

司令官ト稱スルハ鎮守府司令長官艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦隊司令官及ヒ合團ノ地ノ司令官ヲ謂フ

第五條 親屬ト稱スルハ普通刑法第一百四十四條第一百五條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第六條 普通治罪法第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十八條第三十九條第四百條

第四百一十條第四百二十三條第四百三十三條第四百四十六條第四百五十六條第四百六十一條第一項ハ此治罪法ニ於

テ之ヲ適用ス

第七條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外軍人ノ例ニ依ルコトヲ得ス

第八條 臨戰合團ノ地ニ於テハ司令官審判ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第二章 軍法會議ノ構成

第九條 軍法會議ヲ設クルコト左ノ如シ

東京軍法會議

鎮守府軍法會議

艦隊軍法會議

高等軍法會議

合團地軍法會議

東京軍法會議及ヒ各鎮守府軍法會議ハ常設ト爲シ艦隊軍法會議ハ臨時各艦隊ニ之ヲ設ケ高等軍

法會議ハ臨時東京ニ之ヲ設ケ合團地軍法會議ハ臨戰合團ノ戒嚴間之ヲ設ケ

第十條 軍法會議ハ判士長判士主理若クハ主理候補及ヒ錄事ヲ以テ構成ス

第十七條 臨戰合圍ノ地ニ於テハ司令官專任判士ヲ命スルコトヲ得又部下ノ下士ヲシテ録事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

合圍ノ地ニ於テハ司令官其地所在ノ高等官ヲ以テ判士若クハ主理ニ充テ判任官ヲ以テ録事ニ充ツルコトヲ得

第十八條 判士長判士主理在ニ記載シタル者ナルトキハ其審判ニ從事スルコトヲ得ス

一 被告人被害者及ヒ其配偶者ノ親屬

二 被告人被害者ノ後見人

三 告發人被害者及證據ヲ陳述シタル者

第十九條 原裁判ニ從事シタル判士長判士主理ハ再議及ヒ再審ノ裁判ニ列スルコトヲ得ス

海軍檢察ノ職務ヲ行ヒタル者ハ其事件ノ審判ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條ノ場合ニ於テ審問ヲ爲シタル者ニハ其事件ノ判士長判士ヲ命スルコトヲ得ス

第二十條 第十四條第四項ノ場合ニ於テ海軍大臣ハ判士長判士ヲ命セスシテ被告人ヲ他ノ常設ノ軍法會議ニ移シテ其審判ヲ爲シシムルコトヲ得

第三章 軍法會議ノ權限

第二十一條 東京軍法會議ハ左ニ記載シタル者ヲ審判ス

一 司令官ノ部下ニ屬セサル佐官以下ノ軍人其他海軍ノ用ニ供スル船舶ノ乘員ニシテ重罪輕罪ヲ犯シタル者

二 第二十三條第二項第三項ニ依リ審判ノ委託ヲ受ケタル者

第二十二條 鎮守府軍法會議ハ左ニ記載シタル者ヲ審判ス

一 鎮守府司令官ノ部下ニ屬スル佐官以下ノ軍人其他鎮守府ノ用ニ供スル船舶ノ乘員ニシテ

重罪輕罪ヲ犯シタル者

二 第二十三條第二項第三項ニ依リ審判ノ委託ヲ受ケタル者

第二十三條 艦隊軍法會議ハ艦隊司令官艦隊司令官分遣艦隊司令官ノ部下ニ屬スル佐官以下ノ

軍人其他從軍諸員及ヒ艦隊ノ用ニ供スル船舶ノ乘員ニシテ重罪輕罪ヲ犯シタル者ヲ審判ス

艦隊司令官艦隊司令官分遣艦隊司令官ハ時機ニ依リ前項ニ記載シタル者ノ審判ヲ常設ノ軍法

會議ニ委スルコトヲ得

艦隊ニ屬スル艦船長ハ事件急速ヲ要スル場合ニ於テハ直チニ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其事

由ヲ速ニ其艦隊司令官艦隊司令官若クハ分遣艦隊司令官ニ報告ス可シ

第二十四條 艦隊若クハ數隻ノ艦船外國ニ出發ノ後其司令官若クハ先任艦長ノ部下ニ屬スル者内

國ニ在テ犯罪發覺シタルトキハ木人所在ノ地最近ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス可シ

第二十五條 佐官以下ノ軍人軍法會議所在ノ軍區内ニ於テ重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ管轄外ノ者

ト雖モ其地ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得

第二十六條 高等軍法會議ハ將官若クハ共同等軍人ノ犯シタル重罪輕罪ヲ審判シ及ヒ再審ノ審判

ヲ爲ス

第二十七條 合圍地軍法會議ハ第二十一條第二十二條第二十三條ニ記載シタル者ノ臨戰合圍ノ地

ニ在リテ犯シタル重罪輕罪ヲ審判ス

第二十八條 合圍地軍法會議ニ於テハ從軍常人ノ犯罪ヲ審判シ又何人ト雖モ海軍刑法ヲ以テ論ス

可キ罪ヲ犯シタルトキハ其審判ヲ爲ス可シ

合圍ノ地ノ特別裁判權ハ戒嚴令定ムル所ニ依ル

第二十九條 臨戰合圍ノ地ニ於テ專任判士ヲ以テ構成シタル軍法會議ハ高等軍法會議ノ管轄ニ屬

スル事件ノ外被告人ノ身分ニ拘ハラズ其犯罪ヲ審判スルコトヲ得

第三十條 俘虜降人ノ犯罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第三十一條 軍人任官就役前ノ犯罪ト雖モ在官現役中ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス在官現役中ノ犯罪ト雖モ免官若クハ現役ヲ去リタル後告訴告發アリタルトキハ普通裁判所ノ裁判ニ付ス

第三十二條 軍人二人以上共ニ重罪輕罪ヲ犯シ若クハ附帶犯ニシテ各其管轄ヲ異ニスルトキハ先キニ審判ニ著手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判シ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル者ト共犯若クハ附帶犯ニ係ルトキハ高等軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス陸軍軍人ト共犯若クハ附帶犯ニ係ルトキモ亦同シ

第三十三條 數罪俱ニ發シテ各其管轄ヲ異ニシ又ハ審判中裁判管轄變更シタルトキハ既ニ審判ニ著手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第三十四條 重罪輕罪ト俱ニ發シ若クハ重罪輕罪ニ附帶シ若クハ重罪輕罪ト認メ審判ニ著手シタル違警罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第三十五條 合圍地軍法會議ヲ廢スルトキ其軍法會議ニ於テ管轄シタル被告事件ハ通常ノ權限ニ照シ管轄軍法會議ヲ以テ其管轄ト爲ス

第四章 海軍檢察

第三十六條 海軍檢察ハ海軍ニ關スル犯罪ヲ搜查シ證據ヲ收集ス

第三十七條 海軍檢察官ハ左ニ記載シタル諸官ヲ以テ之ニ充ツ

- 一 艦船營副長分隊長
- 二 生徒隊司令官生徒分隊長及ヒ學校監事
- 三 衛兵司令

四 軍法會議ノ主理及ヒ主理試補

第三十八條 各艦長及ヒ艦船營長ハ各其管轄スル所ノ事ニ關シ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ檢察ノ處分ヲ爲シ若クハ海軍檢察官ニ其處分ヲ委ス可シ

第三十九條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ海軍檢察官若クハ被告人ノ所屬長若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事檢察司法警察官ニ之ヲ告訴スルコトヲ得

第四十條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ前條ニ記載シタル諸官ニ告發スルコトヲ得

第四十一條 海軍所屬ノ官吏職務ヲ行フニ因リ軍人及ヒ海軍ノ用ニ供スル船舶乘員ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ第三十九條ニ記載シタル諸官ニ告發ス可シ

第四十二條 憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事檢察司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴告發ヲ受ケタルトキハ其事件ヲ海軍檢察官若クハ被告人ノ所屬長ニ交付ス可シ

第四十三條 海軍檢察官憲兵ノ將校下士卒又ハ司法警察官巡查ハ軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ直ニ之ヲ逮捕ス可シ

第四十四條 何人ヲ論セス軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルトキハ直ニ之ヲ逮捕スルコトヲ得其逮捕シタル者ハ海軍檢察官又ハ司法警察官若クハ憲兵卒巡查ニ之ヲ交付ス可シ

第四十五條 憲兵卒巡查現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官ニ之ヲ引致ス可シ

第四十六條 海軍檢察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ訊問及ヒ檢證處分ヲ爲シ圖書ヲ作ル可シ各艦長艦船營長現行犯ノ軍人ヲ逮捕シタルトキハ前項ノ處分ヲ爲シ又ハ其處分ヲ海軍檢察官ニ委シ若クハ憲兵ノ將校下士ニ囑託スルコトヲ得

第四十七條 海軍檢察官各廳長艦船警長現行犯人ヲ逮捕シ若クハ其檢證處分ヲ爲ストキハ公力ヲ用フルコトヲ得

第四十八條 海軍檢察官及ヒ各廳長艦船警長軍人ト共犯ノ常人アルコトヲ知リタルトキハ前數條ニ照シ其處分ヲ爲ス可シ

第四十九條 憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢證處分ヲ爲シ調書ヲ作り海軍檢察官ニ之ヲ送致ス可シ

第五十條 告訴人告訴人ハ其願下ヲ爲シ若クハ其陳述ヲ變更センコトヲ請求スルコトヲ得

第五十一條 海軍檢察官各廳長艦船警長檢察ノ處分ヲ爲シタルトキハ被告事件ニ證憑物件ヲ添ヘ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一 重罪輕罪ト認ムルトキハ之ヲ長官ニ具申ス可シ但艦隊ニ於テハ被告人所屬ノ艦船長ヲ經由ス可シ

二 違警罪ト認ムルトキハ之ヲ管轄ス可キ官司ニ交付ス可シ

三 裁判管轄ニ非サル者軍人ナルトキハ之ヲ其事件ヲ管理ス可キ長官部下ノ海軍檢察官ニ送致シ陸軍軍人ナルトキハ其事件ヲ管轄ス可キ軍法會議所在ノ地ノ陸軍檢察官ニ送致シ常人ナルトキハ檢察處分ヲ爲シタル地ノ檢事ニ送致ス可シ但軍人ト共犯ノ常人ナルトキハ長官ニ具申ス可シ

四 高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルモノナルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申ス可シ

第五章 審問

第五十二條 長官被告事件ノ具申ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一 共犯罪輕罪以上ノ刑ニ該ル可キモノト認ムルトキハ審問若クハ審判ノ命令ヲ下シ禁錮以下

ノ刑ニ該ル可キモノニシテ審問ヲ要セスト認ムルトキハ直チニ判決ノ命令ヲ下ス可シ

二 審問若クハ審判若クハ判決ノ命令ヲ下シタルトキハ其事件ヲ主理ニ下付ス可シ

第五十三條 主理審問ヲ爲ストキハ先ツ召喚狀ヲ發ス可シ

被告人出廷シタルトキハ即日之ヲ訊問ス可シ

罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人ハ代人ヲ出廷セシムルコトヲ得

第五十四條 主理ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第五十五條 主理ハ重罪ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ナルトキ又ハ輕罪以下ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ニシテ罪證ヲ湮滅シ若クハ逃走ノ恐アルトキ又ハ未遂罪ヲ犯シ其目的ヲ

遂ケ若クハ脅迫罪ヲ犯シ其手段ヲ實行スルノ恐アルトキハ直チニ勾引狀ヲ發ス可シ

第五十六條 主理ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ケ可キ被告人遠隔ノ地ニアルトキハ其地ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事司法警察官ニ訊問ヲ囑託スルコトヲ得又其地ノ主理

海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官ニ召喚狀ノ送達勾引狀ノ執行ヲ囑託スルコトヲ得

第五十七條 勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時内ニ之ヲ訊問ス可シ四十八時ヲ經過シ仍

ホ留置ヲ要スルトキハ收禁狀ヲ發ス可シ

第五十八條 主理ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事故アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得若シ被告人遠隔ノ地ニ

在ルトキハ其地ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事司法警察官ニ訊問ノ條件ヲ明示シテ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十九條 主理ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校及

ヒ各控訴院ノ檢察長ニ人相書ヲ送り其逮捕ヲ求ムルコトヲ得

第六十條 主理ハ被告人禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト認ムルトキハ收禁狀ヲ發スルコトヲ得
收禁狀ヲ發シタル後被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノニ非ス又ハ收禁ヲ要セサルモノト認
ムルトキハ收禁ヲ取消ス可シ

第六十一條 勾引狀收禁狀ハ衛兵若クハ軍艦ヲシテ之ヲ執行セシム可シ
勾引狀ヲ受ク可キ被告人艦船營内若クハ隊伍ニ在ルトキハ艦船營長隊伍ノ長ニ依リ其執行ヲ求
ム可シ

陸軍營内若クハ隊伍ニ在ルトキハ隊長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ
勾引狀ヲ執行スルニ方リ被告人其家宅若クハ他人ノ家ニ逃匿シタリト認ムルトキハ其地ノ戸長
若クハ隣佑ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索シ其調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印ス可シ若シ立會ヲ求
ムニ暇アラズ若クハ之ヲ得ル能ハサルトキハ其立會ナクシテ搜索ヲ爲スコトヲ得

第六十二條 主理ハ事實審明ノ爲メ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲スコトヲ得
其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事司法警
察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第六十三條 主理ハ事實審明ノ爲メ驛遞電信鐵道ノ官署及ヒ諸會社ニ事由ヲ通知シテ被告事件ニ
關係アル往復文書電報及ヒ物件ヲ收受開披スルコトヲ得

其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ前條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

第六十四條 主理ハ證人及ヒ通事ヲ呼出スコトヲ得
證人皇族若クハ勅任官ナルトキ主理其所在ニ就キ陳述ヲ聽ク可シ
證人疾病其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ主理其所在ニ就

キ之ヲ訊問スルコトヲ得

證人遠隔ノ地ニアルトキハ第六十二條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

第六十五條 左ニ記載シタル者ハ證人ト爲スコトヲ得但事實參考ノ爲メ其陳述ヲ聽クコトヲ得

- 一 被害者
- 二 被害者及ヒ被告人ノ親屬
- 三 被害者及ヒ被告人ノ後見人又ハ其後見ヲ受クル者
- 四 被害者及ヒ被告人ノ雇人
- 五 現ニ陳述ヲ爲スコキ事件ニシテ曾テ訴ヲ受ケ證據充分ナラサルニ因リ免訴ノ宣告ヲ受ケタル者
- 六 重罪事件ノ爲メ軍法會議ノ判決ニ付セラレタル者若クハ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケタル者及ヒ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ノ爲メ軍法會議又ハ普通裁判所ノ判決ニ付セラレタル者
- 七 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ公權ヲ停止セラレタル者
- 八 十六歳未満ノ者
- 九 知覺精神ノ不充分ナル者
- 十 瘡癩者

第六十六條 主理被告人證人事實參考人ヲ訊問シ若クハ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲ストキハ
該事之ニ立會ヒ調書ヲ作り訊問及ヒ供述ヲ錄取シ被告人證人事實參考人ニ顯示ス可シ
主理ハ其顯示シタル所其陳述ニ違ハサルヤ否ヲ問ヒ陳述者ヲシテ署名捺印セシム可シ若シ署名
捺印スルコト能ハサルトキハ該事ヲシテ其旨ヲ記セシム可シ

急遽ノ際若クハ事故アリテ録事立會ヲ爲スコト能ハサルトキハ其立會ナクシテ本條ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 主理犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定人ヲ要スルトキハ學術又ハ職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得可キ者ニ命シテ其鑑定ヲ爲サシム可シ但第六十五條ニ記載シタル者ハ鑑定人ト爲スコトヲ得ス若シ急遽ノ際正當ノ鑑定人ヲ得ルコト能ハサルトキハ參考ノ爲メ之ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得

鑑定ヲ爲シタル者ハ鑑定書ヲ作り其方法結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記ス可シ若シ結果ヲ得ルコト能ハサルトキハ其推測スル所ヲ記レ之ニ署名捺印ス可シ

第六十八條 主理ハ證人通事鑑定人ヲシテ正實ニ陳述通譯鑑定ヲ爲スコトヲ宣誓セシム可シ

主理ハ證人通事鑑定人ニ宣誓書ヲ讀示シ之ニ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ録事ヲシテ其旨ヲ附記セシム可シ
宣誓書ハ訴訟書類ニ添ヘ置ク可シ

第六十九條 主理ハ證人通事鑑定人事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命シタル者疾病其他正當ノ事故ヲ證明セシテ呼出ニ應セサルトキハ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ若シ再度ノ呼出ニ應セサルトキハ更ニ二倍ノ罰金ヲ科ス可シ若シ五日內ニ正當ノ事故アリテ出廷スルコト能ハサルコトヲ證明シタルトキハ罰金ノ宣告ヲ取消ス可シ

前項ノ場合ニ於テ證人事實參考人ニ對シテハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第七十條 主理ハ證人鑑定人宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ陳述鑑定ヲ肯セサルトキハ證人ハ普通刑法第八十條ニ依リ鑑定人ハ同法第七十九條ニ依リ罰金ヲ科ス可シ

證人トシテ呼出シタル醫師藥商穩婆代官辯護人公證人神官僧侶其身分職業ニ關スル秘密ノ事
件ニ因リ委託ヲ受ケタル事ニ關シ陳述ヲ肯セサルトキハ前項ノ例ニ在ラス

第七十一條 主理ハ通事宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ通譯ヲ肯セサルトキハ事實參考ノ爲メ陳述鑑定ヲ命セラレタル者之ヲ肯セサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第七十二條 主理ハ證人事實參考人ノ陳述ヲ確實ナラシムル爲メ犯所若クハ其他ノ場所ニ同行スルコトヲ得

證人事實參考人同行スルコトヲ肯セサルトキハ第六十九條ニ照シ罰金ヲ科ス可シ

第七十三條 證人通事鑑定人事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命セラレタル者ニ科シタル罰金ヲ完納セシメ若クハ罰金ヲ禁錮ニ換フルノ處分ハ普通刑法第二十七條ニ依リ主理之ヲ爲スコシ

第七十四條 主理ハ被告事件ニ關スル調書説明ノ爲メ其調書ヲ作りタル海軍檢察官又ハ司法警察官其他ノ官吏ヲ呼出スコトヲ得

第七十五條 主理審問ニ於テ共犯附帶犯若クハ餘罪ヲ覺舉シタルトキハ直ニ之ヲ審問ス可シ但其共犯者附帶犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ之ヲ長官ニ具申ス可シ

第七十六條 軍人ト共犯セシ常人ハ審問ヲ終リタル後證據物件ヲ添ヘ其共犯事件ヲ管轄スル軍法會議所在ノ地ノ檢事ニ送致ス可シ

第七十七條 主理ハ審問中被告人ヲ其親屬故舊ニ貸付スルコトヲ得但繼續營内居住ノ者ハ貸付スルノ限ニ在ラス

第七十八條 主理審判若クハ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ノ審問ヲ終リ若クハ判決ノ命令ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲スコシ
一 審判若クハ判決ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テハ意見書ヲ作り訴訟書類ト共ニ之ヲ判士長ニ

交付シ會職ノ日時ヲ定メ判士長判士ニ通報ス可シ
 二 裁判管轄ニ非ス若クハ免訴ト爲ス可キ事件ニ於テハ訴訟書類ニ意見書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テモ亦同シ
 第七十九條 長官審問ノ命令ヲ下シタル事件ノ具申ヲ受ケ其事件有罪ナリト認ムルトキハ更ニ判決ノ命令ヲ下ス可シ

第六章 判決

第八十條 軍法會議ハ判士長判士主理錄事列席シテ之ヲ開ク可シ

第八十一條 判士長ハ被告人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ

主理其審問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ求ムルコトヲ得

第八十二條 判士長ハ開廷ヨリ判決終結ニ至ルマテノ間必要ト認ムルトキハ令狀ヲ發スルコトヲ得

判士長ハ法廷ニ於テ警戒ノ爲メ相當ノ處置ヲ爲スコトヲ得

法廷ニ於テ罪ヲ犯ス者アルトキハ判士長檢證ノ處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ其處分ヲ爲サシメ調書及ヒ證憑文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ但其犯人被告人ナルトキハ本案事件ト共ニ直ニ判決ヲ爲ス可シ

第八十三條 判士長ハ法廷其他ノ場合ニ於テ證人通事鑑定人ヲ要シ若クハ調書説明ノ爲メ官吏ノ呼出ヲ要スルトキハ第五章ノ例ニ依ル

第八十四條 證人通事鑑定人事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命セラレタル者疾病其他正當ノ事故ナクシテ呼出ニ應ゼサルトキハ主理ノ意見ヲ聽キ軍法會議ニ於テ直ニ左ノ罰金科料ヲ科ス可シ

一 違警罪事件ニ於テハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料

二 輕罪以上ノ事件ニ於テハ二圓以上二十圓以下ノ罰金

第八十五條 判士長ハ證人事實參考人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ

主理其訊問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ求ムルコトヲ得

第八十六條 判決ノ爲メ更ニ檢證處分ヲ要スルコトアルトキハ判士長其處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ之ヲ爲サシム可シ

共犯附帶犯若クハ餘罪ヲ發覺シタルトキハ直ニ其判決ヲ爲シ若クハ主理ニ移シテ其審問ヲ爲サシム可シ但其共犯者附帶犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ判士長ヨリ其命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ

第八十七條 被告人ノ訊問終リタルトキハ判士長更ニ被告人ニ對シテ他ニ陳述ス可キコトナキヤ否ヲ問ヒ訊問終リタル旨ヲ告ケ被告人ヲ退廷セシメ其判決ヲ爲ス可シ

第八十八條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人逃走シテ開廷ノ日時ニ出廷セス若クハ其逃走ニ因リ召喚狀ヲ送達スルコトヲ得サルトキ及ヒ罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人召喚狀ヲ受ケ開廷ノ日時ニ出廷セサルトキハ開席裁判ヲ爲スコトヲ得

第八十九條 數人共犯ノ判決ヲ爲スコトキハ被告人中開席シタル者アリト雖モ出廷シタル者ニ對シ其判決ヲ爲スコトヲ得

第九十條 主理ハ會議席ニ列シ意見書ノ趣旨ヲ説明スヘシ

會議ノ判決共意見ト合ハサルトキハ其旨ヲ記シタル書面ヲ判決書ニ添フルコトヲ得

其判決法律ニ違ヒ再議ス可キ理由アリト認ムルトキハ之ヲ其判決ノ命令ヲ下シタル長官ニ具申

ス可シ

第九十一條 判決書ハ主理左ノ條件ニ照シテ之ヲ作り判士長判士録事ト共ニ署名捺印シ訴訟文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ

一 判決ノ理由

二 有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證據及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條

三 無罪ノ判決書ニハ被告人ノ死去セシコト若クハ人違ヒナリシコト若クハ被告事件罪トナラサルコト若クハ犯罪ノ證據備ラサルコト

四 免訴ノ判決書ニハ公訴期満免除ト爲リタルコト若クハ大赦アリタルコト若クハ確定裁判ヲ經タルコト若クハ法律ニ於テ其罪ヲ全免スルコト

五 管轄違ヒノ判決書ニハ其旨

六 私訴ノ裁判アリタルトキハ其旨

七 被告人ノ官位勳爵隊號職名氏名族籍年齢住所所判決ノ年月日

第九十二條 長官左ニ記載シタルモノハ訴訟書類ヲ添ヘ海軍大臣ニ具申シ其他ハ裁判宣告ノ命令ヲ下ス可シ

一 死刑ニ該リタルトキ

二 佐官及ヒ同等軍人ノ重罪輕罪ノ刑ニ該リタルトキ

三 尉官及ヒ同等軍人ノ重罪ノ刑ニ該リタルトキ

第九十三條 海軍大臣前條ノ具申ヲ受ケタルトキ又ハ高等軍法會議ノ判決將官及ヒ同等軍人ノ重罪輕罪ノ刑ニ該リ若クハ前條ニ記載シタルモノニ該リタルモノハ意見書ヲ附シ上奏スヘシ其裁可アリタルトキ高等軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ裁判宣告ノ命令ヲ下シ他ノ軍法會議ノ判

決ニ係ルモノハ長官ニ下付シ長官ヲシテ裁判宣告ノ命令ヲ下サシム可シ

第九十四條 臨戰合圍ノ地ニ於テハ司令官第九十二條ノ例ニ依ラス直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下スコトヲ得

第九十五條 長官軍法會議ノ判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシメ直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下ス權ナキモノハ意見書ヲ附シテ海軍大臣ニ具申ス可シ

第九十六條 海軍大臣高等軍法會議若クハ長官ヨリ具申シタル判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシム可シ

第九十七條 裁判宣告ノ命令アリタルトキハ判士長判士主理録事列席シ被告人ヲ出廷セシメ判士長其宣告ヲ爲ス可シ
關席裁判ノ宣告ハ被告人關席ノマ、之ヲ爲ス可シ禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人對審終結ノ後逃走シテ出廷セス若クハ罰金以下ノ刑ニ該リタル被告人呼出ニ應セサルトキモ亦同シ

第九十八條 禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人其宣告ヲ受ケテ逃走シ若クハ前條第二項ニ依リ關席ノマ、宣告アリタルトキハ主理逮捕狀ヲ獲ス可シ
逮捕狀執行ノ方法ハ勾引狀執行ノ例ニ從フ若シ其所在分明ナラサルトキハ第五十九條ノ例ニ依ル

第九十九條 被告人關席ノマ、宣告ヲ爲シタルトキハ其宣告書ヲ軍法會議ノ門前ニ掲示シ其一通ヲ被告人ノ住所ニ送達ス可シ

第一百條 外國若クハ航海中ニ於テ司令官又ハ艦船長ハ輕罪ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル下士卒ニ裁罪服務ヲ命スルコトヲ得

裁罪服務ノ日數ハ刑期ニ算入セス

明治二十二年二月 法律 第五號

第七章 再審

第百一條 海軍大臣軍法會議ニ於テ法律ノ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ宣告シ若クハ法律ニ定ムル所ノ刑ヨリ重キ刑ヲ宣告シ若クハ無罪ノ宣告ヲ爲ス可キニ免訴ノ宣告ヲ爲シタルコトアルヲ知リタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ

第百二條 軍法會議ノ宣告左ニ記載シタル條件ニ觸ル、モノアルトキハ主理及ヒ被告人ヨリ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得被告人死去シタルトキハ其親屬之ヲ爲スコトヲ得

一 人ヲ殺シタル罪ニ付刑ノ宣告アリタル後其殺サレタリト認メラレタル者犯罪後現ニ生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタル確證アリタルトキ

二 同一ノ事件ニ付共犯ニ非ステ別ニ刑ノ宣告ヲ受ケタルモノアリタルトキ

三 公正ノ證書ヲ以テ當時犯罪ノ場所ニ在ラサルコトヲ證明シタルトキ

四 既ニ判決ヲ經タル事件ニ對シ再ヒ判決アリタルトキ

五 被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ宣告ヲ受ケタル者アリタルトキ

六 公正ノ證書ヲ以テ訴訟書類ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ

第百三條 海軍大臣前條ニ記載シタル事實アルコトヲ知リタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ

長官共事實ヲ發見シタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ附シ海軍大臣ニ具申ス可シ

第百四條 再審ノ申訴ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官ニ之ヲ爲ス可シ艦隊軍法會議高等軍法會議合團地軍法會議ニ於テ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ナルトキハ海軍大臣ニ其申訴ヲ爲ス可シ

主理共申訴ヲ爲ストキハ其理由書ニ原裁判宣告書ノ謄本及ヒ證據書類ヲ添フ可シ

被告人若クハ其親屬其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ヲ主理ニ出シ主理意見書ヲ添フ可シ

長官再審ノ申訴ヲ受ケタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ附シ之ヲ海軍大臣ニ具申ス可シ

海軍大臣再審ノ申訴若クハ具申ヲ受ケタルトキハ之ヲ再審セシム可シ

第百五條 海軍大臣再審ノ命令ヲ下シタルトキ刑ノ執行中ニ係ルモノハ其執行ヲ停止ス可シ

第百六條 再審ヲ爲シタル事件前ニ上奏ヲ經タルモノナルトキハ其判決ヲ上奏シテ裁可ヲ請フ可シ

第八章 復讐

第百七條 復讐ノ願ハ普通刑法第六十三條ニ定メタル期限ヲ經過シタル後刑ノ宣告ヲ受ケタル者ヨリ海軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得

其復讐願書ハ二通ヲ作り本人署名捺印シ左ニ記載シタル書類ヲ添へ郡區長ニ出シ郡區長願人ノ品行其他必要ノ調査ヲ爲シ地方長官ニ出シ其長官ハ之ニ意見書ヲ添へ海軍大臣ニ出ス可シ

- 一 裁判宣告書ノ謄本
- 二 主刑ノ滿期若クハ特赦若クハ期滿免除ト爲リタルコトヲ證明スル書類
- 三 假出獄及ヒ假リニ幽閉若クハ監視ヲ免セラレタルコトアルトキハ其證書
- 四 賠償ヲ辨濟シ若クハ義務ヲ免カレタル證書
- 五 過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載シタル書類

第百八條 海軍大臣復讐ノ願ニ關スル書類ヲ受領シタルトキハ主理ヲシテ更ニ必要ノ調査ヲ爲サシメ意見書ヲ附シテ上奏ス可シ

第百九條 復讐ノ願裁可アリタルトキハ海軍大臣主理ヲシテ地方長官ヲ經テ裁可狀ヲ本人ニ傳達セシム可シ

主理ハ裁可狀ノ謄本ヲ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ニ送致シ軍法會議ニ於テハ之ヲ裁判宣告書セシム可シ

ニ記入ス可シ

第一百條 復権ノ願棄却セラレタルトキハ海軍大臣願書ニ其旨ヲ記シタル書面ヲ附シ主理ヲシテ前條第一項ノ處分ヲ爲サシム可シ
復権ノ願棄却セラレタルトキハ普通刑法第六十三條ニ定メタル期限ノ半ヲ經過スルニアラサレハ更ニ其願ヲ爲スコトヲ得ス

第九章 特赦

第一百一條 特赦ノ申請ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官又ハ主理若クハ司獄官ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ海軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得
主理其申請ヲ爲ストキハ裁判宣告ノ命令ヲ下シタル長官ニ其書面ヲ出ス可シ長官其書面ヲ受領シタルトキハ之ニ意見書ヲ附シ海軍大臣ニ出ス可シ
司獄官其申請ヲ爲ストキハ裁判宣告ノ命令ヲ下シタル長官ニ其書面ヲ出ス可シ長官其書面ヲ受領シタルトキハ主理ノ意見書ヲ徵シ自己ノ意見書ヲ附シ海軍大臣ニ出ス可シ
艦隊軍法會議若クハ合圍地軍法會議ニ於テ裁判宣告ヲ受ケタル者ノ特赦ノ申請ハ主理ヨリ直チニ海軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得

第一百二條 海軍大臣前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ意見書ヲ附シテ上奏ス可シ

第一百三條 海軍大臣ハ刑ノ宣告アリタル後何時ニテモ特赦ノ上奏ヲ爲スコトヲ得

第一百四條 特赦ノ申請アルモ死刑ヲ除クノ外刑ノ執行ヲ停止セス

第一百五條 特赦ノ上奏裁可アリタルトキハ海軍大臣特赦狀ヲ其申請ヲ爲シタル諸官ニ下付シ本人ニ之ヲ傳達セシム可シ

主理ハ特赦ノ裁可アリタル旨ヲ裁判宣告書ニ記入ス可シ

朕府縣會議員選舉規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年二月二十六日

内閣總理大臣 伯爵 黒田清隆
内務大臣 伯爵 松方正義

法律第六號 (官報二月二十八日)

府縣會議員選舉規則

第一條 戶長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役場管内ノ選舉人名原簿ヲ調査シ其副本ヲ十月一日迄ニ郡長ニ差出スヘシ

選舉人名原簿ニハ選舉人ノ氏名住所生年月納ムル所ノ地租ノ總額並ニ其納稅地ヲ記載スヘシ
第二條 郡長ハ戶長ヨリ差出ス所ノ原簿ヲ調査シ毎年十月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第三條 區長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ選舉人名原簿ヲ調製シ十月十五日ヲ期トシ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

選舉人名原簿ニ記載スヘキ事項ハ第一條第二項ニ同シ

第四條 府縣會議員選舉規則第十三條ノ年齢及ヒ年限ヲ算スルハ選舉人名簿調製ノ期日ヲ以テ限界ト爲シ其地租納額ヲ算スルハ原簿調製ノ期日ヨリ前一年以上ノ納メ猶引續キ納ムル者ニ限ルヘシ但
第五條 選舉人共住居スル區町村ノ外ニ於テ地租ヲ納ムルトキハ其納稅地區戶長ノ證狀ヲ添へ選

舉人名原簿調製ノ期日迄ニ其住居地ノ區戸長ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ爲サ、ル納税額ハ選舉及ヒ被選舉ノ資格ニ算入スルコトヲ得ス

第六條 郡區長ハ十月二十日ヨリ十五日間其役所管内ノ選舉人名原簿及ヒ選舉人名簿ノ寫ヲ其郡區役所ニ於テ縦覽セシムヘシ但關係者ノ請求アルトキハ戸長役場ニ於テモ其調製シタル原簿ノ寫ヲ示スヘシ

第七條 選舉資格アル者選舉人名簿ニ於テ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其縦覽期限内ニ之ヲ郡區長ニ申立ヘシ

第八條 郡區長ニ於テ脱漏又ハ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ之ヲ審査判定シ其申立正當ナルトキハ直ニ其人名ヲ記入又ハ削除シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戸長ニ通知スヘシ

第九條 前條審査ノ爲メ必要アル場合ニ於テハ申立人又ハ當人ヲ召喚審問スルコトヲ得

第十條 申立人又ハ當人ニ於テ郡區長ノ判定ニ不服アルトキハ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得但其判定ハ出訴ノ爲メ停止セサルモノトス

第十一條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ハラズ速ニ其裁判ヲ爲スヘシ

第十二條 前條始審裁判所ノ裁判ハ上告スルコトヲ得ト雖モ控訴スルコトヲ許サズ但其裁判ハ上告ノ爲メ停止セサルモノトス

第十三條 選舉人名簿ハ十一月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ改正期日迄之ヲ據置クモノトス但裁判言渡ニ依リ訂正スヘキモノハ郡區長ニ於テ其言渡ヲ受ケタルトキヨリ二十四時間以内ニ之ヲ訂正シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戸長ニ通知スヘシ

前項ノ外次年ノ改正期日前ト雖モ選舉ヲ行フ前ニ於テ選舉權ヲ失ヒ若クハ選舉權ヲ有セザリシコトヲ發見シタル場合ニ於テハ郡區長ハ其人名ヲ削除スヘシ

毎年確定ノ選舉人名簿ハ臨時ノ補闕選舉ニモ之ヲ使用スルモノトス

第十四條 選舉投票ハ通常二月若クハ三月ニ於テ之ヲ行フヘシ但解散及ヒ補闕選舉ノ場合ハ此限ニ在ラス

前項ノ時期ハ府縣ノ情況ニ依リ府縣知事ニ於テ府縣會ノ議決ヲ取り内務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

第十五條 議員ヲ選舉スヘキトキハ少クトモ一箇月前ニ府縣知事ヨリ其月日選舉開會並ニ投票

函閉鎖ノ時刻、選舉ヲ行フヘキ郡區ノ名及ヒ選舉スヘキ議員ノ數ヲ記シ之ヲ管内ニ告示スヘシ

若シ正議員ノ外補闕議員ノ増選ヲ要スルトキハ各別ニ其數ヲ記スヘシ

選舉開會ヨリ投票函閉鎖迄ノ時間ハ四時間以上十時間以内タルヘシ

第十六條 前條ノ告示アリタルトキハ郡區長ハ前條各事項並ニ選舉開會ノ場所ヲ管内ニ告示スヘシ

第十七條 郡區長ハ其管内ノ選舉人中ヨリ立會人五名ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ五日以前ニ

之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日選舉會場ニ參會セシムヘシ

選舉分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ本會分會トモ各其會場所屬ノ選舉人ニ就キ前項ニ依リ立會人

ヲ定ムヘシ

立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其職ヲ辭スルコトヲ得ス立會人若シ選舉開會ノ時刻ニ至リ出頭セ

サルトキハ參會ノ選舉人中最多額ノ地租ヲ納ムル者ヲ以テ假ニ其闕ヲ補フヘシ

第十八條 郡區長ハ選舉會場トナリ選舉會場ヲ管理スヘシ郡區長事故アルトキハ代理書記ヲ以テ

之ニ充テヘシ

選舉會書記ハ郡區長ニ於テ郡區書記中ヨリ之ヲ命スヘシ

第十九條 選舉人ハ選舉開會ノ時刻ヨリ投票函閉鎖ノ時刻ニ至ル迄何時アリトモ到着ノ順序ニ從ヒ投票スルコトヲ得

第二十條 選舉會場ニハ錠ヲ付シタル投票函及ヒ選舉錄並ニ筆墨ヲ備ヘ置クヘシ
投票函ハ投票ニ先チ參集シタル選舉人ノ面前ニ於テ之ヲ開キ其空虛ナルコトヲ示スヘシ

第二十一條 投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ各郡區ニ於テ一定ノ式ヲ用非投票ノ當日選舉會場ニ備ヘ置キ選舉會長又ハ書記ヨリ之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ
用紙ハ正職員ノ外補職員ノ増選ヲ要スル場合ニ於テハ之ヲ甲乙二種ニ分チ甲種ハ正職員ノ爲メノ用紙ト爲シ乙種ハ補職員ノ爲メノ用紙ト爲スヘシ

第二十二條 選舉人ハ自ら投票ヲ行フヘシ代人ニ託スルコトヲ得ス

第二十三條 選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ被選舉人並ニ自己ノ氏名ヲ記シ捺印スヘシ但氏名ノ外住所若クハ位階勲等其其他敬稱ノ類ヲ記スルハ妨ナシ

第二十四條 選舉人投票ヲ爲サントスルトキハ選舉會長ハ其住所氏名ヲ選舉人名簿ニ照シ名簿ニ消印ヲ捺シ選舉人ヲシテ自ラ之ヲ投票函ニ投入セシムヘシ

第二十五條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由ヲ申立ルトキハ選舉會長ハ書記ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀聞セ並ニ立會人ニ示シタル後捺印投票セシムヘシ

第二十六條 選舉ニ關スル吏員及ヒ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但會場臨視ノ職權アル官吏ハ此限ニ在ラス

第二十七條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但記載セラレハキ裁判官渡

書ヲ所持シテ參會スル者ハ此限ニ在ラス

第二十八條 選舉人ハ會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若クハ喧嘩ニ涉リ又ハ互ニ投票ヲ勸誘スルコトヲ得ス

第二十九條 選舉會場ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉會長ハ之ヲ警戒シ其命ニ從ハサルトキハ之ヲ會場外ニ退出セシムヘシ但其投票ヲ爲サシムル爲メ再ヒ之ヲ呼入ルコトヲ得

選舉會長ハ會場取締ノ爲メ必要ト認ムルトキハ警察官ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

第三十條 選舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票セントスル者アルトキハ選舉會長ハ其投票ヲ取上クヘシ

第三十一條 投票函閉鎖ノ時刻ニ至ルトキハ選舉會長ハ其由ヲ宣告シ書記ヲシテ一時選舉會場ノ入口ヲ鎖サシメ參會者ニ問フニ未ダ投票セサリシ者ナキヤヲ以テシ若シ之アルニ於テハ直ニ投票セシメタル後投票函ヲ閉鎖スヘシ

第三十二條 選舉會場ニハ點數簿二冊ヲ備ヘ書記二人ヲシテ各一冊ヲ擔任セシムヘシ

第三十三條 投票函閉鎖後十分時間ヲ經過スレハ選舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ逐次投票ヲ取出シ披封點檢シテ之ヲ書記ニ付シ選舉人被選舉人ノ氏名ヲ朗讀セシメ點數簿擔任ノ書記ヲシテ被選舉人ノ得點ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ

前項ノ點檢中若シ無効ノ投票ヲ發見シタルトキハ之ニ抹線ヲ加ヘ一部分無効ノモノハ其部分ニ抹線ヲ加フヘシ

第三十四條 選舉人ハ投票點檢ノ際之ヲ參觀スルコトヲ得

第三十五條 投票點數ノ記入ヲ終リタルトキハ選舉會長ハ書記ヲシテ各被選舉人得點ノ合計ヲ點數簿ニ記入シテ之ヲ朗讀セシムヘシ

第三十六條 點數記入並ニ計算其他書記ノ事務ハ總テ選舉會長並ニ立會人ノ面前ニ於テ之ヲ爲ス

第三十七條 點數ノ合計ヲ記入シ終リタルトキハ選舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ多數ヲ得タル者ヨリ順次ニ其被選舉權ノ有無ヲ査定シ同數ハ年長ヲ取り同年ハ抽籤ヲ用非其當選ヲ定ムヘシ但即時ニ其當選ニ必要ナル事實ヲ確知シ得サルトキハ調査ニ必要ナル時日ノ間其査定ヲ延ハスコトヲ得

分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ第五十條ニ依リ當選ヲ定ムルモノトス
當選タルヘキ多數ヲ得タル者ノ被選舉權ヲ有セサルコトヲ發見シタルトキハ順次其次點者ヲ以テ當選ト爲スヘシ此場合ニ於テハ郡區長ハ當選者ノ氏名ト共ニ其事由ヲ告示スヘシ
當選タルヘキ多數ヲ得タル被選舉人他郡區ノ人ニシテ直ニ其當選ヲ定メ難キトキハ第四十一條ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第三十八條 點檢濟ノ投票ハ之ヲ取纏メ封緘ノ上選舉會長立會人並ニ書記之ニ捺印スヘシ
前項ノ投票ハ封印ノ儘附屬書類ト共ニ一年間郡區役所ニ保存スヘシ若シ選舉ニ關シ訟訴又ハ告訴告發アルトキハ一年ヲ過クルモ其裁判確定ニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第三十九條 左ノ事項ハ之ヲ選舉錄中ニ記入スヘシ
一 選舉開會ノ月日並ニ時刻
二 選舉會長及書記ノ氏名
三 立會人ノ住所氏名
四 第二十七條但書ニ依リ投票セシメタルトキハ其顛末
五 第三十條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其顛末

六 投票函閉鎖ノ時刻
七 各被選舉人ノ得點數

八 當選人ノ住所氏名若シ直ニ當選ヲ定メ難キトキハ其事由
九 選舉開會ノ時刻
十 右ノ外選舉會長ニ於テ緊要ト認ムル事項
當選ノ査定ヲ延シタルトキハ其結果ヲ追記スヘシ

第四十條 選舉錄ニハ選舉會長立會人並ニ書記之ニ署名捺印スヘシ
第四十一條 當選タルヘキ多數ヲ得タル被選舉人他郡區ノ人ナルトキハ郡區長ハ其本籍地ノ郡區長ニ照會シ被選舉權ヲ有スルヤ否ヤノ證明ヲ求ムヘシ若シ其權ヲ有セサルトキハ第三十七條第三項ノ例ニ依ル

第四十二條 左ノ投票ハ無効トス
一 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但裁判官渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此限ニ在ラス

二 成規ノ用紙ヲ用非サルモノ
三 選舉人又ハ被選舉人ノ氏名ヲ記載セサルモノ
四 選舉人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ何人タルヲ知ルヘカラサルモノ
五 選舉人被選舉人ノ住所氏名ノ外餘事ヲ記入スルモノ但位階勳等其敬稱ノ類ヲ記入スルモノハ餘事ト見做スノ限ニ在ラス

六 被選舉人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ其何人タルヲ知ルヘカラサルモノ但列記ノ被選舉人ニ付テハ仍ホ其効アリトス

明治二十二年二月 法律 第六號

七 被選舉權ナキ者ヲ記載シタルモノ但列記ノ被選舉人ニ付テハ仍ホ其効アリトス

第四十三條 投票ニ記載ノ被選舉人其選舉スヘキ定數ニ足ラサルモ之ヲ無効トセス又定數ニ過ク
ルトキハ前條第六第七ニ觸ルモノアルト否トヲ問ハス末尾ヨリ其過數ヲ順次ニ棄却スヘシ
一人ノ氏名ヲ複記シタルモノハ一人トシテ計算スヘシ

第四十四條 選舉人又ハ被選舉人ノ住所氏名ニ誤字脱字アリ又ハ假名字ヲ用ユルモ其何人ノ何人
ヲ選舉シタルコト明瞭ナルトキハ其投票ヲ有効トスヘシ

第四十五條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ立會人ノ意見ヲ開キ選舉會長之ヲ決定スヘシ其
決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ルコトヲ得ス

第四十六條 郡區ノ區域廣濶ニ過クルカ又ハ郡區内島嶼ノ地アリテ選舉人ノ參會ニ不便ナル爲メ
已ムヲ得サル場合ニ於テハ郡區長ハ府縣知事ノ指揮ニ依リ又ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ選舉分會
ヲ設クルコトヲ得

分會ノ爲メ特ニ選舉人名簿ヲ調製スルヲ要セスト雖モ選舉人名簿中ニ各選舉人所屬ノ會場ヲ區
別シ豫メ分會場所ノ區域位ニ會場ヲ管内ニ告示スヘシ

第四十七條 分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開キ投票時間モ亦本會ト同一タルヘシ其他選舉ノ手續會
場ノ取締選舉録ノ記載等ハ總テ本會ニ準スヘシ但島嶼其他遠隔ノ地ニ限リ府縣知事ニ於テ適宜
其投票ノ期日ヲ異ニシテ選舉本會ノ投票期日迄ニ其投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第四十八條 分會選舉會長ハ上席郡區書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ

分會書記ハ郡區長ニ於テ其郡區書記又ハ其地ノ戶長又ハ戶長役場吏員中ヨリ之ヲ命スヘシ

第四十九條 分會ニ於テ投票函ヲ閉鎖シタルトキハ之ニ封印シ選舉會長及書記ノ中少クトモ一
名付添直ニ本會場ニ送付スヘシ若シ立會人又ハ他ノ選舉人中同行ヲ望ム者アルトキハ之ヲ許ス

ハシ

第五十條 分會ヲ設ケタルトキハ本會場ニ於テハ投票函閉鎖ノ後分會投票函ノ到着ヲ待テ第三
十三條ノ手續ヲ爲シ合算ノ上總數ヲ以テ當選ヲ定ムヘシ

第五十一條 當選者ノ定マリタルトキハ郡區長ハ直ニ其旨ヲ當選者ニ通知スヘシ

當選者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲スヘシ若シ當選ノ通知ヲ爲
シタル日ヨリ十日以内ニ承諾ノ届出ヲ爲サハルトキハ當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ

當選ヲ辭シタル者アルトキハ郡區長ハ次點者ヲ以テ當選者ト爲スヘシ

第五十二條 選舉ノ結果ハ郡區長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第五十三條 當選者ノ住所氏名ハ府縣知事ニ於テ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十四條 府縣會規則第十條第二項ニ依リ補闕員ヲ増選スルトキハ其選舉ハ正議員選舉ト同會
ニ於テ同時ニ之ヲ行フ但其投票函ハ正議員ノ投票函ト異ニスヘシ

第五十五條 一人ニシテ正議員補闕員ノ選ニ併セ當ルトキハ之ヲ正議員ト爲シ其次點者ヲ以テ補
闕員當選ト爲スヘシ

第五十六條 當選ノ査定ニ不服アル關係者ハ當選者ノ氏名告示ヨリ十日以内ニ府縣知事ニ其更正
又ハ選舉取消ノ申立ヲ爲スコトヲ得府縣知事ノ判定ニ服セサル者ハ二十日以内ニ控訴院ニ出訴
スルコトヲ得但其判決ハ終審トス

第五十七條 當選者確定ノ後其當選者ノ被選舉權ヲ有セザリシコトヲ發見スルトキハ府縣知事ハ
其當選ヲ取消シ其次點者ヲ以テ當選ト爲スヘシ但此場合ニ於テハ其事由ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十八條 選舉全會ヲ取消シ更ニ選舉ヲ命スルハ其選舉ノ選舉規定ニ違フ場合ニ限ル但規定ニ
違フ所アルモ其事ノ輕微ニシテ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セス又ハ其事ノ更正シ得ヘキモノハ取消

ノ限ニ在ラス

選舉總會ノ取消ハ府縣知事ヨリ内務大臣ニ具狀シ其認可ヲ經テ之ヲ爲スヘシ但其事由ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十九條 納税額年齢其他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其被選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ當選者ト爲リタル者又ハ其資格ヲ有セサルモ其事ヲ告ケスシテ當選者ト爲リタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其授與又ハ約束ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者モ亦同シ

第六十一條 武器又ハ兇器ヲ携帶シテ選舉會場ニ入りタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其授與又ハ約束ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十四圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十二條 投票ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ途中又ハ其他ニ於テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ選舉人ヲ脅嚇スル者又ハ選舉ニ關スル吏員若クハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪シタル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十三條 投票ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ途中又ハ其他ニ於テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ選舉人ヲ脅嚇スル者又ハ選舉ニ關スル吏員若クハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪シタル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十四條 多衆ヲ囂集シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其情ヲ知リ囂集ニ應シタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六十五條 當選者第五十九條乃至第六十四條ノ刑ニ處セラレタルトキハ其當選ハ無効トス

第六十六條 選舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲サントシ又ハ投票ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 選舉ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第六十八條 府縣會規則第十五條第十七條第十八條第十九條其他本規則ニ抵觸スル規定ハ總テ之ヲ廢止ス

附則

明治二十二年ニ於テハ府縣知事ハ本規則規定ノ時期ニ拘ハラズ選舉人名原簿及ヒ人名簿ヲ調製セシメ規定ノ時期ニ至リ仍ホ之ヲ訂正セシムヘシ

前項ノ名簿調製前議員ノ選舉ヲ要スル府縣ニ於テハ舊名簿ヲ用ユルコトヲ得ト雖モ其他ハ總テ本規則ニ依ルヘシ

島司ヲ置キタル地ニ於テハ郡長ノ事務ハ島司ニ於テ之ヲ行フヘシ

○ 朕市制施行ニ付府縣會議員ノ選舉及市公民ノ資格ニ關スル條件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年二月二十六日

内閣總理大臣伯爵黒田清隆
内務大臣伯爵松方正義
大藏大臣伯爵松方正義

法律第七號(官報二月二十八日)

第一條 市制ヲ施行スルモ府縣會議員ハ之ヲ改選セス

第二條 郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ市制ヲ施行スルモ府縣會議員選舉ノ區域及區部會郡部會ニ係ル規定並區部議員ノ數ハ總テ從前ノ通タルヘシ但區部ハ改テ市部ト稱スヘシ

區ノ區域ヲ變更シテ市ト爲スニ因リ議員ノ數ヲ増減スヘキトキハ府縣會ノ議決ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得此場合ニ於テ其退職スヘキ議員ハ抽籤ヲ以テ定メ其増加スヘキ議員ハ新ニ選舉スヘシ

第三條 郡内ノ市街ニ市制ヲ施行スル場合ニ於テモ府縣會議員選舉ノ區域ハ之ヲ變更セス其選舉事務ハ郡長ニ於テ之ヲ管理シ選舉ニ關スル費用ハ郡役所經費ヲ以テ支辨スヘシ

第四條 郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ於テ從來地方稅ヲ以テ支辨シタル事業ニシテ市ノ事業ニ屬スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ以テ市ニ引繼クヘシ

第五條 郡部ト經濟ヲ異ニセサル區ニ市制ヲ施行シ又ハ町村ニ市制ヲ施行シ若クハ町村ヲ區ニ合併シテ市制ヲ施行スル場合ニ於テハ其區費又ハ町村費ヲ二年以來納メタル者ヲ市制第七條ノ市ノ負擔分任者ト看做スヘシ

郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ市制ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣會ノ議決ヲ以テ區部地方稅中專ラ區ノ費用ニ支出シタルモノヲ區分シ其區分シタル稅金ヲ二年以來納メタル者ヲ市制第七條ノ市ノ負擔分任者ト看做スヘシ其區分シタル稅金ノ外區費ヲ納メタル者アルトキハ其金額ヲ併算スヘシ

朕官立府縣立師範學校卒業生ノ徵兵ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年三月六日

内閣總理大臣伯爵黒田清隆
陸軍大臣伯爵大山 巖

法律第八號(官報三月七日)

官立府縣立師範學校生徒ニシテ明治二十二年中ニ卒業スル者ハ徵兵令第四十一條ニ據ラス直ニ官立公立學校ノ教員ト爲ルコトヲ得其教員ト爲リタル者ハ同令第二十七條ニ據リ處分スヘシ

朕國稅徵收法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年三月十三日

内閣總理大臣伯爵黒田清隆
大藏大臣伯爵松方正義

法律第九號(官報三月十四日)

國稅徵收法

第一章 總則

第一條 國稅ハ關稅ヲ除ク外總テ此法律ニ據テ之ヲ徵收ス

第二條 市町村ハ其市町村内ノ地租ヲ徵收シ之ヲ金庫ニ納付スルノ義務アルモノトス

明治二十二年三月 法律 第八號 第九號

前項ノ事務ニ關スル費用ハ市町村ノ負擔トス

第三條 其他ノ國稅ハ勅令ヲ以テ命スルトキハ前條ノ例ニ依ル

前項ノ場合ニ於テハ徵收金額ノ百分ノ四ヲ共市町村ニ交付スヘシ

第四條 市町村ハ過誤怠慢ニ依リ其徵收シタル稅金ヲ亡失シタルトキハ之ヲ辨償スルノ責ニ任スヘシ

第五條 市町村ハ避クヘカラサル變災ニ罹リ其徵收シタル稅金ヲ亡失シタルトキハ府縣知事ヲ經テ其責任ノ免除ヲ大藏大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六條 納稅人納期限ヲ過キ國稅ヲ完納セサルトキハ別ニ定ムル所ノ法律ニ據リ之ヲ處分ス

第七條 國稅納期ノ末日日曜日又ハ大祭日祝日ニ當ルトキハ其翌日ヲ以テ納期ノ末日トス

第二章 徵收

第八條 地租及勅令ニ依リ市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ヲ徵收スルトキハ府縣知事ハ市ニ郡長ハ町村ニ對シ徵稅令書ヲ發スヘシ

前項外ノ國稅ヲ徵收スルトキハ市ニ於テハ府縣知事町村ニ於テハ郡長ヨリ各納稅人ニ對シ徵稅令書ヲ發スヘシ

第九條 市町村長ハ徵稅令書ニ據リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ各納稅人ニ發スヘシ

第十條 納期アルモノハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外該納期ノ十五日以前納期日ニ涉ルモノハ初日ノ十五日以前ヲ云隨時收入ニ係ルモノハ其納期日ヲ定メ徵稅令書若クハ徵稅傳令書ヲ發スヘシ

第十一條 第八條第一項ノ場合ニ於テハ各納稅人ハ稅金ヲ市町村收入役ニ拂込ミ其領收證ニ市町村長ノ檢印ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ルモノトス但町村會ノ議決ヲ以テ町村長ニ收入役ノ事務ヲ委任スルコトヲ得

第八條第二項ノ場合ニ於テハ各納稅人ハ稅金ヲ金庫ニ拂込ミ其別符附領收證ヲ得之ヲ收入官吏ニ差出シ其別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ得テ其納稅義務ヲ了ルモノトス

第十二條 市町村長ハ市町村收入役ニ於テ受領シタル稅金ヲ受取之ヲ金庫ニ拂込ミ其別符附領收證ヲ得之ヲ收入官吏ニ差出シ其別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ得テ其義務ヲ了ルモノトス

第十三條 市町村長ハ納期限ヲ過キ稅金ヲ完納セサル者アルトキハ其滞納ノ稅目金額及滞納人ノ住所氏名ヲ記載シ之ヲ收入官吏ニ報告スヘシ

第十四條 納稅人他ノ負債ニ依リ身代限りノ處分ヲ受ルトキ其既ニ徵稅令書ヲ發シタルモノアルトキハ未タ其納期ニ至ラサルモ他ノ債主ニ先チ其稅金ヲ徵收スヘシ

第十五條 前條ノ場合ニ於テ負債ノ抵償物件中徵收ヲ要スル稅金ノ納期限ヨリ一箇年前ニ質入書入ト爲シタルモノアルトキハ其賣却代金ヨリ先ツ其負債金額ニ充テタル後稅金ヲ徵收スヘシ

第十六條 地方稅備蓄金市町村稅ヲ滞納シタル爲メ滞納者ノ財產ヲ賣却シタル場合ニ於テ既ニ徵稅令書ヲ發シタルモノアルトキハ國稅ヲ先取スヘシ

第三章 期滿免除

第十七條 徵稅令書若クハ徵稅傳令書ヲ發セシメテ納期限ノ翌日ヨリ起算シ滿三年ヲ經過スルトキハ納稅人ハ其義務ヲ免ル、モノトス

第十八條 納稅人法律命令ヲ犯シ脫稅ヲナシタル場合ニ於テ其公訴ノ期滿免除ト爲ルトキハ其脫稅金ノ追徵モ亦同時ニ免ル、モノトス

第十九條 國稅期滿免除ノ期限内ニ於テ徵稅令書若クハ徵稅傳令書ヲ發シタルトキハ期限ノ經過

ヲ中斷スルモノトス

期滿免除ノ期限ノ經過ヲ中斷シタルトキハ更ニ其翌日ヨリ期限ヲ起算スヘシ但前後ノ日數ヲ通算シ滿五年ヲ過ルコトヲ得ス

第四章 附則

第二十條 市制町村制ノ施行ニ至ラサル地方ニ於テハ此法律ニ據リ市町村ノ爲スヘキ職務ハ區戶長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第二十一條 此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ施行ス但沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ニハ當分ニ之ヲ施行セズ

朕藥品營業並藥品取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年三月十五日

内閣總理大臣 伯爵 黑田清隆
内務大臣 伯爵 松方正義

法律第十號 (會 第三十六號)

藥品營業並藥品取扱規則

第一章 藥劑師

第一條 藥劑師トハ藥局ヲ開設シ醫師ノ處方箋ニ據リ藥劑ヲ調合スル者ヲ云フ

藥劑師ハ藥品ノ製造及販賣ヲ爲スコトヲ得

第二條 藥劑師ハ其學術試驗ヲ受ケ年齡滿二十年以上ニシテ内務大臣ヨリ藥劑師免狀ヲ得タル者

ニ限ル

第三條 藥劑師免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ内務省ニ願出ヘシ

第四條 藥劑師免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金三圓ヲ納ムヘシ

第五條 藥劑師免狀ヲ得タル者ノ氏名木籍ハ内務省ノ藥劑師名簿ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ

第六條 藥劑師免狀ヲ毀損シ失シ又ハ氏名木籍ヲ變換スル等免狀面ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シ免狀書換ヲ内務省ニ願出ヘシ

第七條 書換ノ免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金壹圓ヲ納ムヘシ

第八條 藥劑師廢業又ハ死亡シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ

第九條 藥劑師ニ非サレハ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス

第十條 藥劑師藥局ヲ開設シ又ハ閉鎖シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ

第十一條 藥劑師一人ニシテ二箇所以上ノ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス但支局ヲ設クルトキハ別ニ

藥劑師ヲ置キ之ヲ管理セシムヘシ

第十二條 藥局ニハ日本藥局方第一表ノ藥品ヲ備フヘシ

第十三條 藥局ニ備付ノ秤量器ハ最モ精確ナルヲ要シ權衡ハ少クモ一「サンチグラム」ヲ定量シ得ルモノヲ備フヘシ

第十四條 藥劑師ハ患者ノ氏名、年齢、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年月日及醫師ノ氏名ヲ自記シ又ハ調印シタル處方箋ニ據リ調劑スヘキモノトス但處方箋中疑ハシキ廉アルトキハ其醫師ニ質シ

證明書ヲ得ルニ非サレハ調劑スルコトヲ得ス

藥劑師ハ調劑録ヲ備ヘ處方箋ヲ謄寫シ置クヘシ

第十五條 處方箋ヲ受ケタルトキハ晝夜ヲ問ハス何時ニテモ調劑スヘキモノトス正當ノ事故ナク

シテ之ヲ拒ムコトヲ得ス
第十六條 處方箋中ノ藥品ニ缺乏アルトキハ其醫師ニ通知シテ指揮ヲ乞フヘシ藥劑師隨意ニ之ヲ省略シ又ハ他藥ヲ代用スルコトヲ得ス

第十七條 毒藥劇藥ノ處方箋ハ藥劑師檢印シテ處方箋ノ日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第十八條 毒藥劇藥ハ一回使用セシ處方箋ニ據リ再ヒ調劑スルコトヲ得ス但特ニ醫師ノ通知アルモノハ此限ニアラス

第十九條 患者ニ與フル藥劑ノ容器又ハ包紙ニハ處方箋ニ據リ内外用ノ別用法用量年月日患者ノ氏名藥局ノ地名及藥劑師ノ氏名ヲ記スヘシ

第二章 藥種商

第二十條 藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ云フ

第二十一條 藥種商ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二十二條 毒藥劇藥ハ衛生試驗所又ハ藥劑師製藥者ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第三章 製藥者

第二十三條 製藥者トハ單ニ藥品ヲ製造シ自製ノ藥品ヲ販賣スル者ヲ云フ

第二十四條 製藥者ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二十五條 毒藥劇藥ハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ其容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第四章 藥品取扱

第二十六條 日本藥局方ニ記載スル所ノ藥品ハ其性状、品質、該局方ノ所定ニ適合スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十七條 日本藥局方ニ記載セサル藥品ハ其據ル所ノ外國藥局方名ヲ記スヘシ其性状、品質、該局方ノ所定ニ適合シタルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

何レノ藥局方ニモ記載セサル新規ノ藥品ハ衛生試驗所ノ検査ヲ經其試驗成績ヲ記スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十八條 藥局方中特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其所定ニ從フヘシ

第二十九條 毒藥劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ

第三十條 毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其姓名、取扱、使用ノ目的、年月日及住所、氏名職業ヲ記シ且捺印シタル證書ヲ差出スニ非サレハ之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

前項ノ證書ハ其日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第三十一條 毒藥劇藥ハ前條ニ記載シタル證書アルモノ幼稚ノ者其他不安心ト認ムル者ニハ交付スヘカラス

第三十二條 毒藥劇藥ハ藥品ノ容器又ハ包紙ニ其名稱及販賣授與者ノ住所氏名ヲ記シ毒藥ハ毒字劇藥ハ劇字ヲ付記スヘシ

第三十三條 藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニ據リ患者ニ與フル藥劑ハ第三十條及第三十二條ノ手續ヲ爲スヲ要セス

第三十四條 藥劑師製種商製藥者ノ間ニ於テハ第三十條及第三十二條ニ記載シタル手續ヲ要セス

共製種商製種商製藥者タルノ證明書ヲ以テ毒藥劇藥ヲ賣買スルコトヲ得

第三十五條 毒藥劇藥ノ品目ハ内務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ假名又ハ漢字ヲ以テ其姓名ヲ記スヘシ但羅馬字母又ハ他ノ外國語ト併記スルハ妨ケナシ

第三十七條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ製造者ノ住所氏名ヲ記スヘシ其外國製ニ係ルモノハ引取人ノ住所氏名ヲ記スヘシ但藥品製造會社ニ在テハ其所在地名及會社名ヲ記スルモ妨ケナシ

第三十八條 內務大臣ハ監視員ヲシテ藥局及藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムルコトアルヘシ

第五章 罰則

第三十九條 官許ヲ得ズシテ藥劑師ノ業ヲ爲シタル者又ハ第十六條第十八條第二十二條第二十五條第二十六條第二十七條第三十條第一項ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第十一條第十四條第一項第十七條第十九條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條ニ違背シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 第六條第八條第十條第十二條第十三條第十四條第二項第十五條第二十一條第二十四條第二十八條第三十六條第三十七條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十二條 內務大臣ハ此規則實行ノ實ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布スヘシ但藥種商製藥者取締ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

附則

第四十三條 醫師ハ自ラ診療スル患者ノ處方ニ限リ第二十六條第二十七條第二十九條ニ從ヒ自宅ニ於テ藥劑ヲ調合シ販賣授與スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三十八條ノ監視ヲ受クヘシ

醫師ハ第三十四條ニ從ヒ醫師タルノ證明書ヲ以テ藥劑師藥種商製藥者ヨリ毒藥劑藥ヲ買取ルコトヲ得

第四十四條 此規則施行以前ニ於テ內務省ヨリ藥舖開業免狀ヲ受ケタル者ハ藥劑師タルノ効ヲ有

第四十五條 阿片賣買ニ關スル事項ハ明治十一年八月第二十一號布告ニ據ル

第四十六條 醫科大學藥學科ノ卒業證書ヲ有シ年齡滿二十年以上ノ者ハ其證書ヲ以テ此規則第三條ニ據リ藥劑師免狀ノ下付ヲ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ內務大臣ハ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第四十七條 此規則ハ明治二十二年三月一日ヨリ施行ス

第四十八條 明治十三年一月第一號布告藥品取扱規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

朕水利土功及學事ニ關スル會議存續ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年三月二十一日

內閣總理大臣 伯爵 黒田清隆
 內務大臣 伯爵 松方正義
 文部大臣 伯爵 大山 巖

法律第十一號 (官報 三月二十二日)

從來開設シタル水利土功會又ハ水利土功若クハ學事ニ關スル町村聯合會ハ明治十七年五月第十四號布告區町村會法ニ依リ又學區會ハ同法第十四條第十五條ニ準據シ市制町村制施行後ト雖モ別ニ規定ヲ設クルマテ之ヲ存續スルコトヲ得

朕市制中東京市京都市大阪市ニ特例ヲ設クルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年三月二十二日

内閣總理大臣伯爵黒田清隆
内務大臣伯爵松方正義

法律第十二號(官報三月二十二日)

第一條 東京市京都市大阪市ニ於テハ市長及助役ヲ置カス市長ノ職務ハ府知事之ヲ行ヒ助役ノ職務ハ書記官之ヲ行フ

第二條 東京市京都市大阪市ノ市參事會ハ府知事書記官及名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 東京市京都市大阪市ニ於テハ收入役書記其他ノ附屬員ヲ置カス府廳ノ官吏其職務ヲ行フ

第四條 東京市京都市大阪市ニ於テハ從來ノ區ヲ存シ每區ニ區長一名及書記ヲ置キ有給吏員ト爲シ市參事會之ヲ選任ス但書記ノ人員ハ市會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 東京市京都市大阪市ニ於テハ區長代理者ヲ置カス區長事故アルトキハ上席書記之ヲ代理ス

第六條 東京市京都市大阪市ニ於テハ府知事ハ區長ヲシテ其區内ニ關スル國ノ行政及府ノ行政並

收入役ノ事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第七條 東京市京都市大阪市ニ於テ區ノ廢置分合ヲ要スルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 東京市京都市大阪市ニ於テハ區ヲ以テ市會議員選舉區ト爲ス



朕地券廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年三月二十二日

内閣總理大臣伯爵黒田清隆
大藏大臣伯爵松方正義

法律第十三號(官報三月二十二日)

地券ヲ廢シ地租ハ土地臺帳ニ登錄シタル地價ニ依リ其記名者ヨリ之ヲ徵收ス

朕市制町村制施行地ノ所得税ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年四月二十二日

内閣總理大臣 伯爵 黒田清隆
大藏大臣 伯爵 松方正義

法律第十四號(官報四月二十三日)

市制町村制施行ノ地ニ在テハ所得税法第六條ノ屆書ハ町村ニ於テハ町村長ヲ經テ郡長ニ市ニ於テハ市長ヲ經テ府縣知事ニ之ヲ差出シ第七條第八條ノ調査委員ハ郡役所管轄内及市ニ東京市京都市大阪市の區ニ置キ其區域内ニ於テ之ヲ選舉シ第九條ノ調査委員ノ選舉人 被選舉人ノ現任ハ調査委員會設置區域内トシ第十條ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ市ニ東京市京都市大阪市の區ニ郡長ハ町村ニ若干名ノ選舉人ヲ定メ第十七條ノ區長ノ職務ハ府縣知事之ヲ行ヒ調査委員會ノ決議ニ關シ意見アルトキハ第二十條ニ依リ處分スヘシ又第十三條第十四條第十五條第二十三條ノ區長ノ職務ハ府縣知事之ヲ行フヘシ但第十五條ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ部下ノ官吏ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計検査院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年五月九日

内閣總理大臣 伯爵 黒田清隆

法律第十五號 (官報五月十日)
會計検査院法

第一章 組織

第一條 會計検査院ハ天皇ニ直隸シ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有ス

第二條 會計検査院ハ院長一員部長三員検査官十二員ヲ置キ之ヲ會計検査官トシ別ニ書記官二員
検査官補二十四員及屬若干員ヲ置ク

第三條 院長ハ勅任トシ部長ハ勅任又ハ奏任トシ検査官書記官及検査官補ハ奏任トシ屬ハ判任ト
ス

第四條 院長ハ院務ヲ總理シ部長ハ部務ヲ掌理ス
院長事故アルトキハ上席ノ部長ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第五條 會計検査院ニ三部ヲ設ケ各部部长一員検査官四員ヲ以テ検査ノ事務ヲ分掌ス
第六條 會計検査官ハ勅令ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

會計検査官ハ刑事裁判若ハ懲戒裁判ニ依ルニアラサレハ其ノ意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命
セラルノコトナシ

會計検査官ニ關ル懲戒ノ條規ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條 父子兄弟ハ同時ニ會計検査官トナルコトヲ得ス

第八條 會計検査官ハ他ノ官職ヲ兼テ及帝國議會又ハ地方議會ノ議員トナルコトヲ得ス

第九條 會計検査院ノ議事ハ總會議又ハ部會議ヲ以テ決ス總會議ハ院長ヲ以テ議長トシ部會議ハ部長ヲ以テ議長トス

第十條 左ノ場合ニ於テハ總會議ヲ以テ議決ス

一 第十五條ニ依リ上奏ヲ爲シ又ハ天皇ノ下問ニ奉答スルトキ

二 第十四條ニ依リ報告書ヲ確定スルトキ

三 第十七條ニ依リ意見ヲ陳述スルトキ

四 検査事務ノ規程計算證明ノ様式及提出ノ期限ヲ定メ又ハ之ヲ改正スルトキ

五 其ノ他院長ニ於テ總會議ニ付スルノ必要アリト認メタルトキ

第十一條 計算検査ノ判決ハ凡テ會議ニ於テス共ノ總會議ニ於テスルト部會議ニ於テスルトハ會計検査院長ノ定ムル所ニ依ル

第二章 職權

第十二條 會計検査院ハ官金ノ收支官有物及國債ニ關ル計算ヲ検査確定シテ會計ヲ監督ス

第十三條 會計検査院ノ検査ヲ要スルモノ左ノ如シ

一 總決算

二 各官廳及官立諸營造ノ收支及官有物ニ關ル決算

三 政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸營造ノ收支ニ關ル決算

四 法律勅令ニ依リ特ニ會計検査院ノ検査ニ關セラレタル決算

第十四條 會計検査院ハ憲法第七十二條ニ依リ決算ヲ検査確定スルト同時ニ左ノ諸項ニ付報告書ヲ作ルヘシ

一 總決算及各省決算報告書ノ金額ト各出納官吏ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ

二 歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用官有物ノ得有沽賣讓與及利用ハ各共ノ豫算ノ規程又ハ法律勅令ニ違フコトナキヤ否ヤ

三 豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ

第十五條 會計検査院ハ各年度ノ會計検査ノ成績ヲ上奏シ其ノ成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト認ムルトキハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得

第十六條 會計検査院ハ各官廳中一部ニ屬スル計算ノ検査及責任解除ヲ其ノ廳ニ委託スルコトヲ得但シ其ノ検査ノ成績ハ該廳ヲシテ之ヲ會計検査院ニ報告セシムヘシ

前項ノ委託ニ拘ラス會計検査院ハ時宜ニ依リ其ノ所管ノ官廳ヲシテ計算書ヲ送付セシムヘシ之カ検査ヲ行フコトアルヘシ

第十三條第三項團體及公立私立諸營造ノ決算ニ就テモ亦本條ヲ適用スルコトヲ得

第十七條 金庫ノ出納及簿記上ニ關ル各省ノ命令ニ付會計検査院ハ其ノ發布ノ前通知ヲ受ケ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

會計検査院ハ收入及支出ニ關ル規則ヲ定メ及既定ノ規則ヲ改正スル各省ノ命令ニ付其ノ發布ノ前通知ヲ受ク

第十八條 會計検査院ハ計算書及計算證明ノ様式並ニ其ノ提出及推問ニ對スル答辯ノ期限ヲ定ム

第十九條 會計検査院ハ各官廳ヲシテ検査上必要ナル簿籍及報告ヲ提出セシムヘシ及主任官吏ノ辨明

明治二十五年五月 法律 第十五號

104

書ヲ求ムルコトヲ得

會計検査院長ハ検査上必要ト認ムルトキハ主任官吏ヲ派遣シ實地検査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ本部長官ニ通知シ該長官ハ主任官吏ヲシテ検査ニ立會ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十条 會計検査院ハ出納官吏ノ計算書及證據書類ヲ検査シ正當ナリト判決シタルトキハ該官ニ對シ認可狀ヲ付シ其ノ責任ヲ解除ス若必要ナル場合ニ於テハ之ヲ推問シ辯明又ハ正誤ヲ爲サシメ仍正當ナラスト判決シタルトキハ本部長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシム

第二十一条 會計検査院ノ判決ニ據リ辨償ノ責ヲ負フ者ハ天皇ノ恩赦ニ由ルノ外本部長官之ヲ減免スルコトヲ得ス

第二十二条 出納官吏計算書及證據書ノ提出ヲ怠リ又ハ様式ヲ守ラサルトキハ會計検査院ハ本部長官ニ移牒シテ懲戒處分ヲ要求スルコトヲ得

第二十三条 政府ノ機密費ニ關ル計算ハ會計検査院ニ於テ検査ヲ行フ限ニ在ラス

第二十四条 會計検査院ハ認可狀ヲ付スルノ後ト雖共ノ付シタル日ヨリ五箇年以内ニ於テハ出納官吏ヨリ之ヲ請求スルカ又ハ計算書ノ誤謬脱漏ニ重記載アルコトヲ發見シタルトキハ再審ヲ爲スコトヲ得但シ詐偽ノ證據ヲ發見シタルトキハ五箇年後ト雖再審ヲ爲スコトヲ得

第三章 附則

第二十五条 會計検査院ノ事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

朕市制第二百二十七條及町村制第二百二十條ニ據ルル行政裁判手續ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年六月四日

内閣總理大臣 伯爵 黒田清隆
内務大臣 伯爵 松方正義
司法大臣 伯爵 山田顯義

法律第十六號 (官報 六月五日)

明治二十一年四月法律第一號市制第二百二十七條及町村制第二百二十條ニ依リ當分ノ内閣ニ於テ行フハキ行政裁判ハ現行ノ行政裁判手續ニ從ヒ控訴院ニ於テ受理審問セシメ内閣ノ裁定ヲ經テ判決ヲ言渡サシム

朕明治十七年第一號布告廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年六月十日

内閣總理大臣 伯爵 黒田清隆
内務大臣 伯爵 松方正義
司法大臣 伯爵 山田顯義

法律第十七號 (官報 六月十二日)

明治十七年第一號布告ヲ廢ス

〔參照〕第一號布告(明治十七年一月四日)
賭博犯ノ懲ハ刑法第二百六十條第二百六十一條ニ明文有之候ハトモ當分ノ内行政警察ノ功分ニ關シ東京ハ警視廳其他
ハ地方官ヲシテ別紙賭博犯處分規則ニ依リ取締懲罰ノ事ヲ行ハシム(加統略ス)

朕北海道開墾地地租地方稅免除ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年六月二十八日

内閣總理大臣 伯爵 黒田清隆
大藏大臣 伯爵 松方正義

法律第十八號(官報六月二十九日)

北海道開墾地ニシテ明治二年以後有租地トナリタル田畑及郡村宅地ハ明治二十二年ヨリ同三十一年迄特ニ地租地方稅ヲ免除ス共現ニ開墾年期中ノモノハ滿期ノ翌年ヨリ尙ホ十箇年間地租地方稅ヲ課セス

朕土地收用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年七月三十日

内閣總理大臣 伯爵 黒田清隆
内務大臣 伯爵 松方正義

法律第十九號(官報七月三十一日)

土地收用法

第一章 總則

第一條 公共ノ利益ノ爲メノ工事ニシテ必要アルトキハ此法律ノ定ムル所ニ依リ損失ヲ補償シテ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

土地ノ使用ハ三年以内ニ限ル但一年以上ニ亘リ又ハ使用ノ爲メ土地ノ形質ヲ變更スルトキ又ハ建物アル土地ハ所有者ノ請求ニ依リ之ヲ收用スヘシ

第二條 左ノ種類ノ工事ニ要スル土地ハ内閣ニ於テ公共ノ利益ニシテ必要ナルコトヲ認定シタル後此法律ヲ適用スルコトヲ得但國防上ノ工事ニ關スル認定ハ此限ニアラス

- 一 國防其他兵事ニ要スル土地
- 二 政府府縣郡市町村及公共組合ノ直接ノ公用ニ供スル土地
- 三 官立公立ノ學校病院其他學藝及慈善ノ用ニ供スル土地
- 四 鐵道電信航路標識及測候所ノ建設用地
- 五 河川溝渠ノ掘鑿道路橋梁埠頭水道及下水ノ築造用地

六 防火及水害豫防並檢疫所火葬場其他公衆ノ衛生ニ要スル土地

第三條 前條ノ工事ノ爲メ土地ヲ收用又ハ使用セントスルノ必要アルトキハ起業者ハ工事計畫書並圖面ヲ製シ地方長官ニ差出スヘシ地方長官ハ之ヲ審査シ内務大臣ニ具申シ内務大臣ハ之ヲ閣議ニ提出スヘシ

前項ノ工事政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ハ工事計畫書並圖面ヲ製シ内務大臣ト協議シ之ヲ閣議ニ提出スヘシ

第四條 内閣ニ於テ工事ヲ認定シタルトキハ官報ヲ以テ起業者及起業地並工事ノ種類ヲ公告スヘシ
國防上ノ工事ニ關シテハ主務大臣ヨリ地方長官ニ通知シ地方長官ハ其土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二章 土地收用ノ手續

第五條 工事ノ認定ヲ得タル後起業者ハ工事準備ノ爲メ其土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得

第六條 前條ノ場合ニ於テハ起業者ヨリ工事準備ノ爲メ立入ルヘキ場所及期日ヲ豫メ其地ノ市町村長及各所有者ニ通知スヘシ但準備ノ爲メニ生スル所ノ損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ
若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ市町村長一名ノ鑑定人ヲ選ビ立會ハシメ其金額ヲ定ムヘシ

第七條 工事ノ認定前起業者計畫準備ノ爲メ其土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ豫メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ヨリ豫メ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ認可ヲ爲シ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ告示シ又ハ其土地所有者及關係人

ニ通知スヘシ

起業者本條第一項ノ測量又ハ検査ヲ爲ストキハ其場所及期日ヲ各所有者ニ通知スヘシ但損失ヲ補償スルトキハ前條ノ例ニ依ル

第八條 工事ノ仕様及收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域確定シタルトキハ起業者ハ其仕様書並圖面及損失補償金額見積書ヲ所有者及關係人ニ示シ協議ヲ遂クヘシ但國防上ノ用地ニ關シテハ其區域及損失補償金額見積書ヲ示シ仕様書及圖面ヲ添フルヲ要セス

若シ協議調ハサルトキハ起業者ハ各市町村別ニ左ノ事項ヲ記載シ前項ニ掲ケタル書類ト共ニ地方長官ニ差出シ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ請フヘシ但政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ヨリ其書類ヲ地方長官ニ送付シ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ求ムヘシ

- 一 收用又ハ使用スヘキ土地ノ番號地目並隣地ノ番號地目
- 二 收用又ハ使用スヘキ土地ノ段別若シ建物木石作物等アルトキハ其建坪敷量但土地又ハ建物ニ分割ヲ來ス場合ニ於テハ其全部ノ段別建坪ヲ併セ記スヘシ
- 三 土地臺帳登記簿ニ依テ知り得ヘキ所有者及關係人ノ氏名
- 四 收用又ハ使用ノ時期
- 五 損失補償金額並其内譯但收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル建物木石作物等ノ移轉ヲ請求スルトキハ其移轉料

第九條 地方長官前條ノ書類ヲ受取リタルトキハ之ヲ市町村長ニ下付スヘシ市町村長ハ之ヲ市役所又ハ町村役場ニ備置キ十四日間公衆ノ縦覽ニ供スル旨ヲ公告スヘシ且起業者ヲシテ特ニ所有者及關係人ニ其旨ヲ通知セシムヘシ
前項ノ公告ニハ土地收用審査委員會ヲ開クヘキ場所、期日、所有者及關係人ヨリ意見書ヲ差出ス

ハキ場所ヲ記載スヘシ

第十條 收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者及關係人ハ前條公告ノ日ヨリ十四日以内ニ意見書ヲ送
出スヘシ若シ其期限ヲ過ルトキハ意見ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十一條 地方長官ハ前條公告ノ日ヨリ十四日間ヲ過キタル後土地收用審査委員會ヲ開クヘシ
土地收用審査委員會ハ仕様其他ノ手續ヲ審査シ所有者及關係人ヨリ差出レタル意見書ノ當否土
地收用又ハ使用ノ區域收用又ハ使用ノ時期並補償ノ金額ヲ裁決スヘシ
補償ノ金額ヲ裁決スルトキハ先ツ二名以上ノ鑑定人ヲ選ビ其見積書ノ當否ヲ調査セシムヘシ

第十二條 土地收用審査委員會ハ七日以内ニ裁決ヲ終リ地方長官ニ之ヲ報告スヘシ但其期限内ニ
裁決スルコトヲ得サル事由アルトキハ地方長官ノ認可ヲ經テ其期限ヲ延スコトヲ得

第十三條 地方長官土地收用審査委員會ノ裁決ノ報告ヲ受ケタルトキハ市町村長ヲシテ之ヲ起業
者及所有者並關係人ニ達セシムヘシ

第十四條 地方長官ヨリ裁決ノ違ヲ受ケタルトキハ起業者ハ補償金ヲ所有者及關係人ニ拂渡シ又
ハ地方廳ニ預置キ土地ヲ受取ルヘシ但工事仕様ニ關スル裁決ニ服セス内務大臣ニ訴願シタル場
合ハ此限ニアラス

第十五條 土地收用審査委員會ノ工事仕様ニ關スル裁決ニ服セサル者ハ裁決ノ違ヲ受ケタル日ヨ
リ七日以内ニ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得内務大臣ノ裁決ヲ終ルマテハ起業者其工事ニ著手ス
ルコトヲ得ス但内務大臣ノ裁決ハ之ヲ終密トス
補償金額ニ關スル裁決ニ服セサル者ハ裁決ノ違ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ裁判所ニ出訴ス
ルコトヲ得此場合ニ於テハ起業者其工事ノ著手ヲ猶豫セサルコトヲ得

第十六條 起業者土地ヲ受取リタルトキハ其登記ト俱ニ該土地ハ第三十五條ノ場合ニ於テ舊所有

者原價ヲ以テ買戻ノ權ヲ有スル旨ノ記入ヲ求ムヘシ

第三章 損失補償

第十七條 收用又ハ使用スヘキ土地其他ノ補償金額ハ所有者及關係人ヨシテ相當ノ價值ヲ得セシ
ムルヲ目的トシテ之ヲ定ムヘシ

第十八條 收用ノ爲メ土地ノ分割ヲ求レタル場合ニ於テ收用地ノ補償價格殘地ノ價格ヨリ高キ事
實アルカ又ハ殘地ノ價格ヲ減スヘキ事實アルトキハ併セテ其損失ヲ補償スヘシ
土地ノ一部ヲ使用スルカ爲メ殘地ノ損失ヲ求ストキハ其補償ニ付テモ亦前項ニ同シ

第十九條 收用又ハ使用ノ爲メ所有者及關係人ニ於テ新ニ道路溝渠橋梁柵柵及井等ヲ設ケサルヲ
得サル場合ニ於テハ其費用ヲ補償スヘシ

第二十條 收用ノ爲メ土地ノ分割ヲ求レ所有者ニ於テ從來該地ヲ使用セル目的ニ供スルコトヲ得
サル場合ニ於テハ其土地全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得
收用ノ爲メ建物ノ分割ヲ求ス場合ニ於テハ所有者其建物ノ全部並建物ニ屬スル土地全部ノ收用
ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條 收用又ハ使用ノ土地ニ附屬スル建物水石等ハ併セテ之ヲ收用又ハ使用シ作物ハ之ヲ
收用スヘシ但所有者ニ於テ其移轉ヲ請求スルトキハ移轉料ヲ補償スヘシ

第二十二條 所有者補償金額ヲ増サンカ爲メ故ラニ建物雜作ヲ修補シ又ハ水石作物等ヲ増加シタ
ル實績アルトキハ之ヲ補償金額中ニ算入セス所有者ヲシテ自費ヲ以テ其土地ノ收用又ハ使用ノ
日マテニ之ヲ取拂ハシムヘシ

第二十三條 土地ト建物水石作物等ト其所有者ヲ異ニスル場合又ハ借地人借家人小作人等其土地
ニ對シ特別ノ關係ヲ有スル者アル場合ニ於テハ其收用又ハ使用ニ因テ生スル損失ニレテ金額ニ

明治二十二年七月 法律 第十九號

見積ルコトヲ得ルモノニ限リ各別ニ之ヲ補償スヘシ
書入又ハ質入トナリタル土地建物ノ補償金ハ地方廳ニ預置カシメ所有者及債主連署シテ其下渡
ヲ請求スルヲ竣テ拂渡スヘシ

第二十四條 補償金ノ受取人ノ受取ルコトヲ拒ムトキハ起業者ハ之ヲ地方廳ニ預置クヘシ

第二十五條 工事ノ仕様或補償金額ノ決定ノ後起業者其土地ヲ收用又ハ使用セサル以前其工事ヲ
廢スル場合ニ於テ所有者及關係人ノカ爲メニ損失ヲ被リタルトキハ其補償金ヲ請求スルコトヲ
得收用又ハ使用ノ時期ヲ過キテ仍ホ土地ヲ收用又ハ使用セサルトキモ亦同シ

若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ第六條第二項ノ例ニ依ル

第二十六條 收用又ハ使用ノ補償金額ノ決定ニ漏レタル損失ヲ發見シタルトキハ所有者及關係人
ハ其收用又ハ使用ノ日ヨリ三箇年以内ニ其補償金ヲ請求スルコトヲ得

若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ請フヘシ

第二十七條 天災時變ニ際シ急施ヲ要スル公共ノ利益ノ爲メノ工事ハ起業者ノ申立ニ依リ郡市長
之ヲ認定シ直ニ土地ヲ收用又ハ使用セシムルコトヲ得但補償ニ關スル手續ハ執行後此法律ニ依
リ之ヲ行フヘシ

第二十八條 國防又ハ道路堤防鐵道及埠頭ノ工事ニ供スル土石砂礫ニシテ宅地外ニ在テ所有者使
用セサルモノハ此法律ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得

第四章 土地收用審査委員

第二十九條 土地收用審査委員ハ府縣會常置委員ヲ以テ之ニ充テ地方長官ヲ會長トス地方長官故
障アルトキハ上府高等官之ヲ代理ス
工事ノ仕様ヲ裁決スル場合ニ於テハ其工事ノ狀況ニ依リ專門技術家ヲ委員中ニ加フヘシ

第三十條 起業者及收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者及關係人並其父子兄弟ハ土地收用審査委
員會ノ會議ニ與カルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ府縣會常置委員ニ缺員ヲ生スルトキハ補缺員ノ中ヲ以テ補充スヘシ

第三十一條 土地收用審査委員會ノ選定スル鑑定人並第六條ノ鑑定人ハ其市町村ニ於テ土地ヲ所
有シ且前條第一項ニ觸レサル者ニ限ル

第三十二條 土地收用審査委員會ハ起業者並所有者及關係人ヲ呼出スコトヲ得

第三十三條 土地收用審査委員會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス
會議ハ多數ニ依テ決ス若シ可否ノ數相半ハスルトキハ會長之ヲ決ス

第五章 雜則

第三十四條 收用又ハ使用ノ手續ニ關スル費用土地收用審査委員會並第六條ニ於テ要スル鑑定人
ノ費用ハ總テ起業者ノ負擔トス但所有者及關係人ノ書類差出ニ關スル費用ハ總テ其自辨トス

第三十五條 起業者工事ヲ廢シ又ハ其他ノ事故ニ由リ收用シタル土地ノ全部若クハ一部不用ニ歸
シタルトキハ起業者ハ直ニ其旨ヲ舊所有者ニ通知スヘシ若シ其所在不分明ナルトキハ官報及其
地方ノ新聞紙ヲ以テ三回以上公告スヘシ

前項ノ土地ハ舊所有者原價ヲ以テ之ヲ買戻スコトヲ得

第三十六條 前條ノ通知後二箇月以内又ハ公告後六箇月以内ニ舊所有者何等ノ申込ヲ爲サハルト
キハ買戻ノ權ヲ失フモノトス

第三十七條 起業者若シ第三十五條ノ通知又ハ公告ヲ爲サシテ他人ニ土地ヲ賣却譲與シタルト
キハ舊所有者ハ現所有者ニ就テ原價ヲ以テ其土地ヲ買戻スコトヲ得

第三十八條 國防其他兵事ノ工事ノ急施ヲ要スル場合ニ於テ土地ヲ收用又ハ使用スルハ特ニ定メ

ル法律ノ條規ニ依ル

第三十九條 北海道沖繩縣ニ於テハ土地收用審査委員會ノ爲スヘキ事務ハ北海道廳長官沖繩縣知事之ヲ行フ

第四十條 市制町村制ノ施行ニ至ラサル地方ニ於テハ此法律ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ事務ハ區長之ヲ行フ

島司ヲ置キタル地ニ於テハ郡長ノ爲スヘキ事務ハ島司之ヲ行フ

第四十一條 明治八年太政官第三百三十三號違公用土地買上規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

朕特別輸出港規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セム

御名 御璽

明治二十二年七月三十日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
大藏大臣伯爵松方正義

法律第二十號 (官報七月三十一日)

特別輸出港規則

第一條 帝國臣民米麥麥粉石炭硫黃ノ五品ヲ海外ニ輸出スル爲メ左ノ諸港ヲ特別輸出港トス

一 伊勢國四日市 一 長門國下ノ關

一 筑前國博多 一 豐前國門司

一 肥前國口ノ津 一 肥前國唐津

一 肥後國三角 一 越中國伏木

一 後志國小樽

第二條 前條輸出事業ニ使用スル爲メ外國船ヲ雇入ントストキハ大藏大臣ヘ出願シ外國船雇入免狀ヲ受クヘシ

第三條 特別輸出港ニ於テ船舶ノ出入及輸出品ノ船積ニ關スル事項ハ總テ外國貿易ノ手續ニ依ルヘシ

第四條 第一條ノ輸出事業ニ使用スル船舶ハ其使用中沿海貿易ヲ爲スコトヲ得ス犯ス者ハ五百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ雇入外國船ニ在テハ尙ホ第二條ノ免狀ヲ取上クヘシ

第五條 本規則ヲ廢止シ又ハ改正スルトキハ六箇月前ニ公布スヘシ

第六條 本規則施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七條 特別輸出諸港ニ於テ本規則施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

朕郵便條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年八月七日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
遞信大臣伯爵後藤象二郎

法律第二十一號(官報八月八日)

郵便條例中左ノ通改正シ明治二十二年十月一日ヨリ施行ス

第一條中

四 書籍、帳簿、各種ノ印刷物、寫眞、書畫、繪圖、野紙、營業品ノ見木及彫形、農産物種子
第十四條 營業品ノ見木及彫形ハ一箇ノ重量百匁ニ超過スヘカラス
第十七條中

- 第三種郵便物 (一號一箇重量十六匁毎ニ十六匁未滿亦同シ) 五匁
- (二號又ハ三箇以上ニ重量十六匁毎ニ十六匁未滿亦同シ) 一匁
- 第四種郵便物 重量三十匁毎ニ三十匁未滿亦同シ 二匁

朕地租改正以來ノ實際ニ徴シ此法律ニ指定スル府縣ノ田畑ニ限り地價低減ノ必要ヲ認メ地價ノ特別修正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十二年八月 法律 第二十一號 第二十二號

御名 御璽

明治二十二年八月二十六日

法律第二十二號(令報八月二十七日)

第一條 田畑地價ノ特別修正ヲ爲スヘキ府縣國郡及其修正地價總額左ノ如ク

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
大藏大臣伯爵松方正義

東京府

武藏

京都府

山城

丹波

丹後

大阪府

攝津

河内

泉

和歌山

相模

田地價金七百五拾三万五千五百六拾九圓九拾七錢九厘

修正地價金七百貳拾四万五千七百貳拾七圓五拾八錢三厘

田地價金貳千貳百七拾五万九千五百五拾七圓六拾三錢壹厘

修正地價金貳千三拾九万四千七百四拾四圓六拾錢

田地價金三百六拾五万八千七百七拾圓四拾七錢貳厘

修正地價金三百貳拾七万六千貳百三拾六圓八拾六錢五厘

田地價金四千貳百拾四万四千七百七拾圓五拾壹錢三厘

修正地價金三千五百貳拾万五千五百九拾貳圓九拾貳錢

田地價金七百八拾貳万六千六百四拾三圓拾九錢

修正地價金六百貳拾四万六千三百四圓四拾貳錢

神奈川縣

田地價金千五百七拾貳万五千九百四拾五圓四拾八錢貳厘

修正地價金千四百九拾七万四千六百五拾圓九拾貳錢

兵庫縣

播磨

淡路

但馬

丹波

長崎縣

肥前

登岐

對馬

新潟縣

越後

新瀉

北前

中前

東前

北前

南前

明治二十二年八月法律 第二十二號

田地價金千貳百四拾五万五千四百四拾七圓八拾壹錢四厘
修正地價金千七百七拾七万八千三百七拾貳圓八拾貳錢七厘
畑地價金五百拾五万七千九百八拾九圓七拾四錢壹厘
修正地價金四百八拾八万五千五百四拾貳圓貳拾壹錢壹厘

田地價金六千六百拾貳万九千六百八拾三圓拾壹錢四厘
修正地價金五千六百拾六万四千四百六拾壹圓七拾錢
畑地價金六百五拾五万三千四百五拾七圓六拾九錢七厘
修正地價金五百五拾六万四千九百八拾五圓貳拾錢

中前

南前

北前

東前

北前

南前

北前

東前

北前

南前

北前

四 蒲原郡
 元水澤新田村
 元遊藤村受
 元露山村外新田受
 元山口新田村
 元熊谷村受
 元熊谷村受
 元井隨村
 元小新田村
 元龜貝村
 元北場村
 元木場村
 元水場村受
 元小園村
 元金巻新田
 元曾和新田村
 元北山新田村
 元川崎與屋村
 元勘助郷屋村
 元龜郷屋村
 元大瀧村古新田
 元保古野木村
 元高山村
 元高山村受

元新田村
 元河井村
 元下郷屋村新田
 元水町村
 元原村
 元櫻林村
 元岡曾村
 元北野村
 元四船越村
 元新堀村
 元泉新村
 元松岡新田村
 元長所村
 元大新新田村
 元常野村
 元除々
 南 蒲原郡
 元四水城寺村
 元東水城寺村
 元五明村
 元新保村
 元四日町村
 元孤岡野
 元除々

田地價金五千三百七拾九万四千五百拾圓七錢壹厘
 修正地價金五千貳百拾九万四千四百九拾九圓拾九錢

元池ノ島村	元熱田村	元水澤村	元上牧村	元除ク	元頸城郡	元森木村	元日根津村	元天々崎新田	元小池村	元増澤村	元横畑村	元高柳村	元上吉野村	元青野村	元大畑村	元四岐山村	元除ク	元頸城郡	元除ク	元河野村	元八十刈古新田
-------	------	------	------	-----	------	------	-------	--------	------	------	------	------	-------	------	------	-------	-----	------	-----	------	---------

元池ノ島村	元熱田村	元水澤村	元上牧村	元除ク	元頸城郡	元森木村	元日根津村	元天々崎新田	元小池村	元増澤村	元横畑村	元高柳村	元上吉野村	元青野村	元大畑村	元四岐山村	元除ク	元頸城郡	元除ク	元河野村	元八十刈古新田
-------	------	------	------	-----	------	------	-------	--------	------	------	------	------	-------	------	------	-------	-----	------	-----	------	---------

下野	上野	下野	常陸	茨城	上野	安房	下野	武藏	武藏	埼玉
野	野	野	陸	城	野	房	野	藏	藏	玉
國	國	國	國	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣
修正地價金貳千貳拾五萬四千九百九拾四圓三拾五錢八厘	修正地價金千五百八拾九萬六千五百六圓八拾七錢	修正地價金千六百八拾九萬九千貳百七拾貳圓六拾九錢九厘	修正地價金三千貳百貳拾七萬三千四百八拾七圓四拾七錢三厘	修正地價金三千八百八拾八萬六千三百三拾四圓五拾貳錢	修正地價金三千九百七拾三萬七千四百四拾四圓四拾三錢三厘	修正地價金三千八百四萬四千三百五拾八圓九拾三錢四厘	修正地價金四萬八千九百七拾貳圓九拾錢壹厘	修正地價金四萬四千六百壹圓六拾三錢壹厘	修正地價金三千七百四拾萬三千八百貳圓六拾錢	修正地價金三千五百三拾三萬八千貳百貳拾五圓七錢四厘

大和	伊勢	伊賀	志摩	紀伊	尾張	三河	伊豆	駿河	遊江	遊江
和	勢	賀	摩	伊	張	河	豆	河	江	江
國	國	國	國	國	縣	縣	縣	縣	縣	縣
修正地價金貳千七拾七萬八千八百八拾貳圓四拾五錢四厘	修正地價金貳百七拾壹萬五拾壹圓八拾壹錢貳厘	修正地價金貳百七拾壹萬五拾壹圓八拾壹錢貳厘	修正地價金貳百七拾壹萬五拾壹圓八拾壹錢貳厘	修正地價金貳百七拾壹萬五拾壹圓八拾壹錢貳厘	修正地價金五百六拾九萬貳千貳百七拾三圓七拾八錢	修正地價金五百六拾九萬貳千貳百七拾三圓七拾八錢	修正地價金五千五百五拾八萬三千貳百八拾七圓七拾六錢	修正地價金四千六百拾八萬八千五百九拾六圓拾五錢	修正地價金三千三百九拾萬七千七百九拾壹圓九拾錢	修正地價金三千四百萬七千三百四拾四圓四拾七錢四厘

因幡國 田地價金千五百八拾壹万五千三拾七圓八拾壹錢
 修正地價金千三百拾壹万七千三拾八圓八拾八錢壹厘
 伯耆國 田地價金百拾九万八千八拾四圓三拾五錢壹厘
 修正地價金百七拾八万七千九百拾圓貳拾八錢壹厘
 島根縣 田地價金貳千貳百四拾五万三千五百五拾八圓五拾七錢五厘
 修正地價金千九百九拾三万八千五百六拾八圓九拾七錢五厘
 出雲國 田地價金四百九千七百五拾五圓五拾五錢貳厘
 修正地價金三百六拾六万六千七百七拾七圓拾七錢壹厘
 石見國 田地價金四千六百拾万四百三拾五圓拾七錢
 修正地價金四千貳拾貳万四千六百三拾九圓七拾壹錢八厘
 備前國 田地價金八百五拾六万貳千四百三圓七拾九錢八厘
 修正地價金七百四拾五万貳千九百四拾四圓貳拾八錢五厘
 備中 田地價金三千八百拾八万七千八百七拾八圓六拾八錢三厘
 修正地價金三千三百拾六万九千八百貳拾八圓七拾六錢
 美作國 田地價金八百七拾四万七千四百七拾五圓貳拾貳錢
 修正地價金七百八拾七万七千九百九拾九圓六拾四錢
 廣島縣 田地價金三千八百拾八万七千八百七拾八圓六拾八錢三厘
 修正地價金三千三百拾六万九千八百貳拾八圓七拾六錢
 安藝國 田地價金八百七拾四万七千四百七拾五圓貳拾貳錢
 修正地價金七百八拾七万七千九百九拾九圓六拾四錢
 備後國 田地價金三千八百拾八万七千八百七拾八圓六拾八錢三厘
 修正地價金三千三百拾六万九千八百貳拾八圓七拾六錢
 和歌山縣 田地價金三千八百拾八万七千八百七拾八圓六拾八錢三厘
 修正地價金三千三百拾六万九千八百貳拾八圓七拾六錢

紀伊國 田地價金貳千七百七拾四万四千四百貳拾八圓四拾三錢七厘
 修正地價金三百七拾三万貳千貳百三拾九圓八拾貳錢
 德島縣 田地價金貳百九拾四万三千八百三拾壹圓三拾錢貳厘
 修正地價金千三百貳拾八万八千八百七拾三圓五拾七錢
 阿波國 田地價金千八百八拾五万八千五百六拾六圓七拾三錢壹厘
 修正地價金八百貳拾貳万八千五百六拾貳圓四拾壹錢
 香川縣 田地價金七百三拾四万六千四百六拾六圓五拾三錢六厘
 修正地價金千貳百六拾貳万六千三百七拾圓九拾錢
 讚岐國 田地價金貳千四拾三万九千七百八拾九圓七錢四厘
 修正地價金百六拾九万五千七百六拾貳圓三拾三錢六厘
 愛媛縣 田地價金百五拾三万八千八百八拾六圓三拾六錢貳厘
 修正地價金貳千三百八拾万五千九百九拾七圓四拾六錢貳厘
 伊豫國 田地價金貳千三百八拾万五千九百九拾七圓四拾六錢貳厘
 修正地價金六百貳拾壹万五千貳拾壹圓五拾七錢
 高知縣 田地價金五百五拾三万五千九百五拾壹圓五拾八錢
 修正地價金五百五拾三万五千九百五拾壹圓五拾八錢

土佐國

田地價金千九百三拾壹万八千貳拾三圓拾三錢
修正地價金千六百三拾九万七千四百貳圓七拾九錢
畑地價金貳百九拾四万五千八百七圓八拾壹錢九厘
修正地價金貳百六拾貳万八千貳百貳拾九圓九拾四錢

福岡縣

田地價金四千三拾三万五千八百貳拾圓八拾三錢四厘

筑前國

修正地價金三千七百五拾六万貳千六拾四圓拾壹錢四厘

筑後國

畑地價金四百五拾七万六千四百三拾貳圓六拾錢壹厘

大分縣

修正地價金四百貳拾八万四千貳百九拾六圓貳拾八錢壹厘

豐後國

田地價金千六百貳拾三万四千三百貳拾壹圓拾八錢貳厘

修正地價金千三百八拾四万八千五百貳圓六拾壹錢九厘

畑地價金六百貳拾壹万六千六百八拾六圓八拾五錢七厘

修正地價金五百五拾万三千三拾圓拾壹錢五厘

佐賀縣

田地價金貳千五百拾六万五千五百拾圓貳拾貳錢七厘

修正地價金貳千三百貳拾壹万三千三拾貳圓四錢六厘

畑地價金貳百七拾五万九千八百貳拾壹圓三拾壹錢貳厘

修正地價金貳百五拾五万九千七百七圓八錢貳厘

熊本縣

肥後國

田地價金貳千九百六拾壹万四千七百三拾壹圓六拾六錢六厘

修正地價金貳千七百八万九千三百五拾四圓六拾五錢

畑地價金千三拾三万五千五百八拾九圓四拾貳錢八厘

修正地價金九百五拾四万六千九百八拾四圓四拾九錢

宮崎縣

田地價金千三百七拾八万三千八百四拾六圓五拾九錢六厘

修正地價金千五百万貳圓三拾六錢

畑地價金四百拾貳万貳千九百六拾七圓六拾錢壹厘

修正地價金二百四拾八万六拾貳圓七拾壹錢

鹿兒島縣

田地價金千九百四拾九万五千八百六圓七拾壹錢四厘

修正地價金千五百五拾八万八千五百九拾四圓三拾九錢

畑地價金千二百三拾貳万七千四百七拾六圓七拾八錢壹厘

修正地價金八百九拾万三千六圓四拾五錢

第二條 修正地價總額ニ依リ低減スヘキ市町村田畑ノ地價額ハ大藏大臣之ヲ定メ府縣知事ヲレテ
違ヒシム

第三條 此法律ニ依リ地價ヲ低減シタル田畑ノ地租ハ明治二十三年分ヨリ其修正地價ニ依リ之ヲ
徴收ス

朕國稅徵收法中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年九月二十一日

内閣總理大臣伯爵黒田清隆
大藏大臣伯爵松方正義

法律第二十三號(會報九月二十四日)

明治二十二年九月法律第九號國稅徵收法第八條左ノ通改正ス

第八條 地租及勅令ニ依リ市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ヲ徵收スルトキハ市町村ニ對シ其他ノ國稅ヲ徵收スルトキハ各納稅人ニ對シ府縣知事徵稅令書ヲ發スヘシ

朕北海道ノ内從來酒造稅則ヲ施行セサル地方ニ之ヲ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年九月二十八日

内閣總理大臣伯爵黒田清隆
大藏大臣伯爵松方正義

法律第二十四號(會報九月三十日)

北海道ノ内明治十三年九月第四十號布告酒造稅則ヲ施行セサル地方ニ本年十月一日ヨリ本則ヲ施行ス但其稅率ハ當分左ノ通定ム
酒造免許稅

明治二十二年九月 法律 第二十三號 第二十四號

酒造場一箇所ニ付

金貳拾圓

酒類造石稅

一類一石ニ付

金貳圓

二類一石ニ付

金三圓

三類一石ニ付

金四圓

稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

朕海軍軍人軍屬違警罪處分例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年十月一日

内閣總理大臣 伯爵 黑田清隆
海軍大臣 伯爵 西鄉從道

法律第二十五號 (宣稱十月二日)

海軍軍人軍屬違警罪處分例

第一條 海軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ違警罪即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲ス可シ

第二條 憲兵部若クハ警察署ニ於テ被告人ヲ留置シタルトキハ直チニ其所屬ノ長官若クハ艦船團長ニ通知ス可シ

第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ海軍常設軍法會議ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得其裁判管轄ハ海軍治罪法ニ從フ

第四條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ違警罪即決例第五條ニ記載シタル期限内ニ其理由ヲ記シタル書面ヲ即決ノ言渡ヲ爲シタル憲兵部若クハ警察署ニ差出ス可シ

第五條 憲兵部若クハ警察署ニ於テ前條ノ書面ヲ受領シタルトキハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ管轄軍法會議ノ長官ニ送致ス可シ

第六條 海軍軍法會議ニ於テ被告人ノ訊問ヲ要セサルモノト認ルトキハ書面ニ依リ其裁判ヲ爲スコトヲ得

第七條 即決ノ言渡確定シ若クハ正式裁判ノ言渡ヲ爲シタルトキハ憲兵部警察署海軍軍法會議ヨリ被告人所屬ノ長官若クハ艦長又ハ被告人所在地ノ軍法會議主理ニ其執行ヲ囑託スルコトヲ得

第八條 海軍軍法會議ノ裁判ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

朕海軍治罪法中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年十月一日

内閣總理大臣伯耆黒田清隆
海軍大臣伯耆西郷從道

法律第二十六號(官報十月二日)

海軍治罪法中左ノ通改正ス

第一條 審判ノ下ニ及ビ違警罪ノ正式裁判ノ十字ヲ增加シ第二十一條第二十二條第二十三條第二十五條第二十六條第二十七條第三十二條ニ記載シタル「重罪輕罪」ヲ「罪」ト改ム

朕屯田兵司令部ニ軍法會議ヲ設クルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年十月三日

内閣總理大臣伯耆黒田清隆
陸軍大臣伯耆大山 巖

法律第二十七號(官報十月四日)

第一條 屯田兵所在地ニ軍法會議ヲ設ケ北海道ヲ以テ其管轄ト爲シ屯田兵司令官ノ部下ニ屬スル軍人ノ犯罪ヲ審判セシム

其軍法會議ノ構成權限檢察復權特赦其他治罪ニ關スル手續ハ總テ陸軍治罪法ニ從フ

第二條 陸軍治罪法ニ於テ長官ノ職權ハ屯田兵司令官之ヲ行フ

第三條 佐官ヲ以テ判士長判士ト爲シ尉官ヲ以テ判士ト爲ストキハ屯田兵司令官其部下中ヨリ之ヲ命ヌ

其部下ニ非サル者ヲ以テ判士長判士ト爲ヌヲ要スルトキハ屯田兵司令官ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ命ヌ

第四條 陸軍檢察官ノ職務ハ屯田兵司令部副官之ヲ行フ

朕議會並議員保護ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年十一月七日

内閣總理大臣公爵三條實美
司法大臣伯爵山田顯義

法律第二十八號(官報十一月八日)

- 第一條 法律ヲ以テ組織シタル議會ニ對シ公然誹毀侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但議會ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
- 第二條 前條議會ノ議員ニ對シ其公務上ノ言論行爲ニ付公然誹毀侮辱シタル者又ハ議員ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第三條 議員其公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其言論行爲ヲ妨害シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第四條 議員ノ職ヲ辭セシムルノ目的又ハ其公務上ノ言論行爲ヲ妨害セントスル目的ヲ以テ議員ヲ脅迫シ又ハ恐喝シタル者ハ十一月以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
- 第五條 第二條第三條ノ罪ヲ犯シ因テ議員ヲ毆傷シタル者ハ刑法毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

朕敕兵令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年十一月十二日

内閣總理大臣公爵三條實美
陸軍大臣伯爵大山 巖
海軍大臣伯爵西郷從道

法律第二十九號(官報十一月十三日)

明治二十二年一月法律第一號敕兵令中左ノ通改正追加ス

第十一條第一項中割注ヲ「小學科及理科等ノ別科ヲ除ク」ト改ム

同條第三項及第四項ヲ左ノ如ク改ム

滿十七歳以上滿二十六歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立小學校ノ

教職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給トス

前項ノ現役ヲ終リタル者ハ直チニ國民兵役ニ服セシム

同條第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十六歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ抽籤ノ法ニ依ラ

ズシテ更ニ常例ノ兵役ニ服セシム但第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス

第二十一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

第十一條第一項ニ掲グル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歳迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿

二十六歳迄ニ止ミ又ハ二十六歳ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラズシテ之ヲ徵集ス

但第十一條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十一條第三項ニ依リ服役スル者ハ此限ニ在ラス

第二十九條中「其入營スル年ノ十二月一日」ノ下ニ「第十一條第三項ニ依リ服役スル者ノ現役年加ノ割注ヲ加フ」

第四十六條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第十一條第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十六歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ三日以

内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ

同條末項ノ「前項」ヲ「第二項及第三項」ト改ム

朕地租條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年十一月二十九日

内閣總理大臣公爵三條實美
大藏大臣伯爵松方正義

法律第三十號(官報十一月三十日)

地租條例中左ノ通改正シ明治二十二年十二月一日ヨリ施行ス

第一條但書ヲ左ノ如ク改ム

但本條例ニ地價ト稱スルハ土地邊帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フ

第三條第二項第二ヲ左ノ如ク改ム

第二類 池沼山林牧場原野雜種地

第四條 公立學校地、鄉村社地、墳墓地、用惡水路、溜池、堤塘、井溝、鐵道用地、禁伐林及公衆ノ用ニ供スル道路ハ地租ヲ免ス

第六條 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス

第七條 地價ハ地目變換、開墾又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキニ非サレハ之ヲ修正セズ

第十條 地目ヲ變換シ若クハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキハ地方廳ニ届出ヘシ
地目變換ノ土地ハ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十條第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十二條 第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルモノハ五年間其地價ヲ据置六年目ニ至リ之ヲ修正ス

第十三條 地租ハ土地審帳記名者ヨリ徵收ス但賣入ノ土地ハ其賣取主ニ於テ之ヲ納ムヘシ

第十三條第一項左ノ如ク改ム

有租地ヲ公立學校地、鄉村社地、墳墓地、禁伐林ト爲ストキハ其地租ハ許可又ハ命令ヲ受ケタル月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免シ用惡水路、溜池、堤塘、井溝、鐵道用地及公衆ノ用ニ供スル道路ト爲ストキハ其地租ハ工事著手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス

第十四條 地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十條第二項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十五條 荒地又ハ新開地ハ免租年定期明ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

第十六條 開墾ヲ爲セントスルトキハ地方廳ニ届出ヘシ
前項ノ開墾地ハ開墾著手ノ年ヨリ十年目ニ共成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス
十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲セントスルトキハ地方廳ニ願出缺下年期ノ許可ヲ受クヘシ

缺下年期ハ三十年以内トス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收ス
官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セン土地ハ其地價相當ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尙ホ十年以内ノ缺下年期ヲ許可ス但年期中ハ現定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸ヒシ土地ハ五十年以内ノ新開免租年期ヲ許可ス
耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル爲メ又ハ地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノハ本條第三項ニ準シ三十年以内ノ地價据置年期ヲ許可スルトコトアルヘシ

第十七條 削除

第十八條 第十六條第三項第四項第五項ノ年期明ニ至リ事業成功ニ至ラサルモノハ更ニ二十年以内ノ繼年期ヲ許可ス

第十九條 缺下年期明地價据置年期明新開免租年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正ス

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス
海嘯ノ爲メ潮水侵入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニ依リ前項ニ準據スルトコトアルヘシ

第二十一條 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ復セシ他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租繼年期ヲ定ム
其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依リ處分ス

第二十四條 川成、海成、湖水成、ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以内免租繼年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セシ他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、湖ニ歸ス

スルモノトス

第二十五條 但書ヲ左ノ如ク改ム

但發覺ノ日ヨリ三年前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十六條 第十一條ニ違犯スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ且現地目ニ依リ地價ヲ定

メ其地租ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十七條 第十條第一項第十六條第一項ニ違犯スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處

ス其開墾ノ届出ヲ爲サハルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ

三年前ニ溯ルコトヲ得ス

朕集會條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年十二月十四日

内閣總理大臣公爵三條實美
内務大臣伯爵山縣有朋

法律第三十一號(官報十二月十六日)

明治十三年四月布告第十二號集會條例中左ノ通改正ス

第七條

政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル集會ニ現役及召集中ニ係ル豫備後備ノ陸海軍軍人警察
官官立公立私立學校ノ教員生徒農業者ノ見習生ハ之ニ臨會シ又ハ其社ニ加入スルコトヲ得ス

朕國稅滯納處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年十二月二十日

内閣總理大臣公爵三條實美
大藏大臣伯爵松方正義

法律第三十二號(官報十二月二十一日)

國稅滯納處分法

第一章 總則

第一條 國稅ノ滯納ニ係ルモノハ關稅ヲ除クノ外總テ此法律ニ依テ處分ス

明治二十二年十二月 法律 第三十一號 第三十二號

第二條 國稅ヲ其納期限ヲ過キ完納セサル者アルトキハ收入官吏ヨリ督促令狀ヲ發スヘシ
督促令狀ヲ發スルトキハ手数料トシテ一通ニ付金三錢ヲ徵收スヘシ

第三條 滞納者督促令狀ヲ受タル日ヨリ五日以内ニ税金ヲ完納セサルトキハ其所有財産ヲ差押ヘ
賣却シテ之ヲ徵收スヘシ

第四條 滞納者ノ納稅義務ハ滞納處分濟ヲ以テ終ルモノトス

第五條 滞納者財産ノ價格處分費ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ差押ヲ爲スコトヲ得ス此場
合ニ於テモ亦前條ニ同シ

第六條 滞納處分費滞納税金ニ付テハ他ノ債主ニ對シ先取權アルモノトス但滞納シタル税金ノ納
期限ヨリ一箇年前ニ賣入書入ト爲シタル財産ニ付テハ此限ニ在ラス

第七條 酒類醬油造石稅ニ付滞納處分ヲ爲ストキ其課額既ニ定マリタル税金ハ未タ其納期ニ至ラ
サルモ滞納税金ト併セテ之ヲ徵收スヘシ

第八條 滞納處分費ハ左ニ掲グル費目ニシテ督促令狀手数料ヲ除クノ外實際支辨スルモノヲ云フ

第一 督促令狀手数料

第二 差押調書及賣却調書調製費

第三 滞納者又ハ其債主若クハ負債者ニ對スル通信費

第四 評價人看守人又ハ競賣人ノ給料

第五 差押物件ノ運搬保管又ハ賣却ニ要スル諸費

第六 公告費

第七 訴訟ニ要スル諸費

第九條 滞納者ニ於テ賣却決行ノ前日マテニ處分費税金ヲ完納スルトキハ其財産ノ差押ヲ解ク

第三者ヨリ滞納者ノ爲メニ前項ノ金額ヲ代納シタルトキ亦同シ

第十條 滞納處分執行ニ關シ不服アリテ出訴スル者アルモ其處分ノ執行ヲ停止セス

第十一條 收入官吏ノ收入管轄地外ニ於テ滞納處分ヲ爲スコトヲ要スルトキハ收入官吏ヨリ其處
分ヲ爲スヘキ地ノ收入官吏ニ之ヲ囑託スルコトヲ得但他ノ地方管内ニ係ルトキハ收入官吏ハ其
所屬長官ヲ經テ囑託ノ手續ヲ爲スモノトス

第二章 差押

第十二條 財產差押ヲ爲ストキハ地方長官ヨリ差押命令書ヲ發シ收入官吏ヲシテ之ヲ執行セシム
ヘシ

第十三條 財產差押ヲ爲ストキハ處分費税金ニ充ル金額ヲ目途トシ通貨ヲ先ニシ次ニ左ノ順序ニ
從ヒ其物件ノ賣却代價ヲ見積リ逐次差押ヲ爲スヘシ但第一第二第三ノ物件ハ事宜ニ依リ順序ニ
拘ハラス之ヲ差押フルコトヲ得又物件ノ分割スヘカラサルモノ及分割スレハ價值ヲ減スヘシト
認ムルモノハ其全部ヲ差押フルコトヲ得

第一 地金銀、公債證書、株券、手形、其他ノ證券

第二 農業其他營業上ノ生産物、製造物及賣品

第三 第一第二ニ掲ケサル動産及一月以内ニ收獲シ得ヘキ土地ノ生産物

第四 債主權

第五 不動産

第六 賣入書入ト爲シタル財産但質屋營業者ニ賣入シタル動産ヲ除ク

第十四條 主タル物件ノ差押ハ其物件ヨリ生スル利益又ハ生産物ニモ其効力ヲ及ボスモノトス

第十五條 滞納處分著手以前ニ裁判執行ノ爲メニ滞納者ノ財産一部ヲ差押ヘラレタル場合ニ於テハ其殘部ヲ差押フヘシ其賣却代價處分費税金ニ對シ不足ナルヘシト認ムルトキハ該裁判所ニ照會シテ其不足金額ヲ請求スヘシ

第十六條 第十三條第一第二第三ノ物件ニシテ滞納者所有ノ家屋倉庫其他滞納者所用ノ場所ニ現在スルモノハ滞納者ノ所有ニ非サル旨ヲ申告スト雖モ其證據分明ナラサルトキハ之ヲ差押フルコトヲ得

第十七條 前條ノ場合ニ於テ差押物件ノ取戻ヲ請求セントスル者ハ賣却執行ノ五日前マテニ所有主タルノ證據ヲ具ヘテ收入官吏ニ其取戻ヲ請求スヘシ

第十八條 左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第一 滞納者及其同居家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服寢具家具及廚具

第二 滞納者及其同居家族ノ人口ヲ量リ三十日間ノ生活ニ必要ナル食料及薪炭

第三 寶印

第四 祭祀ニ必要ナル物品及石碑墓地

第五 滞納者ノ家ニ必要ナル系譜日記書付類

第六 滞納者及其同居家族ノ身分ニ必要ナル制服祭服法衣

第七 勳章其他名譽ノ章票

第八 修學上必要ナル教科書器具

第九 發明ニ係ル未定ノ物品未タ發行セサル著譯書類

第十 滞納者ノ同居家族ノ財産ニシテ一箇年前ニ官簿ニ記載シタルモノ若クハ一箇年前ニ記名シタル公債證書株券手形其他ノ證券

但所得税ニ關シテハ此限ニ在ラス

第十九條 左ニ掲クル物件ハ他ニ處分費税金ヲ償フニ足ルヘキ物件存在スルトキハ滞納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲サ、ルモノトス

第一 農業ニ必要ナル器具種子肥料及牛馬並ニ其飼料

第二 職業ニ必要ナル器具及材料

第二十條 收入官吏ハ財産差押ヲ爲ヌメ滞納者ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルコトヲ得滞納者他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ物件ヲ藏匿スト思料スルトキハ收入官吏其場所ニ立入り取調ヲ爲スコトヲ得

收入官吏滞納者又ハ他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルハ日出ヨリ日没マテノ時間ニ限ルヘシ

第二十一條 收入官吏滞納者ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルトキハ滞納者若クハ同居家族他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルトキハ其所用者若クハ同居家族ヲシテ立會ハシムヘシ

滞納者又ハ所用者及其同居家族トモ不在ナルトキハ隣佑一名以上又ハ市町村若クハ警察ノ吏員ヲシテ立會ハシムヘシ

第二十二條 收入官吏ハ財産差押ヲ爲ヌニ當リ門戸倉庫房室及篋匣等ノ閉鎖シアルトキハ之ヲ開カシメ又ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得

第二十三條 收入官吏財産差押ヲ爲ストキハ差押命令書ヲ携帶シ滞納者若クハ立會人ノ求ニ依リ之ヲ示スヘシ

第二十四條 財産ヲ差押ヘタルトキハ收入官吏其差押證書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印シ其原本ヲ立會人ニ交付スヘシ

第二十五條 通告及第十三條第一ノ物件ヲ差押ヘタルトキハ封印シテ其地ノ市町村長ニ預ケ第十

三條第二以下ノ物件ヲ差押ヘタルトキハ其目錄ヲ添テ其地ノ市町村長ニ之ヲ預ケ其預リ證書ヲ取ルヘシ

第二十六條 左ノ場合ニ於テハ滞納者又ハ共同居家族ヲシテ差押物件ノ保管ヲ爲サシムルコトヲ得

第一 收入官吏ニ於テ必要ト認ムルトキ

第二 運搬ニ困難ナルトキ又ハ多額ノ運搬費ヲ要スルトキ

此場合ニ於テハ封印又ハ其他ノ方法ニ依リ差押物件タルコトヲ明ニスヘシ又必要ナル場合ニ於テハ看守人ヲ置クヘシ

第二十七條 債主權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ收入官吏ヨリ負債者ニ對シ差押ノ通知ヲ爲スヘシ

負債者前項ノ通知ヲ受ケタル後滞納者ニ對シ其義務ヲ履行シタルトキハ其履行ノ効ナキモノトス

第二十八條 不動産及船舶ヲ差押ヘタルトキハ收入官吏ハ所轄登記所ニ照會シテ差押ノ記入ヲ受クヘシ

第二十九條 質入書入ト爲シタル財産ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ收入官吏ハ差押物件、處分費、税金額及賣却執行ノ期日ヲ其債主ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ當リ其債主ニ於テ處分費税金ヲ完納シタルトキハ其差押ヲ解クヘシ

第三章 賣却

第三十條 財産差押ノ手續ヲ終リタルトキハ收入官吏ハ其翌日ヨリ三日以後五日以内ニ賣却公告ノ手續ヲ爲スヘシ

賣却ノ公告ハ左ノ場所ニ揭示シテ三日以上之ヲ爲スヘシ

第一 課税地ノ都市役所及區役所若クハ町村役場ノ揭示場

第二 物件所在ノ場所

賣却物件ノ價多額ナルカ又ハ滞納者ノ請求アルカ又ハ收入官吏必要ト認ムル場合ニ於テハ前項ニ掲グル場所ノ外近傍人民群集地ニ揭示シ又ハ其地方ノ新聞紙ニ其要件ヲ公告スルコトアルヘシ

第三十一條 差押物件ハ入札若クハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ公賣スルモノトス但法律規則ニ依リ取扱ニ制限アル物件ハ此限ニ在ラス

前項但書ノ物件及豫定總價格一圓未満ノ差押物件ハ公賣ニ付セス評價ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第三十二條 差押物件ヲ賣却セントスルトキハ收入官吏ニ於テ其物件ノ價格ヲ豫定シ之ヲ封書トシ入札若クハ競賣ノ場所ニ置クヘシ

第三十三條 賣却ハ差押物件所在ノ市町村内ニ於テ之ヲ爲スヘシ但收入官吏ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ他ノ地ニ於テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第三十四條 滞納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏雇員ハ直接ト間接ト問ハス其賣却物件ヲ買受ルコトヲ得ス

第三十五條 第十三條第一第二第三ノ物件ハ公告ノ日ヨリ十日以外第四第五第六ノ物件ハ二十日以外ニ於テ賣却ヲ爲スヘシ

第三十六條 差押物件損取シ易キモノ又ハ多額ノ保存費ヲ要スルモノ又ハ其價額ヲ著シク減少スルノ恐アルモノナルトキハ前條ノ日限ニ拘ハラズ之ヲ賣却スルコトヲ得

第三十七條 收穫前ニ差押ヘタル生産物ハ其成熟ノ後之ヲ賣却スヘシ

第三十八條 債主權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ負債者其義務ヲ認メタル後之ヲ賣却スヘシ若シ負債者其義務ヲ認メサルトキハ收入官吏ハ其差押ヲ解キ更ニ他ノ物件ヲ差押フルコトヲ得
負債者其義務ヲ認メサル場合ニ於テ他ニ差押フヘキ物件ナキトキハ收入官吏ハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十九條 不動産及船舶ノ公賣ハ入札ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十條 賣却ヲ爲スニ當リ買受人ナキカ又ハ其買受價額カ豫定價格ニ達セサルトキハ收入官吏ハ其豫定價格ノ幾分ヲ減シテ更ニ豫定價格ヲ定メ再公賣ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ尙ホ買受人ナキカ又ハ其買受價額尙ホ豫定價格ニ達セサルトキハ其豫定價格ヲ以テ其物件ヲ政府ニ買上ケ其代金ヲ處分費税金ニ充ツヘシ

第十三條但書ニ依リ差押ヘタル全部ノ物件ヲ政府ニ買上ケタル場合ニ於テ其代金ヲ處分費税金ニ充テ尙ホ殘餘アルトキハ第四十三條ニ依リテ處分スヘシ

第四十一條 賣却ヲ終リタルトキハ收入官吏ハ賣却證書ヲ製シ買受人ト共ニ署名捺印シテ其原本ヲ差納者ニ交付スヘシ買入書入ノ物件ヲ賣却シタル場合ニ於テハ其債主ニモ其原本ヲ交付スヘシ

買受人賣却證書ニ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ記載スヘシ

債主權ヲ賣却シタル場合ニ於テハ負債者ニ買受人ノ住所氏名ヲ通知スヘシ

第四十二條 賣却シタル物件登記ヲ要スルモノナルトキハ收入官吏ハ落札證書及代金完納ノ證書ヲ買受人ニ交付スヘシ

第四十三條 差押物件ノ賣却代金及差押ヘタル通貨ハ處分費税金ニ充テ尙ホ殘餘アルトキハ之ヲ

差納者ニ還付スヘシ

賣却シタル物件買入書入ト爲シタルモノナルトキハ其代金ヨリ先ツ處分費税金ヲ扣除シ次ニ其負債金額ニ充ルマテ債主ニ交付シ尙ホ殘餘アルハ之ヲ差納者ニ還付スヘシ若シ差納税金ノ納期限ヨリ一箇年前ニ買入書入ト爲シタルモノナルトキハ其代金ヨリ先ツ其負債金額ニ充ルマテ債主ニ交付シ次ニ處分費税金ヲ扣除シ尙ホ殘餘アルハ之ヲ差納者ニ還付スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ差納者ニ對シ裁判ノ執行アルトキハ其殘餘金ハ該裁判所ニ送付スヘシ

第四十四條 債主ニ交付スヘキ金額ハ賣却證書ノ原本及計算書ヲ差納者ニ交付シタル後五日ヲ經テ之ヲ交付スヘシ若シ五日以内ニ差納者ヨリ異議ヲ申立ルトキハ其事由ヲ債主ニ通知シ雙方應署ノ書面又ハ確定裁判ノ言渡書ヲ以テ其金額受取方ヲ申出タルトキハ之ヲ交付スヘシ

第四章 送達

第四十五條 差納處分ニ關シ差納者又ハ其債主若シハ負債者ニ對シ書類ヲ送達スルニハ使丁ヲ用テ之ヲ送達セシムヘシ但送達ヲ受クヘキ者遠隔ノ地ニ在ル場合ニ於テハ書留郵便ヲ以テ送達スルコトヲ得

第四十六條 使丁ハ送達書類ヲ本人ニ渡スヘシ本人不在ナルトキハ同居人ニ渡スヘシ

使丁ハ送達書類ヲ受取リタル者ヨリ領收書ヲ取リテ收入官吏ニ差出スヘシ若シ受取人領收書ヲ肥スルコト能ハサルトキハ使丁代テ之ヲ肥シ其旨ヲ附記シテ捺印セシムヘシ

第四十七條 送達ヲ爲スニ當リ本人不在ニシテ且本人ニ代リテ受取ルヘキ者アラサルトキハ送達書類ヲ其地ノ市町村長ニ渡し市町村長ハ其書類ヲ受取人ニ渡し其領收書ヲ取リテ收入官吏ニ差出スヘシ

第四十八條 市町村長ニ於テ相當ノ處置ヲ爲スモ書類ヲ受取人ニ渡スコト能ハサルトキハ公示ス

ハレ
公示ハ送達スヘキ書類ノ要旨ヲ摘記シテ之ヲ其本人所在地ノ市役所若クハ區役所若クハ町村役場ノ揭示場ニ三日間揭示スルモノトス

前項ノ揭示ヲ爲シタル日ヨリ五日ヲ經過スルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做スヘレ

第四十九條 郵便ヲ以テ書類ヲ送達スルニ當リ受取人ノ住居不分明ニシテ配達スルコト能ハサルトキハ收入官吏ハ其書類ヲ市町村長ニ送致シ市町村長ハ前二條ニ依リ處分スヘレ

第五章 罰則

第五十條 正當ノ理由ナクシテ第二十一條第一項ノ立會ニ應セサル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十一條 滯納處分ニ對シテ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ契約ヲ爲シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

差押物件ノ保管者其保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏若クハ故意ニ毀損シタル者モ亦同ノ情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虚偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各木刑ニ一等ヲ減ス

附則

第五十二條 市町村制ヲ施行セサル土地ニ在テハ市町村長ノ職務ハ區戸長之ヲ行フヘレ

第五十三條 此法律ハ明治二十三年一月一日ヨリ施行ス但沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ハ之ヲ施行セス

第五十四條 明治十年第七十九號布告及現行法令中此法律ニ抵触スル條項ハ總テ廢止ス

朕地方稅及借荒儲蓄金滯納者處分ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年十二月二十八日

内閣總理大臣 伯耆山縣有朋
內務大臣 伯耆山縣有朋
大藏大臣 伯耆松方正義

法律第三十三號(會報 十二月三十日)

地方稅及借荒儲蓄金ヲ滯納スル者ハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スヘレ但借荒儲蓄金ヨリ給與補助若クハ貸與ヲ受ル者ハ借荒儲蓄金ヲ免除スヘレ

明治二十三年十一月第五十號布告ハ廢止ス

(參照) 第五十號布告(明治二十三年十一月十二日)

本年六月第三十一號布告ヲ以テ定メタル借荒儲蓄金ヲ返納スル者ハ十年十一月第七十九號布告ニ依リ處分スヘレ但該儲蓄金ヨリ給與補助若クハ貸與ヲ受ルモノハ免除スヘレ此旨布告候

朕決斷罪ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年十二月二十八日

内閣總理大臣 伯耆山縣有朋
司法大臣 伯耆山田顯義

法律第三十四號(會報 十二月三十日)

明治二十二年十二月 法律 第三十三號 第三十四號

第一條 決闘ヲ挑ミタル者又ハ其挑ニ應シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 決闘ヲ行ハタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 決闘ニ依テ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第四條 決闘ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコトヲ約シタル者ハ證人介添人等何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五條 決闘ノ場所ヲ貸與シ又ハ供用セシメタル者ハ罰前項ニ同シ

第六條 前數條ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ其重キモノハ重キニ從テ處斷ス

法令全書 勅令

朕町村制ヲ施行セサル島嶼指定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年一月十六日

内閣總理大臣 伯耆 田中 清隆
內務大臣 伯耆 松方正義

勅令第一號(官報一月十七日)

町村制第三百二十二條ニ依リ町村制ヲ施行セサル島嶼左ノ通指定ス

東京府管下

小笠原島 伊豆七島

長崎縣管下

對馬國

島根縣管下

隱岐國

鹿兒島縣管下

大隅國大島郡

大島 徳ノ島

薩摩國川邊郡

喜界島

沖永良部島

與論島

硫黃島

黒島

竹島

口之島

臥蛇島

平島

中之島

惡石島

諏訪ノ

明治二十二年一月 勅令 第一號

瀬島 寶島

○ 朕町村制ヲ施行セサル島嶼ノ戸長以下給料旅費並浦役場費ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年一月十六日

内閣總理大臣伯爵黒田清隆
内務大臣伯爵松方正義
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第二號(官報一月十七日)

○ 町村制ヲ施行セサル島嶼ハ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ムル迄本廳府縣ニ於テ町村制施行ノ後ニ要スル戸長以下給料旅費並浦役場費ハ其町村ノ負擔トス但東京府管轄小笠原島伊豆七島ハ従前ノ通國庫ヨリ支給ス

○ 朕陸軍工兵監護補充條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年一月十六日

内閣總理大臣伯爵黒田清隆
陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第三號(官報一月十七日)

陸軍工兵監護補充條例

第一條 工兵監護ノ補充ハ現役工兵曹長工兵一等軍曹一等軍曹ハ實役中志願者ニシテ其入隊ノ日數學問卒業者ヨリ下士ニ任セラレヨリ起算シ七箇年以上現役ニ服シ所定ノ検査ニ合格シタル者ヲ以テス

第二條 陸軍省工兵局長ハ前條合格者各級中ニ於テ優劣ヲ比較シ其列序ヲ定メ工兵監護候補名簿ヲ撰シ陸軍大臣ニ呈ス可シ

陸軍大臣ハ候補名簿決定ノ後之ヲ工兵局長ニ下シ工兵局長ハ缺員アル毎ニ候補名簿ノ列序ニ從ヒ之ヲ監護ニ任ス

第三條 工兵監護ノ服役年限ハ監護ニ任シタル日ヨリ更ニ四箇年間現役ニ服セシム其役終ルトキハ入隊ノ日ヨリ起算シ十二箇年ニ滿タル者ハ其未滿ノ年月間後備役ニ服セシム

第四條 現役中疾病若クハ傷痕ニ依リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ其役ヲ免ス但入隊ノ日ヨリ起算シ十二箇年ニ滿タルトキハ後備役ニ編入ス

第五條 現役中疾病若クハ傷痕ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第六條 第四條第五條ニ當ルモノアルトキハ所屬ノ長官ヨリ工兵局長ニ移牒シ工兵局長ハ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ現役若クハ兵役ヲ免ス

第七條 現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者ハ其刑期中及逃亡中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

第八條 服役期限既ニ滿ツルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキハ其期限ヲ延ス可トアル可シ

○ 朕札幌農學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年一月十九日

内閣總理大臣伯爵黒田清隆

勅令第四號(官報一月二十一日)

明治十九年十二月 勅令第八十四號札幌農學校官制中左ノ通改正ス

第六條 教授八人奏任トス生徒ノ教授ヲ掌ル

朕東京市區改正土地建物處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年一月二十八日

内閣總理大臣伯爵黒田清隆

内務大臣伯爵松方正義

勅令第五號(官報一月二十九日)

東京市區改正土地建物處分規則

第一條 市區改正ニ要スル官有地ハ無料ニテ供用セシメ共地ニ屬スル官有ノ建物植物等ハ無料ニテ交付スヘシ但地方税ノ經濟ニ屬スルモノハ民有ニ準ス

民有地及其地ニ屬スル民有ノ建物植物又ハ官有地ニ在ル民有ノ建物植物等ハ東京府知事其所有者ト協議ノ上相當ノ代價又ハ移轉料ヲ償却スヘシ

若シ協議調ハサルトキハ雙方ヨリ評價人各一人ヲ出シ評價セシメ東京府知事之ニ意見ヲ付シ内務大臣ノ決ヲ酌ヒ之ヲ定ムヘシ

第二條 市區改正ノ爲メ民有地買上ノ場合ニ於テ一宅地ヲ爲スニ足ラサル殘餘ヲ生スルモノハ併セテ之ヲ買上クヘシ

第三條 市區改正ニ關シテ不用ニ歸シタル土地一宅地ヲ爲スニ足ルモノニシテ幾ニ公用土地買上規則又ハ本則第一條ニ依リ買上タルモノハ原價ヲ以テ特ニ舊所有者ニ拂下ヘシ若シ舊所有者ノ買受ルコトヲ欲セサルカ又ハ舊所有者ナキモノハ直ニ公賣ニ付スヘシ

前項ノ土地一宅地ヲ爲スニ足ラサルモノハ其接續地ノ所有者之ヲ買受クヘキモノトス若シ其所有者之ヲ買受ルコトヲ欲セサルトキハ東京府知事ハ第一條ニ依リ其接續地及建物植物等ヲ買上クヘシ

前條及本條ニ一宅地ト稱スルモノハ市街ノ狀況ニ依リ東京府知事之ヲ定ム

第四條 東京府知事ハ内務大臣ノ認可ヲ受テ市區改正ニ要スル土地ニ屬スル建物新築増築改築ノ制限ヲ規定シ之ヲ告示スヘシ

其制限内ト雖モ新築増築改築セント欲スル者ハ豫メ東京府知事ノ認可ヲ受クヘシ東京府知事ハ設計着手ノ都合ニ依リ之ヲ認可セサルコトヲ得

若シ之ヲ認可セサルトキハ新築増築改築者ハ其土地及其地ニ屬スル建物植物等ノ代價又ハ移轉料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其土地自己ノ所有ニアラサルトキハ通知ヲ以テ其土地賃借ノ契約ヲ解クコトヲ得

若シ制限ニ違ヒ又ハ東京府知事ノ認可ヲ受メシテ新築増築改築ヲナシタル者ハ土地買上ノ際其新築増築改築ニ係ル建物ノ代價又ハ移轉料ヲ請求スルコトヲ得ス

第五條 土地建物植物等ノ賣却代金ハ市區改正ノ費用ニ充ツヘシ

朕鐵道費補充公債條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年一月二十八日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第六號(官報一月二十九日)

鐵道費補充公債條例

第一條 鐵道費補充公債ハ神奈川縣下戸塚橫須賀間滋賀縣下大津長濱間ノ鐵道布設資金ヲ補充スルカ爲メニ證書額面貳百萬圓ヲ限リ募集スルモノトス
第二條 此公債募集ノ方法元金ノ償還年限利子歩合利子支拂期月及ヒ其他ノ事項ハ總テ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ依ル

朕陸軍現役下士上等兵再服役條例中追加改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年一月一日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第七號(官報二月二日)

明治二十一年三月勅令第十六號陸軍現役下士上等兵再服役條例中左ノ通第六條二項ヲ追加シ第九條ヲ改正ス

第六條二項

再服役中官職ヲ失ハサル禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ其刑期中ノ日數ハ再服役期限ニ算入セム
第九條 第七條第八條ニ當ル者アルトキハ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ヨリ近衛都督又ハ師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請ヒ再服役ヲ停止シ若クハ兵役ヲ免ス但近衛都督又ハ師團長及ヒ之ト同等以上ノ權アル長官ニ在テハ自カラ之ヲ處分ス

朕陸軍各兵科現役下士補充條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年一月一日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第八號 (官報二月二日)

明治二十一年三月勅令第十七號陸軍各兵科現役下士補充條例中左ノ通改正ス
 第五條 聯隊長以下之ニ在テハ大ハ下士候補名簿ヲ近衛都督又ハ師團長歩兵ハ旅團ニ呈シ同官長ヲ經テノ認可ヲ請ケ中隊ニ缺員アル毎ニ下士候補者ヲ二等軍曹ニ任ス
 第七條 陸軍教導團卒業者ヲ下士ニ任スルハ該團長共人名簿ヲ監軍ニ呈シ同官ノ認可ヲ請ケ之ヲ二等軍曹ニ任シ陸軍大臣ノ告達ニ基キ各兵隊ニ配付ス
 第十二條 第八條第九條第十條ニ當ル者アルトキハ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ヨリ近衛都督又ハ師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請ヒ現役若クハ兵役ヲ免ス但近衛都督又ハ師團長及ヒ之ト同等以上ノ權アル長官ニ在テハ自カラ之ヲ處分ス

朕北海道廳官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年二月一日

内閣總理大臣 伯爵 黒田清隆

勅令第九號 (官報二月二日)

明治十九年三月勅令第八十三號北海道廳官制中左ノ通改正ス
 第二十六條第二十七條第二十八條中「二等以下」ノ四字ヲ刪除ス
 第三十條中「第三部」ノ三字ヲ刪リ「第四部」第三部ト改ム

朕横濱正金銀行條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年二月二日

内閣總理大臣 伯爵 黒田清隆
大藏大臣 伯爵 松方正義

勅令第十號 (官報二月六日)

明治二十年七月勅令第二十九號横濱正金銀行條例中左ノ通改正シ明治二十二年六月一日ヨリ施行ス
 第十五條 横濱正金銀行取締役ハ五人以上トシ其任期ヲ一箇年トシ株主總會ニ於テ共人員ヲ定メ五十株以上ヲ所有スル株主中ニ就キ之ヲ選舉シ大藏大臣ノ認許ヲ受クヘシ其滿期ニ當リ復選セラルル者モ亦同シ
 第二十二條 横濱正金銀行ニ於テ條例定款ニ背戻スル所爲アルトキ又ハ大藏大臣ニ於テ危險ナル所爲ト認ムル事件アルトキハ大藏大臣ハ之ヲ制止シ又ハ取締役ノ改選ヲ命スルコトヲ得
 第二十三條 大藏大臣ハ特ニ監理官ヲ派遣シテ横濱正金銀行諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ

朕大日本帝國憲法ノ明文ニ依リ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院令ヲ發布ス此ノ勅令ヲ實施スルノ時期ハ朕カ更ニ命スル所ニ依ルヘシ

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

内閣總理大臣 伯爵 黒田清隆
樞密院 議長 伯爵 伊藤博文

勅令第十一號

貴族院令

第一條 貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

一 皇族

二 公侯爵

三 伯子男爵各共ノ同爵中ヨリ選舉セラレタル者

四 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者

五 各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人ヲ互選シテ勅任セラレタル者

第二條 皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ職席ニ列ス

第三條 公侯爵ヲ有スル者滿二十五歳ニ達シタルトキハ議員タルヘシ

- 外務 大 臣伯爵大隈重信
- 海軍 大 臣伯爵西郷從道
- 農商務 大 臣伯爵井上馨
- 司法 大 臣伯爵山田顯義
- 大藏大臣兼内務大臣伯爵松方正義
- 陸軍 大 臣伯爵大山 巖
- 文部 大 臣子爵森 有禮
- 逓信 大 臣子爵榎木武揚

第四條 伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿二十五歳ニ達シ各共ノ同爵ノ選ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ數ハ伯子男爵各總數ノ五分ノ一ヲ超過スヘカラス

第五條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル滿三十歳以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議員タルヘシ

第六條 各府縣ニ於テ滿三十歳以上ノ男子ニシテ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者十五人ノ中ヨリ一人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者及各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ヨリ勅任セラレタル議員ハ有爵議員ノ數ニ超過スルコトヲ得ス

第八條 貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族ノ特權ニ關ル條規ヲ議決ス

第九條 貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ判決ス其ノ判決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

第十條 議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ勅命ヲ以テ之ヲ除名スヘシ

貴族院ニ於テ懲罰ニ由リ除名スヘキ者ハ議長ヨリ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ
除名セラレタル議員ハ更ニ勅許アルニ非サレハ再ヒ議員トナルコトヲ得ス

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ勅任セララルヘシ

被選議員ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタルトキハ議員ノ任期間其ノ職ニ統クヘシ
第十二條 此ノ勅令ニ定ムルモノ、外ハ總テ議院法ノ條規ニ依ル

第十三條 將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スルトキハ貴族院ノ議決ヲ經ヘシ

朕憲法ヲ發布スルニ當リ此盛典ヲ表シ惠澤ヲ施サンカ爲ニ特ニ命シテ左ノ條項ニ依リ大赦ヲ行ハシム

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

内閣總理大臣	伯耆黒田清隆
樞密院 職	長伯爵伊藤博文
外務大臣	伯爵大隈重信
海軍大臣	伯爵西郷從道
農商務大臣	伯爵井上馨
司法大臣	伯爵山田顯義
大藏大臣兼内務大臣	伯爵松方正義
陸軍大臣	伯爵大山巖
文部大臣	伯爵森有禮
逓信大臣	伯爵榎本武揚

勅令第十二號

第一條 本令發布以前ニ於テ左ノ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ赦免ス

一 刑法第百十七條第百十九條ノ罪

二 刑法第百二十一條第百二十三條第百二十五條第百二十六條第百二十七條ノ罪

三 刑法第百二十九條第百三十條第百三十一條第百三十二條第百三十三條第百三十四條ノ罪

四 刑法第百三十六條第百三十七條第百三十八條ノ罪

五 陸軍刑法第五十條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條ノ罪

六 陸軍刑法第六十六條第六十七條ノ罪

七 陸軍刑法第六十九條第七十條第七十一條ノ罪

八 陸軍刑法第九十三條第九十四條ノ罪

九 陸軍刑法第九十九條第十條ノ罪

十 海軍刑法第五十六條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條ノ罪

十一 海軍刑法第八十六條第八十七條ノ罪

十二 海軍刑法第百一十條第百一十一條ノ罪

十三 海軍刑法第百二十六條ノ罪

十四 保安條例ノ罪

十五 集會條例ノ罪

十六 治安ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ爆發物取締規則ヲ犯ス罪

十七 新聞紙條例第二十一條第二十二條ニ違ヒ第三十條第三十一條ニ該ル罪及ヒ第三十二條ヲ

犯ス罪但第三十條ニ該ル者ノ内風俗ヲ壞亂スルカ爲メ發賣頒布ヲ禁セラレタル新聞紙ヲ發賣頒布シタル者ハ赦免セス

政治ニ關スル意思ヲ以テ同條例第一條第三條ニ違ヒ第二十七條ニ該ル罪及ヒ第十六條第十七條第十八條ニ違ヒ第二十九條ニ該ル罪

出版條例第十六條第十七條第十八條ニ違ヒ第二十七條ニ該ル罪及ヒ第二十四條ヲ犯ス罪但第二十七條ニ該ル者ノ内風俗ヲ壞亂スルカ爲メ發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖書ヲ發賣頒布シタル者ハ赦免セス

政治ニ關スル意思ヲ以テ同條例第三條ニ違ヒ第二十一條ニ該ル罪第六條第七條ニ違ヒ第二十二條第二十三條ニ該ル罪及ヒ第十五條第十九條第二十條ニ違ヒ第二十七條ニ該ル罪舊法ニ依リ處斷セラレタル罪ト雖モ其性質前條ニ記載シタル罪ト同一ナル者ハ之ヲ赦免ス

第三條 數罪俱發例ニ依リ處斷セラレタル者最重ノ罪赦免ヲ得タル場合ト雖モ他ノ罪ニ其効ヲ及ボサス

第四條 赦免ヲ得ルト雖モ既ニ徵收シタル罰金料及ヒ沒收シタル物件ハ還付セス

第五條 陸軍大臣海軍大臣司法大臣ハ木令ノ施行ニ關シ必要ノ指揮ヲ爲スコシ

朕徵兵事務條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年二月二十五日

内閣總理大臣 伯耆黒田清隆
内務大臣 伯耆松方正義
陸軍大臣 伯耆大山 巖
海軍大臣 伯耆西郷從道

勅令第十三號 (官報 二月二十七日)

徵兵事務條例

第一章 徵兵區

第一條 徵兵區ハ師管旅管及大隊區又ハ警備隊區ノ區域ニ從フ

第二條 大隊區及警備隊區ハ更ニ之ヲ徵募區ニ分ツ

第三條 徵募區ハ一郡又ハ一市ヲ以テ一區ト爲ス

一市ニシテ二大隊區ニ分屬スルモノハ各別ニ一區ト爲ス

第四條 一郡役所ヲ置クモノハ數郡ヲ併セ一區ト爲ス其島嶼ヲ置クモノ亦同シ

管内他ノ大隊區ヨリ補充ス其他ノ兵員ハ其旅管内最寄ニ一大隊區ヨリ徵集スルヲ例トシ不足スルトキハ同

近衛步兵隊及騎兵隊ノ兵員ハ各師管ヨリ其他ノ兵員ハ第一師管ヨリ徵集ス

警備隊ノ兵員ハ其警備隊區ヨリ徵集ス

海軍兵員ハ各師管内沿海及島嶼ヲ包括スル大隊區ヨリ徵集ス

第二章 徵兵官

第五條 徵兵官ハ總理徵兵官師管徵兵官旅管徵兵官大隊區徵兵官及警備隊區徵兵官トス

第六條 總理徵兵官ハ内務大臣及陸軍大臣ヲ以テ之ニ充テ全國徵兵ノ事ヲ統轄ス

第七條 師管徵兵官ハ師管內府縣毎ニ師團長及府縣知事ヲ以テ之ニ充テ師團長ヲ首座トシ其管內府縣徵兵ノ事ヲ統轄ス

第八條 旅管徵兵官ハ旅管內府縣毎ニ旅團長及府縣書記官ヲ以テ之ニ充テ旅團長ヲ首座トシ其管內府縣徵募事務ヲ執行ス

第九條 大隊區徵兵官ハ大隊區內徵募區毎ニ大隊區司令官及島司若クハ郡市長ヲ以テ之ニ充テ警備隊區徵兵官ハ警備隊司令官及島司若クハ郡長ヲ以テ之ニ充テ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ首座トシ其區內徵募準備事務ヲ執行ス

第十條 毎年徵募事務及徵募準備事務執行中ハ陸軍二等軍醫正一名並府縣徵兵參事員四名ヲ以テ旅管徵兵委員ヲ組織シ又陸軍一三三等軍醫一名並郡市徵兵參事員又ハ島嶼徵兵參事員各四名ヲ以テ大隊區徵兵委員又ハ警備隊區徵兵委員ヲ組織シ第十四條第十五條ノ事務ヲ掌ラシム

第十一條 府縣徵兵參事員ハ府縣常置委員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 郡市島嶼徵兵參事員ハ其郡市島嶼內ノ選舉ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 府縣徵兵參事員及郡市島嶼徵兵參事員ハ互ニ兼ムルヲ得ス

第十四條 陸軍二等軍醫正ハ旅管內徵兵身體檢查ノ事務ヲ掌リ陸軍一三三等軍醫ハ専ラ身體ノ檢查ニ從事ス

第十五條 府縣郡市及島嶼徵兵參事員ハ徵集延期及徵集猶豫ニ關スル事件並徵兵令第二十八條ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵兵官ニ具申スルヲ任トス但徵兵官ノ裁決ニ付可否ヲ議スルノ權ヲキモノトス

第十六條 第十條ニ掲グル徵兵委員ノ外旅團副官一名府縣屬若干名地方徵兵醫員一名ヲ以テ旅管徵兵醫務員トシ大隊區書記又ハ警備隊書記各一名島嶼附府縣屬又ハ郡市書記各一名地方徵兵醫員若干名ヲ以テ大隊區徵兵醫務員又ハ警備隊區徵兵醫務員トス

第十七條 旅團副官府縣屬大隊區書記警備隊書記島嶼附府縣屬及郡市書記ハ徵兵醫ノ庶務ニ從事ス

第十八條 地方徵兵醫員ハ府縣知事ノ選ヲ以テ之ヲ命ス陸軍醫官ノ指揮ヲ受ケ身體檢查ノ事ヲ補助ス

第三章 配賦

第十九條 毎年徵集ス可キ新兵ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 陸軍大臣ハ第十九條ノ勅令ニ基キ近衛新兵及海軍新兵ノ要員ヲ各師管ニ配賦ス

第二十一條 師團長ハ新兵ノ要員ヲ各旅管ニ旅團長ハ之ヲ各大隊區ニ大隊區司令官ハ之ヲ各徵募區ニ配賦ス

第二十二條 新兵ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 徵募準備

第二十三條 町村長ハ毎年徵兵令第二十五條ノ居書ヲ戶籍簿ニ照帳シ壯丁名簿ヲ作り三月一日迄ニ島司又ハ郡長ニ差出シ島司郡長ハ點檢ノ後之ヲ一徵募區ニ取纏メ前年假決ノ諸名簿ト共ニ大隊區徵兵醫又ハ警備隊區徵兵醫ニ提出ス可シ

第二十四條 毎年徵募準備事務執行ノトキハ各徵募區ニ大隊區徵兵醫又ハ警備隊區徵兵醫ヲ設ク

土地廣潤壯丁多數ノ徵募區ニ在テハ數箇ノ徵兵検査所ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 大隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ島司郡市長ニ協議シ徵兵署及検査所巡回日割ヲ定メ之ヲ旅管徵兵官ニ申報ス可シ

島司郡市長ハ検査ノ日時、徵兵署及検査所設置ノ場所ヲ豫メ其管内ニ告示ス可シ

第二十六條 兵役ノ適否ヲ定ムル爲メ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署及検査所ニ於テ壯丁ノ身體検査ヲ行フ其検査ハ徵兵委員ノ面前ニ於テスルモノトス

第二十七條 大隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ壯丁ノ身體検査ノ事ヲ監督シ兵種ノ選定ニ任ス

第二十八條 島司郡市長ハ徵集延期及徵集猶豫ニ關スル書類ノ調査及事實ノ審察ニ任ス

第二十九條 壯丁ノ身體検査終ルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ徵兵検査名簿徵集延期名簿及徵集猶豫名簿ヲ作ル可シ

第三十條 大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ徵集ヲ延期シ又ハ徵集ヲ猶豫ス可キモノト裁決シタルキハ各其證書ヲ附與ス

第三十一條 徵集準備事務終ルノ後大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ検査名簿其他終決ヲ受ク可キ書類ヲ取纏メ旅管徵兵官ニ差出ス可シ但徵集延期及徵集猶豫ニ屬シタル者ハ其人員ヲ旅管徵兵官ニ報告シ其名簿ハ島司郡市長之ヲ保管ス可シ

第五章 徵募

第三十二條 毎年徵募事務執行ノトキハ旅管内府縣毎ニ旅管徵兵署ヲ設ク

第三十三條 旅團長ハ府縣書記官ニ協議シ徵兵署巡回日割ヲ定メ之ヲ師管徵兵官ニ申報シ又之ヲ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ達ス可シ

府縣書記官ハ抽籤ノ日時及徵兵署設置ノ場所ヲ島司又ハ郡市長ニ達シ島司郡市長ハ豫メ之ヲ管

内ニ告示ス可シ

第三十四條 身體検査ニ合格シタル壯丁ハ徵集順序ヲ定ムル爲メ徵募區毎ニ體格ノ等級及兵種ヲ分テ旅管徵兵署ニ於テ抽籤ヲ行フ

抽籤ハ旅管徵兵委員及大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ面前ニ於テ抽籤總代人之ヲ爲スモノトス

抽籤總代人ハ籤丁ノ選ヲ以テ徵募區毎ニ二名若クハ三名ヲ出スモノトス

第三十五條 島司郡市長ハ總代人ノ抽キタル籤番號ノ順序ニ依リ抽籤名簿二本ヲ作り其一本ハ之ヲ旅管徵兵官ニ差出シ他ノ一本ハ之ヲ保管ス可シ

第三十六條 抽籤終ルトキハ旅管徵兵官ハ當籤番號ノ順序ニ從ヒ新兵徵募ノ處分ヲ爲シ其他ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ヨリ差出シタル書類ニ就キ終決ノ處分ヲ爲シ新兵名簿豫備徵員名簿免役名簿及國民兵編入名簿ヲ作ル可シ

第三十七條 旅管徵兵署ニ於テ終決ノ處分ヲ爲シタル者ニハ各其證書ヲ附與ス

第三十八條 徵募事務終ルトキハ旅團長ハ旅管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り師團長ニ差出シ又新兵名簿ヲ各隊ニ交付シ抽籤名簿及豫備徵員名簿ヲ大隊區司令官ニ交付ス可シ

近衛新兵名簿ハ近衛都督ニ海軍新兵名簿ハ鎮守府司令長官ニ送致ス可シ

免役名簿及國民兵編入名簿ハ府縣關ニ備置シ可シ

第三十九條 師團長ハ師管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り陸軍大臣ニ差出シ陸軍大臣ハ全國徵兵表ヲ作り奏上ス可シ

第六章 裁決

第四十條 裁決ハ分テ假決及終決ノ二種トス

第四十一條 假決ハ徵集延期及徵集猶豫ノ事ヲ裁決シ終決ハ新兵徵募豫備徵員及國民兵編入並免役ノ事ヲ裁決ス

第四十二條 假決ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官之ヲ爲シ終決ハ旅管徵兵官之ヲ爲ス

第四十三條 壯丁若クハ其家族ニ於テ徵兵令第二十條第二十一條第二十八條ニ關スル大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ旅管徵兵官ニ旅管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ師管徵兵官ニ師管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ總理徵兵官ニ訴願スルコトヲ得但訴願ノ爲メニ裁決ノ執行ヲ停止セム

本條ノ訴願ハ裁決書ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲ス可シ其期日ヲ過クルモノハ受理セズ

第四十四條 徵兵官ノ裁決ニ對シ訴願スル者ハ其裁決ヲ爲シタル徵兵官ニ其由ヲ届出可シ

第四十五條 第四十三條ノ訴願ヲ爲サントスル者ハ其願書ニ同徵募區内其年徵集ニ應ス可キ壯丁ノ戸主三名ノ保證書ヲ添フ可シ

第四十六條 徵兵官ノ裁決ニ對シテハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許サス

第七章 新兵

第四十七條 新兵入營期日ハ毎年十二月一日トス但疾病犯罪其他ノ事故ニ由リ十二月一日ニ入營シ難キ者ハ同月三十一日迄ニ入營セシム

警備隊諸兵及輜重輸卒ノ入營期日ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第四十八條 新兵入營ノトキハ先ツ大隊區司令部若クハ便宜ノ地ニ召集シ其人員ノ多少ニ應シ大隊區副官若クハ書記ヲシテ入營地ニ引率セシム但新兵五人未滿ナルトキハ引率セシムルヲ要セズ

近衛新兵及海軍新兵ハ人員ノ多少ニ拘ハラズ大隊區書記ヲシテ其集合地ニ引率セシメ新兵受領委員ニ交付スルモノトス但大隊區書記出發後到着シタル者ハ直ニ入營地ニ單行セシム

第四十九條 新兵入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入營ノ延期ヲ願フ者アルトキハ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ十四日以内ノ延期ヲ許ス可シ

第五十條 新兵入營前ハ轉籍ノ爲メニ所屬ノ隊籍ヲ變更セス但師團ノ諸兵ニシテ師管ヲ異ニスルトキハ此限ニ在ラス

第五十一條 新兵入營前死亡シ若クハ疾病犯罪其他ノ事故ニ由リ十二月三十一日迄ニ入營シ難キ者ト認タル者アルトキハ其徵募區ヨリ同兵種ノ豫備徵員ヲ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ徵集シ同月同日迄ニ入營セシム若シ其徵募區ヨリ徵集スルコト能ハサルトキハ大隊區内他ノ徵募區ヨリ補フ共配賦ハ各徵募區豫備徵員ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第五十二條 新兵入營前廢疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ旅團長ニ於テ兵役ヲ免ス

第五十三條 新兵入營前徵兵令第二十條ニ當ルヘキ事故ノ生スルトキハ本人ノ願ニ由リ旅團長ニ於テ徵集ヲ延期ス

其願書ニハ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ之ニ同徵募區内新兵ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ經テ旅團長ニ差出ス可シ

第五十四條 新兵入營前轉籍セントスル者ハ監視區長ニ届出可シ但監視區ヲ異ニスルトキハ轉籍後七日以内更ニ轉籍地監視區長ニ届出可シ

本條ノ届出ヲ爲サハル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十五條 新兵入營前寄留若クハ七日以上ノ旅行ヲ爲サントスル者ハ監視區長ニ届出可シ

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第八章 豫備徵員

第五十六條 豫備徵員ヲ徵集スルニハ抽籤番號ノ順序ニ從テ其配賦ノ法ハ豫備徵員ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第五十七條 豫備徵員他ノ徵募區ニ轉籍スルトキハ新舊住地徵募區最高ノ抽籤番號ヲ率トシ比例ヲ以テ相當番號ノ上位ニ列セシム

第五十八條 豫備徵員轉籍セントスルトキハ監視區長ニ届出可シ但監視區ヲ異ニスルトキハ轉籍後十四日以内更ニ轉籍地監視區長ニ届出可シ

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十九條 豫備徵員ハ徵募年ノ十二月三十一日迄ハ監視區長ノ認可ヲ受ケスレテ寄留若クハ七日以上ノ旅行ヲ爲スコトヲ得ス其期限後ニ於テハ往先ヲ詳ニシ監視區長ニ届出可シ其復歸シタルトキ亦同シ

本條ニ違背シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第九章 雜則

第六十條 徵兵令第十條ニ依リ現役ニ服セントコトヲ志願スル者ハ其願書ニ戸主若クハ家族ノ承認書ヲ添ヘ十二月一日前自己ノ服役セント欲スル軍隊又ハ鎮守府ニ届出テ許可ヲ受ケ可シ

第六十一條 前條服役ノ許可ヲ受ケタル者ハ入營前本籍地ノ市町村長ニ届出可シ

第六十二條 徵兵令第二十條ニ當ル者ハ同徵募區内其ノ年ノ徵集ニ應ス可キ壯丁ノ戸主二名ノ保證書第二十一條第一項ニ當ル者ハ學校長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ公使又ハ領事ノ證明書ヲ以テ三月一日迄ニ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ届出可シ

其願書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受ケ可キモノトス

第六十三條 徵兵令第二十六條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應セント欲スル者ハ一月三十一日迄ニ本籍地ノ島司又ハ郡市長ニ届出可シ

島司又ハ郡市長ニ差出ス願書ニハ本籍地町村長ノ與書證印ヲ受ケ可キモノトス

第六十四條 疾病傷疾或ハ犯罪等ニテ身體ノ検査ヲ受ケ難キ者及一年志願兵出願中ノ者ハ書面ヲ以テ検査當日迄ニ島司又ハ郡市長ニ届出可シ其疾病傷疾ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フ可シ

島司又ハ郡市長ニ差出ス願書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受ケ可キモノトス

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十五條 疾病傷疾或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營ニ難キ者ハ書面ヲ以テ入營當日迄ニ監視區長ヲ經テ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出可シ其疾病傷疾ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フ可シ

其願書ニハ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ可キモノトス

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十六條 徵兵署及徵兵検査所ノ諸員壯丁及抽籤總代人ノ旅費新兵入營ノ旅費、府縣郡市島嶼

徵兵參事員ノ手當金旅費、地方徵兵醫員ノ給料旅費ハ官給ス

第六十七條 現役中疾病或ハ傷疾ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ近衛都督團長又ハ鎮守府司令官ニ於テ兵役ヲ免ス共一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ豫備役ニ編入シ現役年期ヲ通シテ七箇年間服役セシム

第六十八條 現役中徵兵令第二十條ニ當ル可キ事故ノ生スルトキハ其家族ノ願ニ由リ近衛都督團長又ハ鎮守府司令官ニ於テ現役ヲ免シ豫備役ニ編入ス但現役年期ヲ通シテ七箇年間服役セ